がん診療連携拠点病院等 現況報告書 今和6年9月1日時点について記載

<u>√チェック欄に未入</u>
カなし

		134110 1 0 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	<u></u>	L	
1. 推薦区分	都道府県がん診療連携拠点病院		令和7年4月1日以降の指定更新を希望しない場合は選択してくださ	i.	~
現行の指定区分	都道府県がん診療連携拠点病院		また、その場合は推薦区分に現行の指定区分を便宜的に選択してく	(t:	~
特定機能病院の承認	承認なし	(承認あり/承認なし)			~
臨床研究中核病院の承認	承認なし	(承認あり/承認なし)			~

※推薦時点で、拠点病院等として指定を受けていない施設を推薦する場合は、G6セルで「新規指定推薦」を選択してください。

: 病院概要 1)病院名 (表紙シートの病院名を反映)	青森県立中央病院					13 14	
よみがな	あおもりけんりつちゅうおうびょうし	い ん				15	~
2)所在地等						16 17	
郵便番号	〒 030−8553					18	~
住所	青森県	青森市東達	5道2−1−1			19	~
よみがな		あおもりして	♪がしつくりみち2-1-1			20	~
電話番号(代表)	017-726-8111					21	~
FAX番号(代表)	017-726-8325					22	<i>\</i>
e-mail(代表)	KENBYO@pref.aomori.lg.jp					23	
HPアドレス 正屋ナスが / 医療圏	https://aomori-kenbyo.jp/ 青森地域					24 25	· /
所属するがん医療圏 所属する2次医療圏	青森地域					26	~
3)病床数等						27 28	
①病床数					Tæ-	29	
総数 これ 肉養症は				684	床	30	<i>V</i>
うち療養病床 うち一般病床				679	床	31 32	
				71	床	33	~
うち集中治療室(※特定集中治療室管理料を	届け出ているものに限る)			6	床	34	
②外来化学療法室				35	床	37	~
1)職員数		総職	員数(事務職員含む、常勤職員の人	数) 1230	٨	36	-
・常勤:原則として病院で定めた勤務時間 32時間以上勤務している者を常勤	の全てを勤務する者をいう。病院で定めた とし、その他は非常勤とする。	と医師の1週間	の勤務時間が、32時間未満の場合は	t.		37	
① 附件 注意 P II 内 						38 39	
①職種別内訳 ※複数の資格を有する者は、主たる業務に		非常勤		常勤		40	
		※(常勤換算	I)			41	
医師		2.85	Λ	182	Д	42	V
		0	Λ	6	Д	43	~
薬剤師		0	Λ	38	人	44	~
保健師		0.75	Λ	2	人	45	~
助産師		2.74	Λ	39	人	46	~
看護師		22.98	人	677	人	47	~
准看護師		8.44	۸	5	<u></u>	48	~
理学療法士		0	۸	29	۸	49	~
作業療法士		0.75	<u> </u>	15	<u> </u>	50	<u> </u>
<u>視能訓練士</u> 言語聴覚士		0	<u>^</u>	7	<u> </u>	51 52	
表肢装具士		0	<u>^</u>	0	1	53	- V
無科衛生士 ・		2.99	<u>, </u>	4	λ	54	~
歯科技工士		0	î.	1	λ	55	
診療放射線技師		0	\(\)	41	Д	56	
臨床検査技師		2.25	Λ	53	Д	57	~
衛生検査技師		0	Д	0	Д	58	~
臨床工学技士		0	Д	19	人	59	~
管理 栄養 士		0	Д	11	Д	60	~
栄養士		0	<u>۸</u>	0	<u>۸</u>	61	
社会福祉士 精神保健福祉士		2.99	Д Д	5	<u>Д</u>	62 63	
有伊休健備位工 公認心理師		0	λ	10	Λ	64	<u> </u>
介護福祉士		12.65	<u>Л</u>	0	Λ 	65	- V
救命救急士		0.75	۸ ۸	4	Д	66	~
※②~④については、複数の資格を持つものは、正	方にカウントする。	非常勤	7)	常勤		67 68	
②医師等の専門性に関する資格名に該当する人数 一般社団法人 日本内科学会 内科専門医	(寺について	※(常勤換算 0		6	J.	69 70	
公益社団法人 日本内科学会 内科専门医公益社団法人 日本小児科学会 小児科専門医		0	<u>Д</u>	11	<u>Д</u>	70	<i>V</i>
公益社団法人 日本小児科学会 小児科専門医公益社団法人 日本皮膚科学会 皮膚科専門医		0	<u>Д</u>	2	Λ	72	- V
公益社団法人 日本精神神経学会 精神科専門		0	λ	1	<u>Д</u>	73	-
一般社団法人 日本外科学会 外科専門医	1 122	0	<u>^</u>	16	λ	74	- V
公益社団法人 日本教科学会 整形外科等	. 門医	0	<u>Д</u>	6	λ	75	-
		0	<u>,</u>	6	λ	76	-
公益社団法人 日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫		0	<u>^</u>	1	λ	77	-
公益財団法人 日本眼科学会 眼科専門医		0	ζ	2	λ	78	
	· 耳鼻咽喉科専門医	0	<u>, </u>	3	Λ λ	79	
一般社団法人 日本耳基啉喉科頭額部外科字等		0	ζ	0	λ λ	80	
一般社団法人 日本耳鼻咽喉科頭頚部外科学会 特定非営利活動法人 日本頭頸部外科学会 頭			<u> </u>	4	Д	81	
特定非営利活動法人 日本頭頸部外科学会 頭	門医	0				a ' '	
特定非営利活動法人 日本頭頸部外科学会 頭一般社団法人 日本泌尿器科学会 泌尿器科専		0	<u>Д</u>	0	人	82	-
特定非営利活動法人 日本頭頸部外科学会 剅 一般社団法人 日本泌尿器科学会 泌尿器科専 一般社団法人 日本泌尿器科学会/日本泌尿器	内視鏡学会 泌尿器腹腔鏡技術認定医	0	λ	0	Д Д	_	\ \ \
特定非営利活動法人 日本頭頸部外科学会 頭一般社団法人 日本泌尿器科学会 泌尿器科専一般社団法人 日本泌尿器科学会/日本泌尿器 一般社団法人 日本泌尿器科学会/日本泌尿器	内視鏡学会 泌尿器腹腔鏡技術認定医 科専門医			0 2	Д Д	83	
特定非営利活動法人 日本頭頸部外科学会 頭 一般社団法人 日本泌尿器科学会 泌尿器科専 一般社団法人 日本泌尿器科学会/日本泌尿器	内視鏡学会 泌尿器腹腔鏡技術認定医 科専門医 4専門医	0	Д Д	0	Д Д Д	_	-

一般社団法人 日本核医学会 PET核医学認定医	0	Д	2	人	87	~
公益社団法人 日本麻酔科学会 麻酔科専門医	0	Д	3	1	88	-
		^		^	-	
一般財団法人 日本ペインクリニック学会 ペインクリニック専門医	0	λ	1	人	89	
一般社団法人 日本集中治療医学会 集中治療専門医	0	人	0	人	90	~
一般社団法人 日本病理学会 病理専門医	0	Λ	1	1	91	_
		^		^	4	
公益社団法人 日本臨床細胞学会 細胞診専門医	0		1	人	92	~
一般社団法人 日本臨床検査医学会 臨床検査専門医	0	<u></u>	1	<u></u>	93	~
一般社団法人 日本救急医学会 救急科専門医	0	1	6	1	94	.,
***************************************		^ .		^	-1	~
一般社団法人 日本形成外科学会 形成外科専門医	0	人	1	人	95	~
一般社団法人 日本形成外科学会 皮膚腫瘍外科指導専門医	0	λ	1	,	96	
		^		1. 	-1	
公益社団法人 日本リハビリテーション医学会 リハビリテーション科専門医	0	Д	0	人	97	~
一般社団法人 日本内科学会 総合内科専門医	0	人	20	人	98	~
一般社団法人 日本消化器病学会 消化器病専門医	0	1	8	1	99	
		^		^	4	
一般社団法人 日本循環器学会 循環器専門医	0	人	11	人	100	~
一般社団法人 日本呼吸器学会 呼吸器専門医	0	Å.	4	i.	101	_
		^		 	4	
特定非営利活動法人 日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医	0	Д	2	۸	102	~
一般社団法人 日本血液学会 血液専門医	0	人	5	人	103	~
一般社団法人 日本造血・免疫細胞療法学会 造血細胞移植認定医	0	Α	2	1	104	
		^		^	-1	
一般社団法人 日本内分泌学会・日本糖尿病学会 内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医	0	人	5	人	105	~
一般社団法人 日本神経学会 神経内科専門医	0	λ	0	人	106	~
特定非営利活動法人 日本脳神経血管内治療学会 脳血管内治療専門医	0	1		1	107	
		^	1	^	-1	
一般社団法人 日本脳卒中学会 専門医	0	人	3	人	108	~
一般社団法人 日本腎臓学会 腎臓専門医	0	,	1	,	109	~
	0	<u>, </u>	2	1	110	
一般社団法人 日本透析医学会 透析専門医	0	۸	2	^	110	
膠原病・リウマチ内科領域専門医	0	人	0	人	111	~
一般社団法人 日本リウマチ学会 リウマチ専門医	0	,	2	i.	112	~
			_	f:-	-1	
一般社団法人 日本消化器外科学会 消化器外科専門医	0	^	7	^	113	
一般社団法人 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医	0	人	5	人	114	~
一般社団法人 日本肝胆膵外科学会 高度技能指導医	0	λ	1	,	115	_
				<u>~</u>	-	
一般社団法人 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医	0	۸	0	人	116	
一般社団法人 日本大腸肛門病学会 大腸肛門病専門医	0	λ	1	人	117	~
呼吸器外科專門医合同委員会 呼吸器外科專門医	0	1	0	1.	118	
		^		^	-1	
特定非営利活動法人 日本気管食道科学会 気管食道科専門医	0	人	0	人	119	~
心臓血管外科専門医認定機構 心臓血管外科専門医	0	Α	7	Д	120	
				f.:	4	
一般社団法人 日本小児外科学会 小児外科専門医	0	۸	0	۸	121	
一般社団法人 日本乳癌学会 乳腺外科専門医	0	人	0	人	122	~
一般社団法人 日本乳癌学会 乳腺専門医	0	Д	2	i.	123	
		^		^	4	
特定非営利活動法人 日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ読影認定医師	0	人	0	人	124	~
特定非営利活動法人 日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ読影認定医師	0	λ	4	人	125	
	_	1	_	1	4	
公益社団法人 日本医学放射線学会 放射線診断専門医	0	۸	2	^	126	
公益社団法人 日本医学放射線学会 放射線治療専門医	0	人	3	人	127	~
一般社団法人 日本アレルギー学会 アレルギー専門医	0	,	2	i.	128	~
				<u>~</u>		
一般社団法人 日本感染症学会 感染症専門医	0	Д	2	人	129	~
一般社団法人 日本老年医学会 老年科専門医	0	人	0	人	130	~
公益社団法人 日本臨床腫瘍学会 腫瘍内科専門医	0	1	0	1	131	
	_	^	_	^	-1	
一般社団法人 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医	0	人	16	人	132	~
特定非営利活動法人 日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医	0	λ	1	,	133	~
111-11-11-11-11-11-11-11-11-11-11-11-11	0	1		1	134	· ·
一般社団法人 日本内分泌外科学会 内分泌外科専門医	_	^	0	^	-	
一般社団法人 日本肝臓学会 肝臓専門医	0	人	2	人	135	~
一般社団法人 日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医	0	Д	6	,	136	~
	_	^	_	1. 	-	
一般社団法人 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医	0	۸	2	۸	137	-
一般社団法人 日本糖尿病学会 糖尿病専門医	0	人	3	人	138	~
一般社団法人 日本内視鏡外科学会 呼吸器外科領域 技術認定取得者	0	1	0	1	139	_
		^		^	-1	
一般社団法人 日本内視鏡外科学会 産科婦人科領域 技術認定取得者	0	人	1	人	140	~
一般社団法人 日本内視鏡外科学会 消化器·一般外科領域 技術認定取得者	0	λ	1	人	141	~
	0	1		1	-	-
一般社団法人 日本内視鏡外科学会 泌尿器科領域 技術認定取得者	0	۸	1	<u>^</u>	142	~
特定非営利活動法人 日本緩和医療学会 緩和医療専門医	0	人	0	人	143	~
一般社団法人 日本禁煙学会 認定専門指導者	0	Å.	0	i.	144	
				 	_	
一般社団法人 日本生殖医学会 生殖医療専門医	0	^	0	^	145	
一般社団法人 日本がん・生殖医療学会 認定がん・生殖医療ナビゲーター	0	人	0	人	146	~
一般社団法人 日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医	0	Α	2	Д	147	
				 	4	
一般社団法人 日本超音波医学会 超音波専門医	0	^	0	^	148	
公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(医師)	0	Д	0	人	149	~
			0	i.	150	~
Ⅰ 一般計団法人 日本病理学会 □腔病理専門医(医師)	0	人	~	1	4	<u> </u>
一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医(医師)	0	Λ			151	
	0	Λ				
一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医(医師) 歯科医師	0	<u>J</u> A			152	
歯科医師	0	A	1]\	152 153	
歯科医師 公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(歯科医師)	0	λ		٨	153	
歯科医師	0	λ λ	1 0	Д Д	153 154	V
歯科医師 公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(歯科医師)	0	Д Д		Д Д	153	
歯科医師 公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(歯科医師)	0	λ λ		Д Д	153 154	
歯科医師 公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(歯科医師) 一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医(歯科医師) 看護師(公益社団法人日本看護協会認定)	0	λ λ	0	<u> </u>	153 154 155 156	~
歯科医師 公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(歯科医師) 一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医(歯科医師) 看護師(公益社団法人日本看護協会認定) がん看護専門看護師	0 0	٨	0	Д Д	153 154 155 156 157	<i>V</i>
歯科医師 公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(歯科医師) 一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医(歯科医師) 看護師(公益社団法人日本看護協会認定) がん看護専門看護師 精神看護専門看護師	0 0	۸ ۸	0	Д Д Д	153 154 155 156 157 158	<i>V</i>
歯科医師 公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(歯科医師) 一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医(歯科医師) 看護師(公益社団法人日本看護協会認定) がん看護専門看護師	0 0	٨	0	Д Д Д	153 154 155 156 157	<i>V</i>
歯科医師 公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(歯科医師) 一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医(歯科医師) 看護師(公益社団法人日本看護協会認定) がん看護専門看護師 精神看護専門看護師 地域看護専門看護師	0 0 0	۸ ۸	2 0 0	Д Д	153 154 155 156 157 158 159	\(\times \)
歯科医師 公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(歯科医師) 一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医(歯科医師) 看護師(公益社団法人日本看護協会認定) がん看護専門看護師 精神看護専門看護師 地域看護専門看護師 老人看護専門看護師	0 0 0 0 0	۸ ۸	2 0 0	Д Д	153 154 155 156 157 158 159	\(\times \)
歯科医師 公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(歯科医師) 一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医(歯科医師) 看護師(公益社団法人日本看護協会認定) がん看護専門看護師 精神看護専門看護師 地域看護専門看護師	0 0 0	۸ ۸	2 0 0	Д Д	153 154 155 156 157 158 159	\(\times \)
歯科医師 公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(歯科医師) 一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医(歯科医師) 看護師(公益社団法人日本看護協会認定) がん看護専門看護師 精神看護専門看護師 地域看護専門看護師 老人看護専門看護師	0 0 0 0 0	۸ ۸	2 0 0	Д Д	153 154 155 156 157 158 159	\(\times \)
歯科医師 公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(歯科医師) 一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医(歯科医師) 看護師(公益社団法人日本看護協会認定) がん看護専門看護師 精神看護専門看護師 地域看護専門看護師 老人看護専門看護師 急性・重症患者看護専門看護師 感染症看護専門看護師	0 0 0 0 0 0	۸ ۸	2 0 0 0 0	Д Д	153 154 155 156 157 158 159 160 161	V V V V V V
歯科医師 公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(歯科医師) 一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医(歯科医師) 看護師(公益社団法人日本看護協会認定) がん看護専門看護師 精神看護専門看護師 地域看護専門看護師 老人看護専門看護師 急性・重症患者看護専門看護師 感染症看護専門看護師 家族支援専門看護師	0 0 0 0 0 0	۸ ۸	2 0 0 0 0 1	Д Д	153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163	V V V V V V
歯科医師 公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(歯科医師) 一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医(歯科医師) 看護師(公益社団法人日本看護協会認定) がん看護専門看護師 精神看護専門看護師 地域看護専門看護師 老人看護専門看護師 急性・重症患者看護専門看護師 感染症看護専門看護師	0 0 0 0 0 0 0	۸ ۸	2 0 0 0 0	Д Д	153 154 155 156 157 158 159 160 161	\(\frac{\psi}{\psi} \) \(\fr
歯科医師 公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(歯科医師) 一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医(歯科医師) 看護師(公益社団法人日本看護協会認定) がん看護専門看護師 精神看護専門看護師 地域看護専門看護師 老人看護専門看護師 急性・重症患者看護専門看護師 感染症看護専門看護師 家族支援専門看護師 家族支援専門看護師 农	0 0 0 0 0 0	۸ ۸	2 0 0 0 0 1	Д Д	153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163	V V V V V V
歯科医師 公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(歯科医師) 一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医(歯科医師) 看護師(公益社団法人日本看護協会認定) がん看護専門看護師 精神看護専門看護師 地域看護専門看護師 老人看護専門看護師 急性・重症患者看護専門看護師 窓染症看護専門看護師 家族支援専門看護師 家族支援専門看護師 在宅看護専門看護師	0 0 0 0 0 0 0	۸ ۸	2 0 0 0 0 0 1 0 0 0	Д Д	153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164	V
歯科医師 公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(歯科医師) 一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医(歯科医師) 看護師(公益社団法人日本看護協会認定) がん看護専門看護師 精神看護専門看護師 地域看護専門看護師 老人看護専門看護師 念性・重症患者看護専門看護師 感染症看護専門看護師 家族支援専門看護師 在宅看護専門看護師 古位看護専門看護師 故射線看護専門看護師	0 0 0 0 0 0 0	۸ ۸	2 0 0 0 0 1 0 0 0	Д Д	153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165	V V V V V V V V V V V V V V V V V V V
歯科医師 公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(歯科医師) 一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医(歯科医師) 看護師(公益社団法人日本看護協会認定) がん看護専門看護師 精神看護専門看護師 地域看護専門看護師 老人看護専門看護師 急性・重症患者看護専門看護師 感染症看護専門看護師 家族左援専門看護師 在宅看護専門看護師 遺伝看護専門看護師	0 0 0 0 0 0 0	۸ ۸	2 0 0 0 0 0 1 0 0 0	Д Д	153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164	V
歯科医師 公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(歯科医師) 一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医(歯科医師) 看護師(公益社団法人日本看護協会認定) がん看護専門看護師 精神看護専門看護師 地域看護専門看護師 老人看護専門看護師 念性・重症患者看護専門看護師 念性・重症患者看護専門看護師 家族支援専門看護師 在在看護専門看護師 在七看護専門看護師 在七看護専門看護師 力リティカルケア認定看護師 または 救急看護認定看護師 または 集中ケア認定看護師	0 0 0 0 0 0 0	۸ ۸	2 0 0 0 0 1 0 0 0	Д Д	153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165	V V V V V V V V V V V V V V V V V V V
歯科医師 公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(歯科医師) 一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医(歯科医師) 看護師(公益社団法人日本看護協会認定) がん看護専門看護師 精神看護専門看護師 地域看護専門看護師 老人看護専門看護師 急性・重症患者看護専門看護師 感染症看護専門看護師 家族支援専門看護師 在宅看護専門看護師 古右看護専門看護師 古右看護専門看護師 古右看護専門看護師 古右看護専門看護師 古右看護専門看護師 古右看護専門看護師 古右看護専門看護師 おかけ線看護専門看護師 かりディカルケア認定看護師 または 救急看護認定看護師 または 集中ケア認定看護師	0 0 0 0 0 0 0 0 0	Д Д Д Д Д Д Д	2 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0	Д Д	153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167	V V V V V V V V V V V V V V V V V V V
歯科医師 公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(歯科医師) 一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医(歯科医師) 看護師(公益社団法人日本看護協会認定) がん看護専門看護師 精神看護専門看護師 也域看護専門看護師 老人看護専門看護師 老人看護専門看護師 念幹症看護専門看護師 家族支援専門看護師 家族支援専門看護師 なな看護専門看護師 なな看護専門看護師 なな看護専門看護師 なりなける。 ないは、ないは、ないは、ないは、ないは、ないは、ないは、ないは、ないは、ないは、	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	۸ ۸	2 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	Д Д	153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168	V V V V V V V V V V V V V V V V V V V
歯科医師 公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(歯科医師) 一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医(歯科医師) 看護師(公益社団法人日本看護協会認定) がん看護専門看護師 精神看護専門看護師 地域看護専門看護師 老人看護専門看護師 急性・重症患者看護専門看護師 急性・重症患者看護専門看護師 家染症看護専門看護師 家な支援専門看護師 な全年看護専門看護師 なりまった。 近任看護専門看護師 カ対線看護専門看護師 カリティカルケア認定看護師 カリティカルケア認定看護師 をいたは、教急看護認定看護師または、集中ケア認定看護師 緩和ケア認定看護師または、がん性疼痛看護認定看護師 がん薬物療法看護認定看護師または、がん性疼痛看護認定看護師 がん薬物療法看護認定看護師または、がん性疼痛看護認定看護師	0 0 0 0 0 0 0 0 0	Д Д Д Д Д Д Д	2 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0	Д Д	153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169	V V V V V V V V V V V V V V V V V V V
歯科医師 公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(歯科医師) 一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医(歯科医師) 看護師(公益社団法人日本看護協会認定) がん看護専門看護師 精神看護専門看護師 地域看護専門看護師 老人看護専門看護師 念性・重症患者看護専門看護師 念性・重症患者看護専門看護師 家族支援専門看護師 家族支援専門看護師 な方程護専門看護師 な方を変更を表現している。 なり、なり、なり、なり、なり、なり、なり、なり、なり、なり、なり、なり、なり、な	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	Д Д Д Д Д Д Д	2 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	Д Д	153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168	V V V V V V V V V V V V V V V V V V V
歯科医師 公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(歯科医師) 一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医(歯科医師) 看護師(公益社団法人日本看護協会認定) がん看護専門看護師 精神看護専門看護師 老人看護専門看護師 念性・重症患者看護専門看護師 念性・重症患者看護専門看護師 念性・重症患者看護専門看護師 恣染症看護専門看護師 な子優専門看護師 な対線看護専門看護師 な対線看護専門看護師 な対線看護専門看護師 な対線看護専門看護師 な対線看護専門看護師 な対線看護専門看護師 な対線看護専門看護師 な対象看護認定看護師 または 教急看護認定看護師 または 集中ケア認定看護師 または がん性疼痛看護認定看護師 または がん性疼痛看護認定看護師 をとな がんで療法看護認定看護師	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	Д Д Д Д Д Д Д Д Д	2 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	Д Д	153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170	V V V V V V V V V V V V V V V V V V V
歯科医師 公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医(歯科医師) 一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医(歯科医師) 看護師(公益社団法人日本看護協会認定) がん看護専門看護師 精神看護専門看護師 地域看護専門看護師 念性・重症患者看護専門看護師 念性・重症患者看護専門看護師 家族支援専門看護師 家族支援専門看護師 な守在看護専門看護師 古名音 古名音 古表 古表	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	Д Д Д Д Д Д Д	2 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	Д Д	153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169	V V V V V V V V V V V V V V V V V V V

## 書面製造産産業権	_ _ 感染管理認定看護師		0 人			3	人	174	ا
### 2 日本の	手術看護認定看護師		0 人			1	۸	175	
A							<u>۸</u>		-
#20	がん放射線療法看護認定看護師								-
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##	その他専門的技術・知識を有する医療従事者		非常勤			常勤			
### 1995		宁麥刘体					1		
### 1995 199		足楽剤即				_	<u>Д</u>		-
### 1923年の		薬剤師	0 人			2	λ		-
##3 アメイケットの記り場合の機能設置	12.1—12.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.		0 人			2	人	185	V
三点 及目的に関いている。	特定非営利活動法人 日本乳がん検診精度管理中央機 検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師	幾構	0 人			4	人	186	
- 伝対面と、多字物と1200年級 第799世 1 0 人 0 人 0 人 0 人 0 人 0 人 0 人 0 人 0 人 0	放射線治療品質管理機構 放射線治療品質管理士		0 人			3	Д		·
会社団組入し日本設計報告令者(日本会社のアンリング学会 製売機能がフンセラー 1 人 1 人 10 日本 10 日本会社の日本会社の日本会社の日本会社の日本会社の日本会社の日本会社の日本会社の		専門放射線技師					<u>ا</u>		-
□ 本日祖上人日本人間を中華の日本語のウンセックできませる。							<u>^</u>		
- 四社関係人 日本教育を要す会 かん成形 実際の行き主義 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1							٨.		v
公会社団及人 日本本業会会 が人気病院支養の質性保護性性		<u>'セラー</u>					٨	192	
一型性部及人 日本全産の理学会 が小生態度素育の独生 2		学養士	0 人			0	人	193	•
70 他の日本書							-		-
9 飲食者を担任の記載 2 人 2 人 9 月 日 1 人 9 月 日 1 人 9 月 日 1 人 9 月 日 1 人 9 月 日 1 人 9 月 日 1 人 9 月 日 1 人 9 月 日 1 日 1 人 9 月 日 1 日 1 人 9 月 日 1 日 1 人 9 月 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日	一般社団法人 日本生殖心理学会 かん・生殖医療等所	可心理工	0 1			U	^		
②	その他の従事者 診療録等理部門の職員		0 4			12	Å.		
の他 新聞(液産も含い液色) 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		理士							-
製師(家女士会)接着対応の百香 香業養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養養			0.75 人			4	人		·
8世界重角の設備状況 機能である	**					ਜ	(可/否)		
### 1989年代開発 参り 参り / かり 参り / かり かり 参り / かり かり かり / かり かり 参り / かり かり 参り / かり かり 参り / かり かり 参り かり 参り / かり 本 10 回帰性 (開発 令称15年1月1日 - 12月31日) 500 200 本書を 予格件数の状況 本書を 予格件数の状況 第10 同用性 (用限 令称15年1月1日 - 12月31日) 500 710 7						ચ	1.37 H7		`
医療安全養育会 あり あり (あり/なし) 年 19 回路性 (期間 今前5年1月1日~12月31日) 50 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20									
#整体性数の状況					- DOTE (777)				
書数・診療性数の状況 ・									-
思書教等(別附・令和年1月1日-12月31日) - 特別人民が任命を大名※2 - 特別人民がしの書産と教※3 - 特別人を対し、企業をと残※2 - 特別人民がしの書産と教※3 - 特別人民がしの書産と教※3 - 特別人民がしの書産と教※3 - 特別人民がしの書産と教※3 - 特別人民がしの書産と教※3 - 特別人民がしの書食と教えため、日本のがよります。 - 大田の本の大いの書きない。 1902ml 人 214 - 128	土地 シホルサの上で	<u></u>							
# 年間入廃込作。書程へ教念2	(白致・診獄) 一段の 不况								
年間入居産者屋へ製に占めらが人患者の到合 133 50 213 1800286 人 214 年間入居企業を置いてから患者数 215 1800286 人 214 年間内大学の社会者と 205 1 21	患者数等(期間:令和5年1月1日~12月31日)						人	211	
# 報酬的本が心患者経入受数33 人 315	年間入院患者延べ数※1					4002		010	v
### (1974年)	年間入院患者延べ数※1 年間入院がん患者延べ数※2						0/		
216 ※34 年間外来がしま着は、新人に表生たら病名に親注診断されたものについて計上すると、 217 ※34 年間外来がしま着は、近い (217 年) ※34 年間外来がしま着は、近い (217 年) ※34 年間外来がしま着は、近い (217 年) ※44 年) ※45 年)	年間入院患者延べ数※1 年間入院がん患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合					35.4	%	213	
### 1550 年 221	年間入院患者延べ数※1 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来がん患者延べ数※3 年間院内死亡がん患者数 ※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場6 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間外来がん患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったがん患者の延べ数を記入する。同一患	合は2件とする。入院した患者が 断されたものについて計上する 3来がん患者及び往診、巡回診	ること。 :療、健康診断、人間ト	ドック等を行い、診	療録の作成また!	35.4 190286 283 計上する。 お記載の追	У У Д	213 214 215 216	v
病理細胞診断 238 件 222	年間入院がん患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来がん患者延べ数※3 年間院内死亡がん患者数 ※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間外来がん患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったがん患者の延べ数を記入する。同一患 合、それぞれの外来患者として計上する。	合は2件とする。入院した患者が 断されたものについて計上する ま来がん患者及び往診、巡回診 者が2つ以上の診療科を受診し	ること。 :療、健康診断、人間ト	ドック等を行い、診	療録の作成また!	35.4 190286 283 計上する。 お記載の追	% Д.	213 214 215 216 216 217 218 219	
プルーブ指定について 228	年間入院患者延べ数※1 年間入院がん患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来がん患者延べ数※3 年間院内死亡がん患者数 ※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間外来がん患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったがん患者の延べ数を記入する。同一患 合、それぞれの外来患者として計上する。 検査等の実施状況 ア病理診断の件数 (期間:令和5年1月1日~12月	合は2件とする。入院した患者が 断されたものについて計上する ま来がん患者及び往診、巡回診 者が2つ以上の診療科を受診し	ること。 :療、健康診断、人間ト	ドック等を行い、診	療録の作成また!	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追 1を行った場	A A	213 214 215 216 216 217 218 219 220	
ループ指定について	年間入院患者延べ数※1 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数※3 年間外来がん患者延べ数※3 年間院内死亡がん患者数 ※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間外来がん患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったがん患者の延べ数を記入する。同一患 合、それぞれの外来患者として計上する。 検査等の実施状況 ア 病理診断の件数 (期間:令和5年1月1日~12月 病理組織診断	合は2件とする。入院した患者が 断されたものについて計上する ま来がん患者及び往診、巡回診 者が2つ以上の診療科を受診し	ること。 :療、健康診断、人間ト	ドック等を行い、診	療録の作成また!	35.4 190286 283 計上する。 よ記載の追 1を行った場	人 人	213 214 215 216 216 217 218 219 220 221	0
グルーブ指定を受けている場合、グルーブ指定の医療機関名を記入すること。グルーブ指定を受けていない場合、「指定なし」と記入すること。なお、金和7年4月1日時点でグルーブ指定の圏か合わせが変更される予定がある場合は、新旧両方のグルーブ指定先医療機関名を記入すること。がん診療連携拠点病院とグルーブ指定を受けている場合、グルーブ指定を受けている。 グルーブ指定を受けている場合、グルーブ指定を受けている。 グルーブ指定を受けている場合、グルーブ指定を受けている。 グルーブ指定を受けている場合、グルーブ指定の医療機関名を記入すること。グルーブ指定を受けていない場合、「指定なし」と記入すると。なれ、会和7年4月1日時点でグルーブ指定の圏か合わせが変更される予定がある場合は、新旧両方のグルーブ指定先医療機関名を記入すること。 治療の状況について 231	年間入院患者延べ数※1 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来が心患者延べ数※3 年間院内死亡が心患者数 ※11例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間外来が心患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったが心患者の延べ数を記入する。同一患 合、それぞれの外来患者として計上する。 検査等の実施状況 7 病理診断の件数 (期間:令和5年1月1日~12月 病理組織診断 病理細胞診断	合は2件とする。入院した患者が 断されたものについて計上する ま来がん患者及び往診、巡回診 者が2つ以上の診療科を受診し	ること。 :療、健康診断、人間ト	ドック等を行い、診	療録の作成また!	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追 ロを行った場	人 人 人 件	213 214 215 216 216 217 218 219 220 221 222 223	
こと、なお、全和7年4月1日時点でグルーブ指定の組み合わせが変更される予定がある場合は、新旧両方のグルーブ指定先医療機関名	年間入院患者延べ数※1 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外が心患者延べ数※3 年間院内死亡が心患者数 ※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 が心患者数等は、が心を主たる病名に確定診 ※3 年間外来が心患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったが心患者の延べ数を記入する。同一患 合、それぞれの外来患者として計上する。 検査等の実施状況 7 病理診断の件数 (期間:令和5年1月1日~12月 病理組織診断 病理組織診断 病理組織迅速組織顕微鏡検査	合は2件とする。入院した患者が 断されたものについて計上する ま来がん患者及び往診、巡回診 者が2つ以上の診療科を受診し	ること。 :療、健康診断、人間ト	ドック等を行い、診	療録の作成また!	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追 12を行った場 8350 2898 342	件件件件	213 214 215 216 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225	0
を記人すること。	年間入院患者延べ数※1 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来が心患者延べ数※3 年間院内死亡が心患者数 ※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間外来がん患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったがん患者の延べ数を記入する。同一患 合、それぞれの外来患者として計上する。 検査等の実施状況 ア 病理診断の件数 (期間:令和5年1月1日~12月 病理組織診断 病理組織診断 病理組織心速組織顕微鏡検査	合は2件とする。入院した患者が 制きれたものについて計上で 断されたものについて計上で がとつ以上の診療科を受診し 者が2つ以上の診療科を受診し	ること。 療、健康診断、人間ト 、、それぞれの診療科	ドック等を行い、診 けで診療録の作成	療録の作成またに または記載の追加	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追 10を行った場 8350 2898 342	人 人 人 件 件 件	213 214 215 216 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225	0
グルーブ指定を受けている場合、グルーブ指定の医療機関名を記入すること。グルーブ指定を受けていない場合、「指定なし」と記入すること。なお、全和7年4月1日時点でグルーブ指定の組み合わせが変更される予定がある場合は、新旧両方のグルーブ指定先医療機関名を記入すること。 ***********************************	年間入院患者延べ数※1 年間入院がん患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来が心患者延べ数※3 年間院内死亡が心患者数 ※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間外来が心患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったが心患者の延べ数を記入する。同一患 合、それぞれの外来患者として計上する。 検査等の実施状況 ア 病理診断の件数 (期間:令和5年1月1日~12月 病理組織診断 病理組織診断 病理組織迅速組織顕微鏡検査	合は2件とする。入院した患者が 断されたものについて計上する 来がん患者が2つ以上の診療科を受診し 者が2つ以上の診療科を受診し 31日)	ること。 療、健康診断、人間ト ノ、それぞれの診療科 一ブ指定を受けている	ベック等を行い、診けで診療録の作成 はで診療録の作成	療録の作成また! または記載の追加	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追 12を行った場 8350 2898 342	人 人 人 件 件 件	213 214 215 216 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226	
こと、	年間入院患者延べ数※1 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来がん患者延べ数※3 年間院内死亡がん患者数 ※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間外来がん患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったがん患者の延べ数を記入する。同一患合、それぞれの外来患者として計上する。 検査等の実施状況 ア病理診断の件数 (期間:令和5年1月1日~12月病理組織診断病理組織診断病理組織認改進組織顕微鏡検査 ループ指定について 地域がん診療病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定先の医親こと。なお、会和7年4月1日時点でグループ指定の組みを記入すること。	合は2件とする。入院した患者が 断されたものについて計上する 来がん患者が2つ以上の診療科を受診し 者が2つ以上の診療科を受診し 31日)	ること。 療、健康診断、人間ト ノ、それぞれの診療科 一ブ指定を受けている	ベック等を行い、診けで診療録の作成 はで診療録の作成	療録の作成また! または記載の追加	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追 10を行った場 8350 2898 342	件件件件件件件件の対象を表現しています。	213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226	
230	年間入院患者延べ数※1 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来がん患者延べ数※3 年間院内死亡がん患者数 ※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間外来がん患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったがん患者の延べ数を記入する。同一患 合、それぞれの外来患者として計上する。 検査等の実施状況 病理診断の件数 (期間:令和5年1月1日~12月病理組織診断病理組織診断病理組織迅速組織顕微鏡検査 ループ指定について 地域がん診療病院とグループ指定を受けている。	合は2件とする。入院した患者が断されたものについて計上する。 東されたものについて計上する 東水が、患者及び往診、巡回診 者が2つ以上の診療科を受診し 31日) 31日) 京機関名を記入すること。グルー か合わせが変更される予定があ	ること。 療、健康診断、人間ト ノ、それぞれの診療科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	いク等を行い、診 で診療録の作成 で診療録の作成 にい場合、「指定な のグループ指定な	療録の作成またにまたは記載の追加 または記載の追加 にし」と記入する た医療機関名	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追 10を行った場 8350 2898 342	件件件件件件件件の対象を表現しています。	213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226	
治療の状況について	年間入院患者延べ数※1 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来が心患者延べ数※3 年間院内死亡が心患者数 ※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間外来がん患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったがん患者の延べ数を記入する。同一患 合、それぞれの外来患者として計上する。 検査等の実施状況 ア 病理診断の件数 (期間:令和5年1月1日~12月 病理組織診断 病理組織迅速組織顕微鏡検査 「ルーブ指定を受けている場合、グルーブ指定たの医療がん診療病院とグルーブ指定を受けている。 グルーブ指定を受けている場合、グルーブ指定の組みを記入すること。 がん診療連携拠点病院とグルーブ指定を受けている。 グルーブ指定を受けている場合、グルーブ指定を受けている。 グルーブ指定を受けている場合、グルーブ指定を回れる。 グルーブ指定を受けている場合、グルーブ指定を回れる。 グルーブ指定を受けている場合、グルーブ指定を回れる。 グルーブ指定を受けている場合、グルーブ指定を回れる。 ブルーブ指定を受けている場合、グルーブ指定を回れる。 ブルーブ指定を受けている場合、グルーブ指定の組み	合は2件とする。入院した患者が断されたものについて計上する。 来がん患者及び往診、巡回診 者が2つ以上の診療科を受診し (31日) 療機関名を記入すること。グルー を持ちますること。グルー を機関名を記入すること。グルー	ること。 療、健康診断、人間ト ノ、それぞれの診療科 一プ指定を受けていなる場合は、新旧両方 一プ指定を受けていな	いク等を行い、診 で診療録の作成 はい場合、「指定な のグループ指定な	療録の作成またにまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまた は記入する た医療機関名	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追 187つた場 8350 2898 342	件件件件件件件件の対象を表現しています。	213 214 215 216 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226	
大腸がん・肺がん・胃がん・乳がん・前立腺がん・肝胆膵がんに関する悪性腫瘍の手術件数(令和5年1月1日~12月31日)	年間入院患者延べ数※1 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来が心患者延べ数※3 年間院内死亡が心患者数 ※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 が心患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間外来が心患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったが心患者の延べ数を記入する。同一患 合、それぞれの外来患者として計上する。 検査等の実施状況 ア 病理診断の件数 (期間:令和5年1月1日~12月 病理組織診断 病理細胞診断 病理組織迅速組織顕微鏡検査 ルーブ指定について 也域が心診療病院とグルーブ指定を受けている。 グルーブ指定を受けている場合、グルーブ指定の組みを記入すること。 がん診療連携拠点病院とグルーブ指定を受けている。 グルーブ指定を受けている場合、グルーブ指定先の医規を記入すること。	合は2件とする。入院した患者が断されたものについて計上する。 来がん患者及び往診、巡回診 者が2つ以上の診療科を受診し (31日) 療機関名を記入すること。グルー を持ちますること。グルー を機関名を記入すること。グルー	ること。 療、健康診断、人間ト ノ、それぞれの診療科 一プ指定を受けていなる場合は、新旧両方 一プ指定を受けていな	いク等を行い、診 で診療録の作成 はい場合、「指定な のグループ指定な	療録の作成またにまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまた は記入する た医療機関名	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追 187つた場 8350 2898 342	件件件件件件件件の対象を表現しています。	213 214 215 216 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228	
大陽がん(C18\$、C19、C20、D01.0、D01.1、D01.2)の手術件数 234 開腹手術 K7193、K739\$、K740\$ 15 件 235 腹腔鏡下手術 K719-3、K740-2\$ 196 件 236	年間入院患者延べ数※1 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来が心患者延べ数※3 年間院内死亡が心患者数 ※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 が心患者数等は、が心を主たる病名に確定診 ※3 年間外来が心患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったが心患者の延べ数を記入する。同一患合、それぞれの外来患者として計上する。 検査等の実施状況 ア 病理診断の件数 (期間:令和5年1月1日~12月 病理組織診断 病理組織診断 病理組織証連組織顕微鏡検査 「ルーブ指定について 也域が心診療病院とグルーブ指定を受けている。 グルーブ指定を受けている場合、グルーブ指定の組みを記入すること。 が心診療連携拠点病院とグルーブ指定を受けている。 グルーブ指定を受けている場合、グルーブ指定を受けている。 グルーブ指定を受けている場合、グルーブ指定を受けている。 グルーブ指定を受けている場合、グルーブ指定を受けている。	合は2件とする。入院した患者が断されたものについて計上する。 来がん患者及び往診、巡回診 者が2つ以上の診療科を受診し (31日) 療機関名を記入すること。グルー を持ちますること。グルー を機関名を記入すること。グルー	ること。 療、健康診断、人間ト ノ、それぞれの診療科 一プ指定を受けていなる場合は、新旧両方 一プ指定を受けていな	いク等を行い、診 で診療録の作成 はい場合、「指定な のグループ指定な	療録の作成またにまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまた は記入する た医療機関名	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追 187つた場 8350 2898 342	件件件件件件件件の対象を表現しています。	213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229	
開腹手術 K7193、K739\$、K740\$ 腹腔鏡下手術 K719-3、K740-2\$	年間入院患者延べ数※1 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来がん患者延べ数※3 年間院内死亡がん患者数 ※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間外来がん患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったがん患者の延べ数は、当年の新来、再加を行ったがん患者の延べ数を記入する。同一患合、それぞれの外来患者として計上する。 検査等の実施状況 ア病理診断の件数 (期間:令和5年1月1日~12月病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織逐漸会して計算を受けている。 グループ指定について 地域がん診療病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定先の医療が、診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定をの医療が、会和7年4月1日時点でグループ指定の組みを記入すること。	合は2件とする。入院した患者が断されたものについて計上する。 東本が心患者及び往診、巡回診 者が2つ以上の診療科を受診し 31日) 31日) 	ること。 療、健康診断、人間ト ノ、それぞれの診療科 一ブ指定を受けていなる場合は、新旧両方 ーブ指定を受けていなる場合は、新旧両方	いり等を行い、診 で診療録の作成 はい場合、「指定な のグループ指定分 ない場合、「指定な のグループ指定分	療録の作成またにまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまた は記入する た医療機関名	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追 187つた場 8350 2898 342	件件件件件件件件の対象を表現しています。	213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231	
腹腔鏡下手術 K719-3、K740-2\$	年間入院患者延べ数※1 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来がん患者延べ数に3 年間院内死亡がん患者数 ※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間外来がん患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったがん患者の延べ数を記入する。同一患 点、それぞれの外来患者として計上する。 検査等の実施状況 ア病理診断の件数 (期間:令和5年1月1日~12月病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織ごの半少が心診療病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定をの匿残となお、令和7年4月1日時点でグループ指定をの匿残となお、令和7年4月1日時点でグループ指定の組みを記入すること。 が人診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 が人診療連携拠点病院とグループ指定の組みを記入すること。	合は2件とする。入院した患者が断されたものについて計上する。 東水が心患者及び往診、巡回診 者が2つ以上の診療科を受診し (31日)	ること。 療、健康診断、人間ト ノ、それぞれの診療科 一ブ指定を受けていなる場合は、新旧両方 ーブ指定を受けていなる場合は、新旧両方	いり等を行い、診 で診療録の作成 はい場合、「指定な のグループ指定分 ない場合、「指定な のグループ指定分	療録の作成またにまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまた は記入する た医療機関名	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追 187つた場 8350 2898 342	件件件件件件件件の対象を表現しています。	213 214 215 216 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233	
内視鏡手術 K721\$、K721-4、K739-2、K739-3 191 件 238	年間入院患者延べ数※1 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外内死亡がん患者数 ※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間外来がん患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったがん患者の延べ数を記入する。同一患 合、それぞれの外来患者として計上する。 検査等の実施状況 ア 病理診断の件数 (期間:令和5年1月1日~12月 病理組織診断 病理組織診断 病理組織診断 病理組織診断 病理組織診断 病理組織の強いを記入する。 グルーブ指定について 地域がん診療病院とグループ指定を受けている。 グルーブ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の気援を記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定の気援を記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の気援を記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている場合、グループ指定の気援を記入すること。 が、おいまが、全にないますない。 「大腸がん・食材の・乳がん・前立腺がん・肝胆膵大腸がん・脂がん・胃がん・乳がん・前立腺がん・肝胆膵大腸がん・肺がん・胃がん・乳がん・前立腺がん・肝胆膵大腸がん・肺がん・胃がん・乳がん・前立腺がん・肝胆膵大腸がん・肺がん・胃がん・乳がん・前立腺がん・肝胆膵大腸がん・肝がん・胃がん・乳がん・日のは、2001.1、001.2)	合は2件とする。入院した患者が断されたものについて計上する。 東水が心患者及び往診、巡回診 者が2つ以上の診療科を受診し (31日)	ること。 療、健康診断、人間ト ノ、それぞれの診療科 一ブ指定を受けていなる場合は、新旧両方 ーブ指定を受けていなる場合は、新旧両方	いり等を行い、診 で診療録の作成 はい場合、「指定な のグループ指定分 ない場合、「指定な のグループ指定分	療録の作成またにまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまた は記入する た医療機関名	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追 1を行った場 8350 2898 342 はい 十和田市立 合病院 いいえ 指定なし	件 件件 件 (はい/いいえ) 中央病院、むつ総 (はい/いいえ)	213 214 215 216 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234	
肺がん(C34\$、D02.2)の手術件数 開胸手術 K511\$、K514\$、K518\$	年間入院患者延べ数※1 年間入院がん患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来が心患者延べ数に当めるがん患者の割合 年間外来が心患者延不数 ※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間外来がん患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったがん患者の延べ数を記入する。同一患合、それぞれの外来患者として計上する。 検査等の実施状況 ア 病理診断の件数 (期間:令和5年1月1日~12月 病理組織診断 病理組織診断 病理組織記速組織顕微鏡検査 ループ指定を受けている場合、グループ指定をの医療を記入すること。なお、会和7年4月1日時点でグループ指定を到けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定を囲かる。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定を回れる。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定を受けている。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 が人診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 が人診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 が人診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 が人診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 が人診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 が人診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 が人診療連携拠点病院とグループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 が、おいいに対していて、対していて、対していて、対していて、対していて、対していて、対していて、対していて、対していて、対していていていていていていていていていていていていていていていていていていてい	合は2件とする。入院した患者が断されたものについて計上する。 東水が心患者及び往診、巡回診 者が2つ以上の診療科を受診し (31日)	ること。 療、健康診断、人間ト ノ、それぞれの診療科 一ブ指定を受けていなる場合は、新旧両方 ーブ指定を受けていなる場合は、新旧両方	いり等を行い、診 で診療録の作成 はい場合、「指定な のグループ指定分 ない場合、「指定な のグループ指定分	療録の作成またにまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまた は記入する た医療機関名	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追口を行った場 8350 2898 342 はい 十和田市立 台病院 いたえ 指定なし	人 人 人 人 人 (はい/いいえ) 中央病院、むつ総 (はい/いいえ) 件 件 件	213 214 215 216 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235	
開胸手術 K511\$、K514\$、K518\$	年間入院患者延べ数※1 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来がん患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来がん患者延べ数に当めるがん患者の割合 年間内死亡がん患者数 ※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間外来がん患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったがん患者の延べ数を記入する。同一患 合、それぞれの外来患者として計上する。 校査等の実施状況 ア病理診断の件数 (期間:令和5年1月1日~12月病理組織診断病理組織診断病理組織認速組織顕微鏡検査 ループ指定について 也域がん診療病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定先の医療こと。なお、令和7年4月1日時点でグループ指定をの組みを記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定をの気がと変けている場合、グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の気が表に表している。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の気が表に表している。 がい診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の気が表している場合、グループ指定の気が表している場合、グループ指定の気が表している場合、グループ指定の気が表している場合、グループ指定の観みを記入すること。 は、1011によりに対している場合である。 は、1011によりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりに	合は2件とする。入院した患者が断されたものについて計上する。 事されたものについて計上する。 まないた意、巡回診 者が2つ以上の診療科を受診し 31日) 31日) 。 療機関名を記入すること。グルート か合わせが変更される予定がある。 を機関名を記入すること。グルート か合わせが変更される予定がある。 を機関名を記入すること。グルート がんに関する悪性腫瘍の手術の手術件数	ること。 療、健康診断、人間ト ノ、それぞれの診療科 一ブ指定を受けていなる場合は、新旧両方 ーブ指定を受けていなる場合は、新旧両方	いり等を行い、診 で診療録の作成 はい場合、「指定な のグループ指定分 ない場合、「指定な のグループ指定分	療録の作成またにまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまた は記入する た医療機関名	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追口を行った場 8350 2898 342 はい 十和田市立 合病院 いいえ 指定なし	件 件 件 件 (はい/いいえ) 中央病院、むつ総 (はい/いいえ)	213 214 215 216 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 244 255 236 237	
胸腔鏡下手術 K514-2\$ 105 件 241 105 十 241 105 十 241 105 十 242 105 105 十 242 105 105 十 242 105 105 十 242 105 1	年間入院患者延べ数※1 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来がん患者延べ数※3 年間院内死亡がん患者数 ※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間外来がん患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったがん患者の延べ数を記入する。同一患 合、それぞれの外来患者として計上する。 検査等の実施状況 ア病理診断の件数 (期間:令和5年1月1日~12月病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織に近近になる。グループ指定たのとでしている場合、グループ指定たのとのが人診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 が人診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 が人診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 が人診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 が人診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 方ちれていて「新等の状況について「新等の状況について「大関がん・肺がん・胃がん・乳がん・前立腺がん・肝胆膵大腸がん・肺がん・胃がん・乳がん・前立腺がん・肝胆膵大腸がん・下間、K7193、K740~2、方ち、内視鏡手術 K7193、K740~2、方ち、内視鏡手術用支援機器を用いるもの(口内視鏡手術 K7213、K721~4、K739~2、K739~3	合は2件とする。入院した患者が断されたものについて計上する。 事されたものについて計上する。 まないた意、巡回診 者が2つ以上の診療科を受診し 31日) 31日) 。 療機関名を記入すること。グルート か合わせが変更される予定がある。 を機関名を記入すること。グルート か合わせが変更される予定がある。 を機関名を記入すること。グルート がんに関する悪性腫瘍の手術の手術件数	ること。 療、健康診断、人間ト ノ、それぞれの診療科 一ブ指定を受けていなる場合は、新旧両方 ーブ指定を受けていなる場合は、新旧両方	いり等を行い、診 で診療録の作成 はい場合、「指定な のグループ指定分 ない場合、「指定な のグループ指定分	療録の作成またにまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまた は記入する た医療機関名	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追口を行った場 8350 2898 342 はい 十和田市立 合病院 いいえ 指定なし	件 件 件 件 (はい/いいえ) 中央病院、むつ総 (はい/いいえ)	213 214 215 216 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 231 232 233 234 235 236 237 238	
計算がん(C16\$、D00.2)の手術件数 243	年間入院患者延べ数※1 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数※3 年間外来が心患者延べ数に占めるが心患者の割合 年間外来が心患者延べ数に当数 ※11 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 が心患者数等は、が心を主たる病名に確定診 ※3 年間外来が心患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったが心患者の延べ数を記入する。同一患合、それぞれの外来患者として計上する。 検査等の実施状況 ア病理診断の件数 (期間:令和5年1月1日~12月病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織に連組織顕微鏡検査 ループ指定について 也域が心診療病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 が心診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 が心診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 が人診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 が人診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の医乳でと、なお、令和7年4月1日時点でグループ指定の困みを記入すること。 が人診療・特別について 柄等の状況 大腸が心・肺がん・胃が心・乳がん・前立腺がん・肝胆膵 大腸がん(C18、C19、C20、D01.0、D01.1、D01.2) 関腹手術 K7193、K739\$、K7402 腹腔鏡下手術 K7193、K739\$、K7402 腹腔鏡下手術 K721\$、K721-4、K739-2、K739-3 肺がん(C34\$、D02.2)の手術件数 開胸手術 K511\$、K514\$、K518\$	合は2件とする。入院した患者が断されたものについて計上する。 事されたものについて計上する。 まないた意、巡回診 者が2つ以上の診療科を受診し 31日) 31日) 。 療機関名を記入すること。グルート か合わせが変更される予定がある。 を機関名を記入すること。グルート か合わせが変更される予定がある。 を機関名を記入すること。グルート がんに関する悪性腫瘍の手術の手術件数	ること。 療、健康診断、人間ト ノ、それぞれの診療科 一ブ指定を受けていなる場合は、新旧両方 ーブ指定を受けていなる場合は、新旧両方	いり等を行い、診 で診療録の作成 はい場合、「指定な のグループ指定分 ない場合、「指定な のグループ指定分	療録の作成またにまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまた は記入する た医療機関名	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追 287 342 (はい 十和田市立 合病院 いいえ 指定なし 15 196 10 191	件 件件 件 (はい/いいえ) 中央病院、むつ総 (はい/いいえ)	213 214 215 216 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240	
開腹手術 K654-2、K655-2、K655-42、K6572	年間入院患者延べ数※1 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来が心患者延べ数に当めるがん患者の割合 年間外来が心患者延べ数によりの死亡が心患者数 ※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間が来がん患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったが心患者の延べ数を記入する。同一患合、それぞれの外来患者として計上する。 校査等の実施状況 ア病理診断の件数 (期間:令和5年1月1日~12月病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織設を部入するにとした。なお、令和7年4月1日時点でグループ指定をの医犯ととなお、令和7年4月1日時点でグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定をの医犯とさなお、令和7年4月1日時点でグループ指定の組みを記入すること。 が心診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の医犯大を記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 治療の状況について 新等の状況について 新等の状況について 新等の状況について 新等の状況について 前等の状況について 前等の状況について 前等の状況について 前等の状況について 前等の状況について 前等の状況について 前等の状況について 前様の状況にいて、「大関が人・ドロリッ・「大関が人・ドロリッ・「大関を入れている」には、「大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大	合は2件とする。入院した患者が 断されたものについて計上する。 注象がん患者が2つ以上の診療科を受診し 者が2つ以上の診療科を受診し 動力を表現を受診し が2つ以上の診療科を受診し が2つ以上の診療科を受診し を持ちれる予定がある。 があること。グルー を合わせが変更される予定がある。 を持わせが変更される予定がある。 を持わせが変更される予定がある。 がんに関する悪性腫瘍の手術の手術件数	ること。 療、健康診断、人間ト ノ、それぞれの診療科 一ブ指定を受けていなる場合は、新旧両方 ーブ指定を受けていなる場合は、新旧両方	いり等を行い、診 で診療録の作成 はい場合、「指定な のグループ指定分 ない場合、「指定な のグループ指定分	療録の作成またにまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまた は記入する た医療機関名	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追口を行った場 8350 2898 342 はい 十和田市立 合病院 いたえ 指定なし 15 196 10 191	件 件件 件件 (はい/いいえ) 中央病院、むつ総 (はい/いいえ)	213 214 215 216 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241	
腹腔鏡下手術 K654-3\$、K655-22、K655-52、K655-52、K655-53、K657-22、K657-24、K657-23	年間入院患者延べ数※1 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来がん患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来がん患者延べ数によめるがん患者の割合 年間院内死亡がん患者数 ※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間外来がん患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったがん患者の延べ数は、当年の新来、再加を行ったがん患者の延べ数を記入する。同一患合、それぞれの外来患者として計上する。 校査等の実施状況 病理組織診断 病理組織診断 病理組織診断 病理組織過速組織顕微鏡検査 ループ指定について 地域がん診療病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の観みを記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定たの医療こと。なお、令和7年4月1日時点でグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定をの気がと変している。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定のの組みを記入すること。 がんにの状況 たい時がん・胃がん・乳がん・前立腺がん・肝胆膵 大腸がん・肺がん・胃がん・乳がん・前立腺がん・肝胆膵 大腸がん・間がん・胃がん・乳がん・前立腺がん・肝胆膵 大腸がん・間がん・胃がん・乳がん・前立腺がん・肝胆膵 大腸がん・間がん・胃がん・乳がん・前立腺がん・肝胆膵 大腸がん・間がん・胃がん・乳がん・前立腺がん・肝胆膵 大腸がん・胃がん・胃がん・乳がん・前なりに、たい、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、	合は2件とする。入院した患者が 断されたものについて計上する。 注象がん患者が2つ以上の診療科を受診し 者が2つ以上の診療科を受診し 動力を表現を受診し が2つ以上の診療科を受診し が2つ以上の診療科を受診し を持ちれる予定がある。 があること。グルー を合わせが変更される予定がある。 を持わせが変更される予定がある。 を持わせが変更される予定がある。 がんに関する悪性腫瘍の手術の手術件数	ること。 療、健康診断、人間ト ノ、それぞれの診療科 一ブ指定を受けていなる場合は、新旧両方 ーブ指定を受けていなる場合は、新旧両方	いり等を行い、診 で診療録の作成 はい場合、「指定な のグループ指定分 ない場合、「指定な のグループ指定分	療録の作成またにまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまた は記入する た医療機関名	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追口を行った場 8350 2898 342 はい 十和田市立 合病院 いたえ 指定なし 15 196 10 191	件 件件 件件 (はい/いいえ) 中央病院、むつ総 (はい/いいえ)	213 214 215 216 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 234 245 236 237 238 239 240 241 242	
内視鏡手術 粘膜切除術(EMR)K6531	年間入院患者延べ数※1 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来がん患者延べ数によめるがん患者の割合 年間外来がん患者延べ数※3 年間院内死亡がん患者数 ※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間外来がん患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったがん患者の延で数を記入する。同一患 合、それぞれの外来患者として計上する。 校査等の実施状況 ア病理診断の件数 (期間:令和5年1月1日~12月病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織に近れる場合、グループ指定たの医療こと。なが、会和7年4月1日時点でグループ指定の組みを記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定をの医療こと。なお、会和7年4月1日時点でグループ指定の組みを記入すること。 が人診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 が人診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 が人診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 が人診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 が人診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 が人の診療・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	合は2件とする。入院した患者が 断されたものについて計上する。 注象がん患者が2つ以上の診療科を受診し 者が2つ以上の診療科を受診し 動力を表現を受診し が2つ以上の診療科を受診し が2つ以上の診療科を受診し を持ちれる予定がある。 があること。グルー を合わせが変更される予定がある。 を持わせが変更される予定がある。 を持わせが変更される予定がある。 がんに関する悪性腫瘍の手術の手術件数	ること。 療、健康診断、人間ト ノ、それぞれの診療科 一ブ指定を受けていなる場合は、新旧両方 ーブ指定を受けていなる場合は、新旧両方	いり等を行い、診 で診療録の作成 はい場合、「指定な のグループ指定分 ない場合、「指定な のグループ指定分	療録の作成またにまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまた は記入する た医療機関名	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追 2898 342 はい 十和田市立 合病院 いいえ 指定なし 15 196 10 191	件 件 件 件 (はい/いいえ) 中央病院、むつ総 (はい/いいえ) 件 件 件 件	213 214 215 216 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243	
内視鏡手術 粘膜下層剥離術(ESD) K6532 96 件 248 乳がん(C50\$、D05\$)の手術件数 249 手術 K476\$ 161 件 250 乳癌冷凍凝固摘出術 K475-2 0 件 251 乳腺腫瘍摘出術(生検) K474\$ 1 件 252	年間入院患者延べ数※1 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来が心患者延べ数に当めるがん患者の割合 年間外来が心患者延べ数※3 年間院内死亡が心患者数 ※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間外来が心患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったがん患者の延べ数を記入する。同一患合、それぞれの外来患者として計上する。 検査等の実施状況 ア病理診断の件数 (期間:令和5年1月1日~12月病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織にでグループ指定を受けている。 グループ指定について グループ指定を受けている場合、グループ指定を組みを記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定をの匿残を記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の題のを記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定のの受害があること。 がん診療連携が表について 称等の状況 大腸がん(C18、C19、C20、D01.0、D01.1、D01.2) 開腹手術 K7193、K739\$、K7402 腹腔鏡下手術 K7193、K739\$、K7402 。 方ち、内視鏡手術 K721\$、K721-4、K739-2、K739-3 肺がん(C34\$、D02.2)の手術件数 開胸手術 K511\$、K514\$、K518\$ 胸腔鏡下手術 K654-2\$ うち、内視鏡手術用支援機器を用いるもの(口間がん)(C16\$、D00.2)の手術件数 開腹手術 K654-2、K655-42、K657-22、K655-23、K655-22、K65-22、K655-22、K655-22、K655-22、K655-22、K655-22、K655-22、K655-22、K655-22、K655-22、K655-22、K655-22、K65	合は2件とする。入院した患者が 断されたものについて計上する。 素がとつ以上の診療科を受診し 者が2つ以上の診療科を受診し 31日) 31日) 31日) 療機関名を記入すること。グルー 会わせが変更される予定があ を持わせが変更される予定があ がんに関する悪性腫瘍の手術 の手術件数 コボット支援手術) は655-23、K655-53、K657-22、K	ること。 療、健康診断、人間ト 人、それぞれの診療科 一プ指定を受けていなる場合は、新旧両方 一プ指定を受けていなる場合は、新旧両方 (件数(令和5年1月1	ドック等を行い、 はい場合、「指定な のグループ指定な のグループ指定を はい場合、「指定な のグループ指定を 日~12月31日)	療録の作成またにまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまた は記入する た医療機関名	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追口を行った場 8350 2898 342 しいえ 指定なし 15 196 10 191 5 105 12	件	213 214 215 216 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244	
乳がん(C50\$、D05\$)の手術件数 161 件 250 手術 K476\$ 161 件 250 乳癌冷凍凝固摘出術 K475-2 0 件 251 乳腺腫瘍摘出術(生検) K474\$ 1 件 252	年間入院患者延べ数※1 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来がん患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来がん患者延べ数に占めるがん患者の割合 半1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間外来がん患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったがん患者の延べ数を記入する。同一患 合、それぞれの外来患者として計上する。 検査等の実施状況 病理診断の件数 (期間:令和5年1月1日~12月病理組織診断病理組織診断病理組織を動態がありませる) 病理組織を動態がありませる。 (期間:令和5年1月1日~12月病理組織を動態を動きを記入すること。なお、全和7年4月1日時点でグループ指定をの匿犯とよるなお、全和7年4月1日時点でグループ指定をの関犯とされる。 (カループ指定を受けている場合、グループ指定をの関犯とされること。 (がん) 療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定をの関犯となること。 (がん) を記入すること。 (がん) について がん(こ18、019、020、0010、0011、0011、0012) 開腹手術 (7193、(7393、(740-2)) 原腔鏡下手術 (7193、(7393、(740-2)) 下手術 (7193、(7393、(740-2)) 下手術 (7193、(7393、(740-2)) 下手術 (7193、(7393、(740-2)) 下手術 (7193、(739-3) 下がん(0348、002.2) の手術件数 原腔鏡下手術 (716、(716、(716、(716、(716、(716、(716、(716、	合は2件とする。入院した患者が 断されたものについて計上する。 素がとつ以上の診療科を受診し 者が2つ以上の診療科を受診し 31日) 31日) 31日) 療機関名を記入すること。グルー 会わせが変更される予定があ を持わせが変更される予定があ がんに関する悪性腫瘍の手術 の手術件数 コボット支援手術) は655-23、K655-53、K657-22、K	ること。 療、健康診断、人間ト 人、それぞれの診療科 一プ指定を受けていなる場合は、新旧両方 一プ指定を受けていなる場合は、新旧両方 (件数(令和5年1月1	ドック等を行い、 はい場合、「指定な のグループ指定な のグループ指定を はい場合、「指定な のグループ指定を 日~12月31日)	療録の作成またにまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまた は記入する た医療機関名	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追口を行った場 8350 2898 342 「はい 十和田市立 合病院 いいえ 指定なし 15 196 10 191 191 191 191	件 件件 件件 (はい/いいえ) 中央病院、むつ総 (はい/いいえ) (はい/いいえ) 件件 件件 件件 件件	213 214 215 216 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 244 244 245 244	
乳癌冷凍凝固摘出術 K475-2 0 件 251 乳腺腫瘍摘出術(生検) K474\$ 1 件 252	年間入院患者延べ数※1 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来がん患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来がん患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間院内死亡がん患者数 ※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間外来がん患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったがん患者の延べ数は、当年の新来、再加を行ったがん患者の延べ数を記入する。同一患合、それぞれの外来患者として計上する。 校査等の実施状況 病理組織診断 病理組織診断 病理組織過速組織顕微鏡検査 「ループ指定について 地域がん診療病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定をの医親こと。なお、会和7年4月1日時点でグループ指定をの配名を記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定をのの親を記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の配名を記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の配名を記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の配名を記入すること。 かがん(218、C19、C20、D01.0、D01.1、D01.2) 開腹手術 K7193、K739\$、K740-2\$ うち、内視鏡手術 K7193、K739\$、K740-2\$ うち、内視鏡手術 K7193、K739、K740-2\$ うち、内視鏡手術 K511\$、K514\$、K518\$ 胸腔鏡下手術 K514、K514\$、K518\$ 胸腔鏡下手術 K514、K514\$、K518\$ 胸腔鏡下手術 K514、K514\$、K518\$ 胸腔鏡下手術 K514、K514\$、K518\$ 胸腔鏡下手術 K514-2\$ うち、腹腔鏡下手術 K554-2、K655-42、K6572 腹腔鏡下手術 K654-2、K655-42、K657-22、K655-52、F655-54、K655-542、K655-54。 内視鏡手術 粘膜切除術(EMR)K6531	合は2件とする。入院した患者が 断されたものについて計上する。 素がとつ以上の診療科を受診し 者が2つ以上の診療科を受診し 31日) 31日) 31日) 療機関名を記入すること。グルー 会わせが変更される予定があ を持わせが変更される予定があ がんに関する悪性腫瘍の手術 の手術件数 コボット支援手術) は655-23、K655-53、K657-22、K	ること。 療、健康診断、人間ト 人、それぞれの診療科 一プ指定を受けていなる場合は、新旧両方 一プ指定を受けていなる場合は、新旧両方 (件数(令和5年1月1	ドック等を行い、 はい場合、「指定な のグループ指定な のグループ指定を はい場合、「指定な のグループ指定を 日~12月31日)	療録の作成またにまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまた は記入する た医療機関名	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追口を行った場 3350 2898 342 はい 十和田市立 台病院 15 196 10 191 5 105 12 32 31 15 1	件	213 214 215 216 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 245 246 247	
乳腺腫瘍摘出術(生検) K474\$ 1 件 252	年間入院患者延べ数※1 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来がん患者延べ数によめるがん患者の割合 年間外来がん患者延べ数と。 ※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間外来がん患者延べ数は、当年の新来、再加を行ったがん患者の延べ数は、当年の新来、再加を行ったがん患者の延で数を記入する。同一患合、それぞれの外来患者として計上する。 校査等の実施状況 病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織診断病理組織迅速組織顕微鏡検査 「ループ指定について 地域がん診療病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 が人診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 が人について 術等の状況 大腸がん・筒がん・胃がん・乳がん・前立腺がん・肝胆膵 大腸がん・間がん・胃がん・乳がん・前立腺がん・肝胆膵 大腸がん・間がん・胃がん・乳がん・前立腺がん・肝胆膵 大腸がん・間がん(C18、C19、C20、D01.0、D01.1、D01.2) 開腹手術 K7193、K739\$、K740-2\$ うち、内視鏡手術 K7193、K721-4、K739-2、K739-3 肺がん(C34\$、D02.2)の手術件数 開胸手術 K514、K514\$、K518\$ 胸腔鏡下手術 K514、K514\$、K518\$ 胸腔鏡下手術 K514、K514\$、K518\$ 胸腔鏡下手術 K514、K514\$、K518\$ 胸腔鏡下手術 K514-2\$ うち、内視鏡手術 粘膜切除術(EMP) K6531 内視鏡手術 粘膜切除術(EMP) K6531	合は2件とする。入院した患者が 断されたものについて計上する。 素がとつ以上の診療科を受診し 者が2つ以上の診療科を受診し 31日) 31日) 31日) 療機関名を記入すること。グルー 会わせが変更される予定があ を持わせが変更される予定があ がんに関する悪性腫瘍の手術 の手術件数 コボット支援手術) は655-23、K655-53、K657-22、K	ること。 療、健康診断、人間ト 人、それぞれの診療科 一プ指定を受けていなる場合は、新旧両方 一プ指定を受けていなる場合は、新旧両方 (件数(令和5年1月1	ドック等を行い、 はい場合、「指定な のグループ指定な のグループ指定を はい場合、「指定な のグループ指定を 日~12月31日)	療録の作成またにまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまた は記入する た医療機関名	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追口を行った場 3350 2898 342 はい 十和田市立 台病院 15 196 10 191 5 105 12 32 31 15 1	件	213 214 215 216 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 244 2445 244	
	年間入院患者延べ数※1 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来が心患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来が心患者延べ数に当なる病名に確定診 ※3 年間外来が心患者が当月中に2回入院した場 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間外来が心患者延べ数を記入する。同一患 合、それぞれの外来患者として計上する。 検査等の実施状況 ア 病理診断の件数 (期間:令和5年1月1日~12月 病理組織診断 病理組織があ診療病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定をの匿残を記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 がん診療連携拠点病院とグルーブ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 が人診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 がんにかいた。第一次により、第	合は2件とする。入院した患者が 断されたものについて計上する。 素がとつ以上の診療科を受診し 者が2つ以上の診療科を受診し 31日) 31日) 31日) 療機関名を記入すること。グルー 会わせが変更される予定があ を持わせが変更される予定があ がんに関する悪性腫瘍の手術 の手術件数 コボット支援手術) は655-23、K655-53、K657-22、K	ること。 療、健康診断、人間ト 人、それぞれの診療科 一プ指定を受けていなる場合は、新旧両方 一プ指定を受けていなる場合は、新旧両方 (件数(令和5年1月1	ドック等を行い、 はい場合、「指定な のグループ指定な のグループ指定を はい場合、「指定な のグループ指定を 日~12月31日)	療録の作成またにまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまた は記入する た医療機関名	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追口を行った場 8350 2898 342 「はい 十和田市立 合病院 しいえ 指定なし 15 196 10 191 5 105 12 32 31 15 1 96	件	213 214 215 216 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248	
	年間入院患者延べ数※1 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数※2 年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来がん患者延べ数に占めるがん患者の割合 年間外来がん患者延べ数によめる病名に確定診 ※3 年間院内死亡がん患者数 ※1 例えば、同一患者が当月中に2回入院した場 ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診 ※3 年間外来がん患者延べ数は、当年の新来、東加を行ったがん患者の延べ数を記入する。同一患 合、それぞれの外来患者として計上する。 検査等の実施状況 病理理組織診断 病理組織診断 病理組織診断 病理組織診断 病理組織診断 病理組織診断 病理組織でグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の組みを記入すること。 がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の観みを記入すること。 がん診療連構拠点病院とグループ指定を受けている。 グループ指定を受けている場合、グループ指定の関ルでがしている場合、グループ指定を受けている場合、グループ指定の関ルを記入すること。 がんらかま、令和7年4月1日時点でグループ指定の観みを記入すること。 がん(こるは、会れで発見している場合、グループ指定の関連手術をいた。 「治療の状況」 大腸がん、肺がん・胃がん・乳がん・前立腺がん・肝胆膵 大腸がんの(こ4紫、C19、C20、D01.0、D01.1、D01.2) 開腹手術 K7193、K739\$、K740-2\$ うち、内視鏡手術 K7193、K739\$、K740-2\$ うち、内視鏡手術 K7193、K730-3、K740-2\$ うち、内視鏡手術 K511\$、K514\$、K518\$ 胸腔鏡下手術 K514-2\$ うち、内視鏡手術 K514-2\$ うち、内視鏡手術 K514-2\$ 方ち、内視鏡手術 K514-2\$ 方ち、内視鏡手術 K654-3、K655-22、K655-12、「大655-12、K655-12、K655-12、K655-12、K655-12、K655-12、K655-12、F655。 下層 K676\$ 関腔鏡下手術 K654-3、K655-22、K655-52、F655-12、F655。 下層 K654-3、K653-12、K655-12、K655-12、K655-12、K655-12、K655-12、K655-12、K655-12、K655-12、F655-12、F655-13、F655-14、K6531 内視鏡手術 粘膜切除術(EMR)K6531 内視鏡手術 K476\$ 乳癌冷凍凝固摘出術 K475-2	合は2件とする。入院した患者が 断されたものについて計上する。 素がとつ以上の診療科を受診し 者が2つ以上の診療科を受診し 31日) 31日) 31日) 療機関名を記入すること。グルー 会わせが変更される予定があ を持わせが変更される予定があ がんに関する悪性腫瘍の手術 の手術件数 コボット支援手術) は655-23、K655-53、K657-22、K	ること。 療、健康診断、人間ト 人、それぞれの診療科 一プ指定を受けていなる場合は、新旧両方 一プ指定を受けていなる場合は、新旧両方 (件数(令和5年1月1	ドック等を行い、 はい場合、「指定な のグループ指定な のグループ指定を はい場合、「指定な のグループ指定を 日~12月31日)	療録の作成またにまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまたは記載の追加 はいまた は記入する た医療機関名	35.4 190286 283 計上する。 は記載の追口を行った場 8350 2898 342 しいえ 十和田市立 合病院 いいえ 15 196 10 191 191 15 105 12 32 31 15 1 96	件	213 214 215 216 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 242 244 245 244 245 246 247 248 249 250 251	

3/46

乳房再建術(乳房切除後) 二次的に行うもの K476-32	0	件	254	
前立腺がん(C61)の手術件数			255	
開腹手術 K843	0	件	256	~
腹腔鏡下手術 K843-2、K843-4	22	件	257	~
うち、腹腔鏡下手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの(ロボット支援手術)) K843-4□	22	件	258	~
肝臓がん(C22\$、D01.5)の手術件数			259	
開腹手術 K695\$	9	件	260	V
腹腔鏡下手術 K695-2\$	3	件	261	<u> </u>
うち、内視鏡手術用支援機器を用いるもの(ロボット支援手術)	0	件	262	
	0	• •	_	
マイクロ波凝固法 K697-2\$		件	263	
ラジオ波焼灼療法 K697-3\$	8	件	264	~
胆のうがん(C23)の手術件数			265	
開腹手術 K675\$	2	件	266	~
腹腔鏡下手術 K675-2	0	件	267	~
胆管がん(C240、C241、C248、C249)の手術件数			268	
開腹手術 K677、K677-2	4	件	269	~
膵臓がん(C250、C251、C252、C253、C254、C257、C258、C259)の手術件数			270	
開腹手術 K700-2、K702\$、K703\$、K704	17	件	271	_
腹腔鏡下手術 K700-3、K702-2\$、K703-2\$	0	<u>件</u>	272	<u> </u>
	0	• •		
うち、内視鏡手術用支援機器(ロボット支援手術)を用いて行った件数	U	件	273	
線治療の状況 ***			274	
以下、放射線治療件数に関する項目は、必ず放射線治療責任医師の確認を取って記入すること。			275	
てのがんを対象としたのべ患者数 (令和5年1月1日~12月31日の間に放射線治療を開始した患者数)			276	
体外照射	505	人	277	-
定位照射(脳)	21	人	278	~
定位照射(体幹部)	35	人	279	~
強度変調放射線治療(IMRT)	115	人	280	~
粒子線治療(重粒子線、陽子線治療)	0	人 人	281	-
字 1 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	15	Y	282	
核医学治療	6	<u> </u>	283	
	Ü	^	284	
法が国に多いがんを対象としたのべ患者数 (令和5年1月1日~12月31日の間に放射線治療を開始した患者数)				
※原発巣に記載してください。			285	
肺がん	161	人	286	~
胃がん	7	人	287	~
胃がん 肝がん	7 5	人 人	287 288	<i>V</i>
100 - 1		<u>Д</u> Д		-
肝がん	5		288	~
肝がん 大腸がん	5 17		288 289	\(\sqrt{\chi} \)
肝がん 大腸がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん	5 17 2 5	人 人	288 289 290 291	\(\frac{1}{\pi}\)
肝がん 大腸がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 乳がん	5 17 2 5 46	人 人	288 289 290 291 292	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \
肝がん 大腸がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 乳がん 前立腺がん	5 17 2 5	人 人	288 289 290 291 292 293	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \
肝がん 大腸がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 膵臓がん 前立腺がん 前立腺がん ケアチームに対する新規診療症例の状況(重複可)(令和5年1月1日~12月31日)	5 17 2 5 46 47	Д Д Д Д	288 289 290 291 292 293 294	\(\times \)
肝がん 大陽がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 乳がん 前立腺がん イアチームに対する新規診療症例の状況(重複可)(令和5年1月1日~12月31日)	5 17 2 5 46 47	Д Д Д Д	288 289 290 291 292 293 294 295	\(\frac{1}{\sqrt{2}} \)
肝がん 大陽がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 乳がん 削立腺がん	5 17 2 5 46 47 94	\(\) \(\)	288 289 290 291 292 293 294 295 296	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \
肝がん 大腸がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 乳がん 削立腺がん 削立腺がん 市立腺がん おけられる新規診療症例の状況(重複可)(令和5年1月1日~12月31日) 体体症状の緩和を行った症例数 神症状の緩和を行った症例数 は会的苦痛に対する緩和を行った症例数	5 17 2 5 46 47	Д Д Д Д	288 289 290 291 292 293 294 295 296 297	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \
肝がん 大腸がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 乳がん 前立腺がん 前立腺がん の	5 17 2 5 46 47	\(\) \(\)	288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298	\(\frac{1}{\sigma} \)
肝がん 大腸がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 関応がん 関応がん 前立腺がん 前立腺がん 前立腺がん (本症状の緩和を行った症例数 は神症状の緩和を行った症例数 会的苦痛に対する緩和を行った症例数 との苦痛に対する緩和を行った症例数 との苦痛に対する緩和を行った症例数 との苦痛に対する緩和を行った症例数 との苦痛に対する緩和を行った症例数 との苦痛に関する緩和を行った症例数	5 17 2 5 46 47 94	\(\) \(\)	288 289 290 291 292 293 294 295 296 297	V V V V V V V V V V V V V V V V V V V
肝がん 大腸がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 関応がん 関応がん 前立腺がん 前立腺がん 前立腺がん (本症状の緩和を行った症例数 は神症状の緩和を行った症例数 会的苦痛に対する緩和を行った症例数 との苦痛に対する緩和を行った症例数 との苦痛に対する緩和を行った症例数 との苦痛に対する緩和を行った症例数 との苦痛に対する緩和を行った症例数 との苦痛に関する緩和を行った症例数	5 17 2 5 46 47	\(\) \(\)	288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298	
肝がん 大腸がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 関のう・胆管がん 膵臓がん 前立腺がん 前立腺がん 前立腺がん がアチームに対する新規診療症例の状況(重複可)(令和5年1月1日~12月31日) 体症状の緩和を行った症例数 性症状の緩和を行った症例数 会的苦痛に対する緩和を行った症例数 数で実施したがんの治療に際する妊孕性温存治療の状況(令和5年1月1日~12月31日) いの治療に際する妊孕性温存目的で精子凍結を行った患者の人数 上記のうち、精巣内精子採取術(Onco-TESE)を行った患者の人数	5 17 2 5 48 47 94 0	\(\) \(\)	288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299	
肝がん 大腸がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 声がん 声がん 声がん 声がん 声がん 前立腺がん カンテアチームに対する新規診療症例の状況(重複可)(令和5年1月1日~12月31日) 体症状の緩和を行った症例数 神症状の緩和を行った症例数 会的苦痛に対する緩和を行った症例数 数で実施したがんの治療に際する妊孕性温存治療の状況(令和5年1月1日~12月31日) いんの治療に際する妊孕性温存目的で精子凍結を行った患者の人数 上記のうち、精巣内精子採取術(Onco-TESE)を行った患者の人数	5 17 2 5 46 47 94 0 1	\(\) \(\)	288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300	
肝がん 大陽がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 乳がん 前立腺がん 前立腺がん 前立腺がん が大アチームに対する新規診療症例の状況(重複可)(令和5年1月1日~12月31日) 体症状の緩和を行った症例数 特神症状の緩和を行った症例数 会的苦痛に対する緩和を行った症例数 設で実施したがんの治療に際する妊孕性温存治療の状況(令和5年1月1日~12月31日) が人の治療に際する妊孕性温存目的で精子凍結を行った患者の人数 上記のうち、精巣内精子採取術(Onco-TESE)を行った患者の人数 が人の治療に際する妊孕性温存目的で未受精卵子の凍結保存を行った患者の人数 がんの治療に際する妊孕性温存目的で未受精卵子の凍結保存を行った患者の人数	5 17 2 5 46 47 94 0 1	\(\)	288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301	V
肝がん 大陽がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 乳がん 削のす・胆管がん 膵臓がん 乳がん 前立腺がん ケアチームに対する新規診療症例の状況(重複可)(令和5年1月1日~12月31日) 体症状の緩和を行った症例数 (神症状の緩和を行った症例数 会的苦痛に対する緩和を行った症例数 と会的苦痛に対する緩和を行った症例数 との苦痛に対する緩和を行った症例数 といの治療に際する妊孕性温存治療の状況(令和5年1月1日~12月31日) がんの治療に際する妊孕性温存目的で精子凍結を行った患者の人数 上記のうち、精巣内精子採取術(Onco-TESE)を行った患者の人数 に必つ治療に除する妊孕性温存目的で未受精卵子の凍結保存を行った患者の人数 に必つ治療に除する妊孕性温存目的で未受精卵子の凍結保存を行った患者の人数	5 17 2 5 46 47 94 0 1	\(\) \(\)	288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303	V
肝がん 大腸がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 乳がん 前立腺がん 前立腺がん 前立腺がん (前立腺がん 対称を行った症例数 (特症状の緩和を行った症例数 (会的苦痛に対する緩和を行った症例数 と会的苦痛に対する緩和を行った症例数 との苦痛に対する緩和を行った症例数 との苦痛に対する緩和を行った症例数 との苦痛に対する緩和を行った症例数 との苦痛に対する緩和を行った症例数 といる治療に際する妊孕性温存との状況(令和5年1月1日~12月31日) にいる治療に際する妊孕性温存目的で精子凍結を行った患者の人数 にいる治療に際する妊孕性温存目的で未受精卵子の凍結保存を行った患者の人数 にいる治療に際する妊孕性温存目ので受精卵(胚)の凍結保存を行った患者の人数 にいる治療に際する妊孕性温存目ので受精卵(胚)の凍結保存を行った患者の人数 にいる治療に際する妊孕性温存目ので受精卵(胚)の凍結保存を行った患者の人数 にいる治療に際する妊孕性温存目ので呼巣組織の凍結保存を行った患者の人数 にいる治療に際する妊孕性温存目ので卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数	5 17 2 5 46 47 94 0 1 1	Д Д Д Д Д Д Д	288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304	
肝がん 大腸がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 一方がん 一方がん 一方がん 一方がから 一方がらららららららららららららららららららららららららららららららららららら	5 17 2 5 46 47 94 0 1 1	人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人	288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305	
肝がん 大腸がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 乳がん 前立腺がん 前立腺がん 前立腺がん がアチームに対する新規診療症例の状況(重複可)(令和5年1月1日~12月31日) 体症状の緩和を行った症例数 神症状の緩和を行った症例数 と会的苦痛に対する緩和を行った症例数 設で実施したがんの治療に際する妊孕性温存治療の状況(令和5年1月1日~12月31日) いんの治療に際する妊孕性温存目的で精子凍結を行った患者の人数 上記のうち、精巣内精子採取術(Onco-TESE)を行った患者の人数 がんの治療に際する妊孕性温存目的で未受精卵子の凍結保存を行った患者の人数 いん治療に際する妊孕性温存目的で受精卵(胚)の凍結保存を行った患者の人数 いんの治療に際する妊孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 いんの治療に除する妊孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 はんの治療に除する妊孕性温存目ので卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 はんの治療に除する白寒造血幹細胞移植を自施設で行う体制を有している。 患者の造血器腫瘍に対する自家造血幹細胞移植を自施設で行う体制を有している。	5 17 2 5 46 47 94 0 1 1 3 0 2 0 0	人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 (はい/いいえ)	288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306	
肝がん 大腸がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 前立腺がん 前立腺がん 前立腺がん がアチームに対する新規診療症例の状況(重複可)(令和5年1月1日~12月31日) 体症状の緩和を行った症例数 神症状の緩和を行った症例数 と会的苦痛に対する緩和を行った症例数 設で実施したがんの治療に際する妊孕性温存治療の状況(令和5年1月1日~12月31日) いんの治療に際する妊孕性温存目的で精子凍結を行った患者の人数 上記のうち、精巣内精子採取術(Onco-TESE)を行った患者の人数 がんの治療に際する妊孕性温存目的で未受精卵子の凍結保存を行った患者の人数 いんの治療に際する妊孕性温存目的で乗受精卵子の凍結保存を行った患者の人数 いんの治療に際する妊孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 いんの治療に除する妊孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 いんの治療に除する妊孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 はんの治療に除する妊孕性温存目ので卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 はんの治療に除する妊孕性温存目ので卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数	5 17 2 5 46 47 94 0 1 1	人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人	288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 300 301 302 303 304 305 306 307	
肝がん 大陽がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 乳がん 前立腺がん 乳がん 前立腺がん 特症状の緩和を行った症例数 神症状の緩和を行った症例数 診で実施したがんの治療に際する妊孕性温存治療の状況(令和5年1月1日~12月31日) が人の治療に際する妊孕性温存目的で精子凍結を行った患者の人数 上記のうち、精巣内精子採取術(Onco-TESE)を行った患者の人数 がんの治療に際する妊孕性温存目的で未受精卵子の凍結保存を行った患者の人数 がんの治療に際する妊孕性温存目的で素が原子の凍結保存を行った患者の人数 がんの治療に際する妊孕性温存目的で乗発精卵子の凍結保存を行った患者の人数 がんの治療に際する妊孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 がんの治療に際する妊孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 がんの治療に際する妊孕性温存目ので卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 がんの治療に際する妊孕性温存目ので卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 がんの治療に際する妊孕性温存目ので卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 ある造血器腫瘍に対する自家造血幹細胞移植を自施設で行う体制を有している。 患者の造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植を自施設で行う体制を有している。 患者の造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植を自施設で行う体制を有している。	5 17 2 5 46 47 94 0 1 1 3 0 2 0 0	人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 (はい/いいえ)	288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 300 301 302 303 304 305 306 307 308	
肝がん 大腸がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 乳がん 前立腺がん 乳がん 前立腺がん 有力を行った症例数 同性を症状の緩和を行った症例数 同性を症状の緩和を行った症例数 同性の心がしている。 ま者の造血器腫瘍に対する経力を合いを増加を指を自施設で行う体制を有している。患者の造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植を自施設で行う体制を有している。 患者の造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植を自施設で行う体制を有している。 患者の造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植を自施設で行う体制を有している。 患者の造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植を自施設で行う体制を有している。 患者の造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植を自施設で行う体制を有している。 患者の造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植を自施設で行う体制を有している。 患者の造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植を自施設で行う体制を有している。 ま者の造血器腫瘍に対するGAR-T療法を自施設で行う体制を有している。	5 17 2 5 48 47 94 0 1 1 3 0 0 0	人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人	288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309	V
肝がん 大腸がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 前立腺がん 前立腺がん 前立腺がん が株症状の緩和を行った症例数 治神症状の緩和を行った症例数 治の治療に際する好孕性温存治療の状況(令和5年1月1日~12月31日) をの苦痛に対する緩和を行った症例数 との苦痛に対する緩和を行った症例数 との苦痛に対する緩和を行った症例数 との苦痛に際する好孕性温存自的で精子凍結を行った患者の人数 上記のうち、精巣内精子採取術(Onco-TESE)を行った患者の人数 いんの治療に際する好孕性温存目的で受精卵・胚)の凍結保存を行った患者の人数 がんの治療に際する好孕性温存目的で受精卵・胚)の凍結保存を行った患者の人数 がんの治療に際する好孕性温存目的で受精卵・胚)の凍結保存を行った患者の人数 がんの治療に際する好孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 がんの治療に際する好孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 がんの治療に際する好容性温存目ので卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 がんの治療に際する好容性温存目ので卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 がんの治療に際する好容性温存目ので卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 がんの治療に際する好容性温存目がで卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 はるの治療に際する好容性温存目がで呼ばれている。 患者の造血器腫瘍に対する自家造血幹細胞移植を自施設で行う体制を有している。 患者の造血器腫瘍に対するCAR-T療法を自施設で行う体制を有している。	5 17 2 5 46 47 94 0 1 1 3 0 2 0 0	人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 (はい/いいえ) (はい/いいえ) (はい/いいえ)	288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310	V
肝がん 大腸がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 乳がん 削立腺がん 削立腺がん 市立腺がん おけられる新規診療症例の状況(重複可)(令和5年1月1日~12月31日) 体体症状の緩和を行った症例数 神症状の緩和を行った症例数 は会的苦痛に対する緩和を行った症例数	5 17 2 5 48 47 94 0 1 1 3 0 0 0	人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人	288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309	V
肝がん 大腸がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 前立腺がん 前立腺がん 前立腺がん が株症状の緩和を行った症例数 治神症状の緩和を行った症例数 治の治療に際する好孕性温存治療の状況(令和5年1月1日~12月31日) をの苦痛に対する緩和を行った症例数 との苦痛に対する緩和を行った症例数 との苦痛に対する緩和を行った症例数 との苦痛に際する好孕性温存自的で精子凍結を行った患者の人数 上記のうち、精巣内精子採取術(Onco-TESE)を行った患者の人数 いんの治療に際する好孕性温存目的で受精卵・胚)の凍結保存を行った患者の人数 がんの治療に際する好孕性温存目的で受精卵・胚)の凍結保存を行った患者の人数 がんの治療に際する好孕性温存目的で受精卵・胚)の凍結保存を行った患者の人数 がんの治療に際する好孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 がんの治療に際する好孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 がんの治療に際する好容性温存目ので卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 がんの治療に際する好容性温存目ので卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 がんの治療に際する好容性温存目ので卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 がんの治療に際する好容性温存目がで卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 はるの治療に際する好容性温存目がで呼ばれている。 患者の造血器腫瘍に対する自家造血幹細胞移植を自施設で行う体制を有している。 患者の造血器腫瘍に対するCAR-T療法を自施設で行う体制を有している。	5 17 2 5 46 47 94 0 1 1 3 0 2 0 0 0 1 は は い し は り し し し し し し し し し し し し し し し し し	人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 (はい/いいえ) (はい/いいえ) (はい/いいえ)	288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310	
肝がん 大陽がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 前立腺がん 前立腺がん 前立腺がん 前立腺がん がアチームに対する新規診療症例の状況(重複可)(令和5年1月1日~12月31日) 体症状の緩和を行った症例数 は存金がの緩和を行った症例数 と会的苦痛に対する緩和を行った症例数 と変施したがんの治療に際する好孕性温存治療の状況(令和5年1月1日~12月31日) いの治療に際する好孕性温存目的で精子凍結を行った患者の人数 上記のうち、精巣内精子採取術(Onco-TESE)を行った患者の人数 いの治療に際する好孕性温存目的で未受精卵子の凍結保存を行った患者の人数 いの治療に際する好孕性温存目的で受精卵(胚)の凍結保存を行った患者の人数 いの治療に際する好孕性温存目的で受精卵(胚)の凍結保存を行った患者の人数 いの治療に際する好孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 いの治療に際する好孕性温存目ので卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 いの治療に際する好容性温存目ので卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 いの治療に際する好容性温存目ので卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 いの治療に際する好容性温存目ので卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 いの治療に際する好容性温存目ので卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 いの治療に際する好容性温存目ので卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 いの治療に際するの治療について 要級を開催している。 しがん患者への対応について 学級を開催している(院内学級とは、ここでは院内に設置された小・中学特別支援学級、特別支援学校を指す)。 ・ 現がん患者と家族が利用できる宿泊施設を院内に整備している。	5 17 2 5 46 47 94 0 1 1 3 0 2 0 0 0 1 はよい はよい	人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 (はい/いいえ) (はい/いいえ) (はい/いいえ) (はい/いいえ)	288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311	
肝がん 大陽がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 乳がん 前立腺がん 刺がん 前立腺がん 対から	5 17 2 5 46 47 94 0 1 1 3 0 2 0 0 0 1 はい はい	人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 (はい/いいえ) (はい/いいえ) (はい/いいえ) (はい/いいえ) (はい/いいえ)	288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312	V
肝がん 大腸がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 乳がん 前立腺がん 刺立腺がん 刺立腺がん 刺立腺がん 刺立腺がん 刺立腺がん 神症状の緩和を行った症例数 会的苦痛に対する緩和を行った症例数 会的苦痛に対する緩和を行った症例数 会的苦痛に対する緩和を行った症例数 と変変施したがんの治療に際する妊孕性温存治療の状況(令和5年1月1日~12月31日) んの治療に際する妊孕性温存目的で精子凍結を行った患者の人数 上記のうち、精巣内精子採取術(Onco-TESE)を行った患者の人数 にんの治療に際する妊孕性温存目的で受精卵(胚)の凍結保存を行った患者の人数 んの治療に際する妊孕性温存目的で受精卵(胚)の凍結保存を行った患者の人数 んの治療に際する妊孕性温存目的で受精卵(胚)の凍結保存を行った患者の人数 んの治療に際する妊孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 んの治療に際する妊孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 んの治療に際する妊孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 んの治療に際する妊孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 。ま者の造血器腫瘍に対する自家造血幹細胞移植を自施設で行う体制を有している。 患者の造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植を自施設で行う体制を有している。 患者の造血器腫瘍に対するCAR-T療法を自施設で行う体制を有している。 患者の造血器腫瘍に対するCAR-T療法を自施設で行う体制を有している。 患者の造血器腫瘍に対するCAR-T療法を自施設で行う体制を有している。 患者の造血器腫瘍に対するCAR-T療法を自施設で行う体制を有している。 患者の造血器腫瘍に対するCAR-T療法を自施設で行う体制を有している。 したがん患者と家族が利用できる宿泊施設を院外に整備している。 小児がん患者と家族が利用できる宿泊施設を院外の最寄宿泊施設院から自施設までの移動時間(該当施設がない場合にはOを記入)	5 17 2 5 46 47 94 0 1 1 3 0 2 0 0 0 1 はい はい	人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 (はい/いいえ) (はい/いいえ) (はい/いいえ) (はい/いいえ) (はい/いいえ)	288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313	V
肝がん 大腸がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 乳がん 前立腺がん 前立腺がん 前立腺がん 物症状の緩和を行った症例数 会的苦痛に対する観和を行った症例数 との苦痛に対する緩和を行った症例数 との苦痛に対する緩和を行った症例数 との苦痛に対する緩和を行った症例数 との苦痛に対する緩和を行った症例数 との苦痛に対する緩和を行った症例数 との治療に際する妊孕性温存目的で精子凍結を行った患者の人数 上記のうち、精巣内精子採取術(Onco-TESE)を行った患者の人数 ルの治療に際する妊孕性温存目的で未受精卵子の凍結保存を行った患者の人数 ルの治療に際する妊孕性温存目的で未受精卵子の凍結保存を行った患者の人数 ルの治療に際する妊孕性温存目的で明巣組織の凍結保存を行った患者の人数 ルの治療に際する妊孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 ルの治療に際する妊孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 ルの治療に際する妊孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 ルの治療に際する妊孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 ルの治療に際する妊孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 しいる治療に際する妊孕性温存目がの卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数 といの治療に下でる妊娠性温を関係を行う体制を有している。 患者の造血器腫瘍に対する自療造血幹細胞移植を自施設で行う体制を有している。 患者の造血器腫瘍に対するGAR-T療法を自施設で行う体制を有している。 患者の造血器腫瘍に対するGAR-T療法を自施設で行う体制を有している。 しがん患者と家族が利用できる宿泊施設を院内に整備している。 小児がん患者と家族が利用できる宿泊施設を院外に整備している。 小児がん患者と家族が利用できる宿泊施設を院外の最寄宿泊施設院から自施設までの移動時間(該当施設がない場合には0を記入)	5 17 2 5 46 47 94 0 1 1 3 0 0 0 0 0 ははい はない はない しない しない しない しない しない しない しない しない しない し	人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 (はい/いいえ) (はい/いいえ) (はい/いいえ) (はい/いいえ) (はい/いいえ)	288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 311 312 313 314 315	V
肝がん 大陽がん 胆のう・胆管がん 膵臓がん 乳がん 前立腺がん 刺がん 前立腺がん 対から	5 17 2 5 46 47 94 0 1 1 3 0 2 0 0 0 1 はい はい	人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 (はい/いいえ) (はい/いいえ) (はい/いいえ) (はい/いいえ) (はい/いいえ)	288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313	V

2 医療機関名 青森県立中央病院 3 推薦類型 都道府県がん診療連携拠点病院 【凡例】
A:必須要件
B:望ましい(*)
C:望ましい
A:参考(左記の記入箇所に該当しない部分は回答不要)
・参考(左記の記入箇所に該当しない部分は回答不要) (※特定機能病院である場合には、Ⅲにも回答すること。)
(※特定機能病院である場合には、Ⅲにも回答すること。)

本		育業県立中央病院 都道府県がん診療連携拠点病院	_		
	月時点指定類	都道府県がん診療連携拠点病院			
地域がん診	がん診療連携 診療連携拠点 がん診療連携	: Ⅱ (※特定機能病院である場合には、Ⅲにも回答すること。)	C:望ま A/-:参	頁要件 ましい(*) ましい まま(左記の記入)	箇所に該当しない部分は回答不要) 所に該当しない部分は回答不要)
				会和6年9月1	
旨針の箇所 T 地域が		要件 病院の指定要件について	要件区分	令和6年9月1 日時点の状況	備考欄
	8道府県協議:		A	はい	
		その際、各が人医療圏におけるがん医療の資を向上させるため、当該が人医療圏を代表して都道府県協議会の運営にあたるとともに、都 県協議会の方針に沿って各がん医療圏におけるがん医療が適切に提供されるよう努めている。		はい	
	診療体制 1)診療機能				
	① 集学	療等の提供体制及び標準的治療等の提供 我が国に多いがん(大腸がん、肺がん、胃がん、乳がん、前立腺がん及び肝・胆・膵のがんをいう。以下同じ。)を中心にその他各医療機関	が真		
	ア	門とするがんについて、手術、放射線治療及び薬物療法を効果的に組み合わせた薬学的治療、リハビリテーション及び緩和ケア(以下「薬・治療等」という。)を提供する体制を有するとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療(以下「標準的治療」という。)等がん患者	学的	はい	別紙2に詳細を記載してください。
		状態に応じた適切な治療を提供している。 我が国に多いがんの中でも症例の集約化により治療成績の向上が期待されるもの等、当該施設において集学的治療等を提供しない場合	.1-	(41)	Differ at 1 - 24 fem de 20 de
	1	は、適切な医療に確実につなげることができる体制を構築している。 医師からの診断結果や病状の説明時及び治療方針の決定時等には、以下の体制を整備している。	A A	はい	別紙3に詳細を記載してください。
		患者とその家族の希望を除主え、看護師や公認心理師事が同僚している。 治療プロセス全体に関して、患者とともに考えながら方針を決定している。 操準治療として複数の診療科が関与する選択肢がある場合に、その知見のある診療科の受診ができる体制を確保している。	A A	はい	
	ウ	標準治療として複数の診療科が関与する選択肢がある場合に、その知見のある診療科の受診ができる体制を確保している。 がん患者の病態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、以下のカンファレンスをそれぞれ必要に応じて定期的に開催している。	A	はい	
		個別もしくは少数の診療科の医師を主体とした日常的なカンファレンス	А	はい	各診療科で日常的に開催している場合は"はい"を選択してくたい。
		個別もしくは少数の診療科の医師に加え、看護師、薬剤師、必要に応じて公認心理師や緩和ケアチームを代表する者等を加えた、症例へく 応方針を検討するカンファレンス	A	はい	各診療科で日常的に開催している場合は"はい"を選択してくたい。
		手術、放射線診断、放射線治療、薬物療法、病理診断及び緩和ケア等に携わる専門的な知識及び技能を有する医師とその他の専門を異しる医師等による、骨転移・原発不明がん・希少がんなどに関して臓器横断的にがん患者の診断及び治療方針等を意見交換・共有・検討・確	にす 在認等 A	1	・一ヶ月当たりの開催回数を記載してください。(●回/月)
		するためのカンファレンス 臨床倫理的、社会的な問題を解決するための、具体的な事例に則した、患者支援の充実や多職種間の連携強化を目的とした院内全体の: 発信によるも、コート・フ	多職 A	4	・一ヶ月当たりの開催回数を記載してください。(●回/月) ・別紙4に詳細を記載してください。
		種によるカンファレンス ルのカンファレンスを月1回以上開催している。 検討した内容について、診療験に記録の上、関係者間で共有している。	A	はい	* かりが、年1~6千本田で 記し取し こください。
	I	模式にCM谷について、珍娥誠に記録の主、関係者間に先有している。 院内の緩和ワテチーム、口腔ケアチーム、栄養サポートチーム、感染防止対策チーム等の専門チームへ、医師だけではなく、看護師や薬剤 等他の診療従事者からも介入依頼ができる体制を整備している。	A 削師 A	はい	別紙19に詳細を記載してください。
	t	<u>寺畑の診療な事者からもが人な現かできる体制を登慮している。</u> 保険適用外の免疫療法等について、治験、先進医療、臨床研究法(平成29年法律第16号)で定める特定臨床研究または再生医療等の安: の確保等に関する法律(平成25年法律第85号)に基づき提供される再生医療等の枠組み以外の形では、実施・推奨していない。	全性 A	はい	
		保険適用外の免疫療法等について、提供または推奨している場合は、上記のどの枠組みに該当するか明記すること。	_	治験	
	② 手術:	(なお、提供または推奨していない場合は、「なし」と記入すること。) 、放射線療法、薬物療法の提供体制の特記事項			
	7	術中迅速病理診断が可能な体制を確保している。(なお、当該体制は遠隔病理診断でも可とする。) 術中迅速病理診断を遠隔病理診断で対応依頼することが、	A 「ある。 -	はいいえ	
	1	術後管理体制の一環として、手術部位感染に関するサーベイランスを実施している。 厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業(JANIS)へ登録している。	A C	はい	
	ゥ	強度変調放射線治療を提供している。 外来での核医学治療(RI内用療法)を提供している。	C C	はい	
	I	密封小線源治療について、地域の医療機関と連携し、役割分担している。 自施設で密封小線源治療に必要な放射線治療病室を整備して	A いる。 -	はいいえ	
	オ	専用治療病室を要する核医学治療(R内用療法)や粒子線治療等の高度な放射線治療について、患者に情報提供を行うとともに、必要に 適切な医療機関へ紹介する体制を整備している。	^	はい	
		RI内用療法に必要な放射線治療病室を整備して 粒子線治療に必要な放射線治療設備を整備して	いる。 -	いいえいいえ	
) b	関連する学会のガイドライン等も参考に、第三者機関による出力線量測定を行い、放射線治療の品質管理を行っている。 直近で実施した第三者機関による出力線量測定の時期を明記すること。(YYYY/MM、例:20:	A 02309) -	202311	
		測定機関名を記入する	i=د	医用原子力技 術振興財団	
	+	基準線量の±5%の水準以内で		はい	
	<u>ク</u>	画像下治療(IVR)を提供している。 免疫関連有害事象を含む有害事象に対して、他診療科や他病院と連携する等して対応している。 薬物療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会を設置している。	C A A	はい	
	③ 緩和	来他派法のロシアンと参互し、和機的に目注する安良云と改良している。 が投機体制 がん診療に携わる全ての診療従事者により、全てのがん患者に対し入院、外来を問わず日常診療の定期的な確認項目に組み込むなど頻		はい	
	7	が心が振い張り込む。 といめが成立中日により、主くのかの思想に対したが、ゲイスと同わり日本がかりた時間が確認が共日に他のか記しなど頻 苦痛の把握に努め、必要な緩和ケアの提供を行っている。 がん患者の身体的苦痛や精神心理的苦痛、社会的な問題等の把握及びそれらに対する適切な対応を、	^	はい	
	1	診断時から一貫して経時的に行っている。 診断や治療方針の変更時には、ライフステージ、就学・就労、経済状況、家族との関係性等、がん患者とその家族にとって重要な問題につ	A A	はい	
	ż	<u>て、</u> 患者の希望を踏まえて配慮や支援ができるよう努めている。 ア、イを実施するため、がん診療に携わる全ての診療従事者の対応能力を向上させることが必要であり、これを支援するために組織上明確	^	はい	別紙8に詳細を記載してください。
	´ [置付けられた緩和ケアチームにより、以下を提供するよう体制を整備している。 定期的に病棟ラウンド及びカンファレンスを行い、依頼を受けていないがん患者も含めて苦痛の把握に努めるとともに、適切な症状緩和に、		はい	別紙8に詳細を記載してください。
		て協議し、必要に応じて主体的に助言や指導等を行っている。 (2)の②のウに規定する看護師は、苦痛の把握の支援や専門的緩和ケアの提供に関する調整等、外来・病棟の看護業務を支援・強化する 対は、アンスト	る役 A	はい	別紙8に詳細を記載してください。
	I	割を担っている。 主治医及び看護師、公認心理師等と協働し、適切な支援を実施している。 事者が必要な経知します。現代もようと経動し、適切な支援を実施している。	A	はい	
		患者が必要な緩和ケアを受けられるよう、緩和ケア外来の設置など外来において専門的な緩和ケアを提供できる体制を整備している。 自施設のがん患者に限らず、他施設でがん診療を受けている、または受けていた患者についても受入れを行っている。 緩和ケア外来等への患者紹介について、地域の医療機関に対して広報等を行っている。	Ā	はい	別紙5に詳細を記載してください。
	オ	級ポインア ルマー、のこもは バーとは、ビスタの医療域所に対しては報号と打っている。 医療用麻薬等の鎮痛薬の初回使用時や用量の増減時には、医師からの説明とともに薬剤師や看護師等により、外来・病棟を問わず医療 薬等を自己管理できるよう指導している。		はい	
	b	その際には、自起式の服業記録を整備活用している。 院内の診療従事者と緩和ケアチームとの連携を以下により確保している。	A	はい	
		銀和ケアチームへがん患者の診療を依頼する手順等、評価された苦痛に対する対応を明確化し、院内の全ての診療従事者に周知するとと に、患者とその家族に緩和ケアに関する診療方針を提示している。		はい	
		緩和ケアの提供体制について緩和ケアチームへ情報を集約するために、がん治療を行う病棟や外来部門に、緩和ケアチームと各部署をつ 役割を担うリンクナースなどを配置している。	oなぐ c	はい	リンクナース: 医療施設において、各種専門チームや委員会と 看護師等をつなぐ役割を持つ看護師をいう。
	+	患者や家族に対し、必要に応じて、アドバンス・ケア・ブランニングを含めた意思決定支援を提供できる体制を整備している。	А	はい	アドバンス・ケア・ブランニング:人生の最終段階の医療・ケア「 て、本人が家族等や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合
	2	アからキにより、緩和ケアの提供がなされる旨を、院内の見やすい場所での掲示や入院時の資料配布、ホームページ上の公開等により、た	がん A	はい	セスのこと。
	7	患者及び家族に対しわかりやすく情報提供を行っている。 かかりつけ医等の協力・連携を得て、主治医及び看護師が緩和ケアチームと共に、退院後の居宅における緩和ケアに関する療養上必要な 現実が地薄をよっている。		はい	
	=	及び指導を行っている。 疼痛緩和のための専門的な治療の提供体制等について、以下の適り確保している。	A	はい	別紙7に詳細を記載してください。
		難治性疼痛に対する神経ブロック等について、自施設における麻酔科医等との連携等の対応方針を定めている。 自施設で実施が困難なために、外部の医療機関と連携して実施する場合には、その詳細な連携体制を確認している。	A	はい	76行目・77行目のいずれかが"はい"の場合のみ、自動的に" が選択されます。
		自施設で実施が可能で		はいいえ	が姓代されまり。
		連携する外部の医療機関に患者を紹介して実施して ホームページ等で、神経ブロック等の自施設における実施状況や連携医療機関名等、その実施体制について分かりやすく公表している。 緩和的放射線治療を患者に提供できる体制を整備している。	A A	はい	
		級対印度が対象に加えると当ら返れてどる下明と主席のしてつ。 自施設の診療従事者に対し、緩和的放射線治療の院内での連携体制について周知していることに加え、連携する医療機関に対し、患者の れ等について周知している。		はい	
		ホームページ等で、自施設におけるこれらの実施体制等について分かりやすく公表している。 全てのがん患者に対して苦痛の把握と適切な対応がなされるよう緩和ケアに係る診療や相談支援、患者からのPRO(患者報告アウトカム)	A.). 医 .	はい	PRO: 自覚症状やQOLに関する対応の評価のために行う患者
) サ	療用麻薬の処方量など、院内の緩和ケアに係る情報を把握し、検討・改善する場を設置している。 それを踏まえて自施設において組織的な改善策を講じる等、緩和ケアの提供体制の改善に努めている。	A	はい	観的な報告をまとめた評価のこと。
	④ 地域:	の推進体制 がん患者の紹介、逆紹介に積極的に取り組むとともに、以下の体制を整備している。	A	はい	
	[緩和ケアの提供に関して、当該がん医療圏内の緩和ケア病棟や在宅緩和ケアが提供できる診療所等のマップやリストを作成する等、患者 の家族に対し常に地域の緩和ケア提供体制について情報提供できる体制を整備している。	やそ A	はい	
		希少がんに関して、専門家による適切な集学的治療が提供されるよう、他の拠点病院等及び地域の医療機関との連携及び情報提供ができ 体制を整備している。	^	はい	
		高齢のがん患者や障害を持つがん患者について、患者や家族の意思決定支援の体制を整え、地域の医療機関との連携等を図り総合的に している。	A	はい	
1 1	1	介護施設に入居する高齢者ががんと診断された場合に、介護施設等と治療・緩和ケア・看取り等において連携する体制を整備している。 地域の医療機関の医師と診断及び治療に関する相互的な連携協力体制・教育体制を整備している。	A	はい	
	ウェ	当該が人医療圏内のがん診療に関する情報を集約し、当該が人医療圏内の医療機関やが人患者等に対し、情報提供を行っている。 が人患者に対して、周病期の口腔健康管理や、治療中の副作用・合併症対策、口腔リハビリテーションなど、必要に応じて腕内又は地域の 医院に実施して対応している。	A D歯科 A	はい	別紙29に詳細を記載してください。
		医師と連携して対応している。 地域連携時には、がん疼痛等の症状が十分に緩和された状態での退除に努め、退院後も在宅診療の主治医等の相談に対応するなど、院 の緩和ケアに財オスシ森がな空铃毒でも維経」で実装できるは製た整備している。		はい	
	オ	の緩和ケアに関する治療が在宅診療でも継続して実施できる体制を整備している。 退院支援に当たっては、主治医、緩和ケアチーム等の連携により療養場所等に関する意思決定支援を行うとともに、必要に応じて地域の在	在中		
	h	返院又接に当につくは、土内区、破付!!アーム寺の連携により派士場門寺に関する息志次定又接を1]つCCでに、必安に応して地域の1. 診容に推力る医師や訪問看護師等と退停前カンファレンスを室飾! でいろ	A	はい	
		返院文原に当にプロは、上海医、強例/アナーム等の連絡はより改奏が開かって同りの忘志水足文度で打りとこのに、必要に応じて地域の作 参應に携わる医師や訪問者護師等と退院前カンアレンスを実施している。 当該が人医療順において、地域の医療機関や在宅務要支援診療所等の医療・介護従事者とがんに関する医療提供体制や社会的支援、制 ケアについて情報を共有し、役勢分担や支援等について検討する場をギョ回以上設けている。	A	はい	

11 指針	の箇所			要件	要件区分	令和6年9月1 日時点の状況	備考欄
97			ク	都道府県や地域の患者会等と連携を図り、患者会等の求めに応じてピア・サポートの質の向上に対する支援等に取り組んでいる。	А	はい	ビア・サポート: 患者・経験者やその家族がビア(仲間)として体験を 共有し、共に考えることで、患者や家族等を支援すること。
98		(5)	セカンドオ ア	ドピーオンに関する体制 医師からの診断結果や病状の説明時及び治療方針の決定時等において、すべてのがん患者とその家族に対して、他施設でセカンドオピニオン を受けられることについて説明している。	A	はい	
100 101				説明の際、心理的な障壁を取り除くことができるよう留意している。 がん患者に対するB-010 診療情報提供書(II)の算定件数 (期間:令和5年1月1日~12月31日)	A -	はい 52	
102			イウ	当該施設で対応可能ながんについて、手所療法、放射線療法、薬物療法又は緩和ケアに携わる専門的な知識及び技能を有する医師によりセカンドオピニオンを提示する体制を整備し、患者にわかりやすく公表している。 セカンドオピニオンを提示する場合は、必要に応じてオンラインでの相談を受け付けることができる体制を確保している。	A	はい	
104		6	それぞれ	の特性に応じた診療等の提供体制 希少がん・難治がんの患者の診断・治療に関しては、積極的に都道府県協議会における役割分担の整理を活用し、対応可能な施設への紹介	A	はい	
106			1	やコンサルテーションで対応している。 小児が心患者で長期フォローアップ中の患者については、小児が心拠点病院や連携する医療機関と情報を共有する体制を整備している。 各地域のが小・生殖医療ネットワークに加入し、「小児・AYA世代のが心患者等の好単性温存療法研究促進事業」へ多面するとともに、対象とな	Α	はい	
107			ゥ	りうる患者や家族には必ず治療開始前に情報提供している。 患者の希望を確認するとともに、がん治療を行う診療科が中心となって、院内または地域の生殖医療に関する診療科とともに、妊孕性温存療法	A	はい	
109				及びがん治療後の生殖補助医療に関する情報提供及び意思決定支援を行う体制を整備している。 自施設において、がん・生殖医療に関する意思決定支援を行うことができる診療従事者の配置・育成に努めている。	A	はい	別紙10に詳細を記載してください。 妊孕性:子どもをつくるために必要な能力のこと。精子や卵子だけで
110			I	就学、就労、好孕性の温存、アピアランスケア等に関する状況や本人の希望についても確認し、自施設もしくは連携施設のがん相談支援センターで対応できる体制を整備している。	А	はい	はなく、性機能や生殖器、内分泌機能も重要な要素である。 アピアランスケア:医学的・整容的・心理社会的支援を用いて、外見
111				それらの相談に応じる多職種からなるAYA世代支援チームを設置している。	С	いいえ	の変化を補完し、外見の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケアのこと。 別紙10に詳細を記載してください。
112				一般社団法人AYAがんの医療と支援のあり方研究会の開催する「AYA世代がんサポート研修会」を受けた院内の診療従事者の人数 (尚、AYA世代支援チームに在籍する者に限らない)	-	2	/列参以101~6十分組 C. おし 取込 し く \ / _ ご い 。
113 114 115			オ	高齢者のがんに関して、併存症の治療との両立が図れるよう、関係する診療科と連携する体制を確保している。 意思決定能力を含む機能評価を行い、各種ガイドラインに沿って、個別の状況を踏まえた対応をしている。 高齢のが心患者に関して、必要に応じて高齢者総合機能評価を行っている。	A A	はい	別紙10に詳細を記載してください。
116 117	(2	2) 診療	力	両部のかんを甘に関して、必要に応じて同語性を自成化が開ごりている。 医療機関としてのBCPを策定している。	В	はい	列の以101~6十分組 C 出し 現入し く 1/2 ご い '。
118		1	専門的な	知識及び技能を有する医師の配置 ※以下、常勤職員の人数を回答する項目において、非常動職員を常動換算して常勤職員と合算することは2	「可です。		常勤:原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をい
119			7	当該施設で対応可能ながんについて専門的な知識及び技能を有する手術療法に携わる常勤の医師の人数	Α	7	う。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合 は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。 ※一人以上の配置が必要です。
120			1	専任の放射線診断に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数	A	3	専任: 毎任とは当該診療の実施を専ら担当していることをいう。この 場合において、時も担当している」とは、その他診療を発任していて も差し支えないものとする。ただし、その飲業時間の少なくとも5割以 上、当該診療に従事している必要があるものとする。 ※一人以上の配置が必要です。 毎後: 寿後とは当該診療の実施日において、当該診療に専ら従事し
121			ゥ	専従の放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する常動の医師の人数	A	3	等性: 等性とは当該診療が与患的において、「当該診療に等のは争していることをいう。この場合において、「事の従事している」とは、その 就業時間の少なくとも8割以上、当該診療に従事していることをい う。 ※一人以上の配置が必要です。
122 123			ェオ	専従の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数 繊和ケアチームに配置されている、専任の身体症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する常動の医師の人数	A	1 3	※一人以上の配置が必要です。 ※一人以上の配置が必要です。 ※一人以上の配置が必要です。
124 125				緩和ケアチームに配置されている。専徒の身体症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する常動の医師の人数 緩和ケアチームに配置されている。専任の身体症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する常動の医師のうち、 緩和ケアに関する専門資格を有する者の人数	C	0	
126 127				緩和ケアチームに配置されている。精神症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数 緩和ケアチームに配置されている。精神症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数 緩和ケアチームに配置されている。専任の精神症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数	A C	1	※一人以上の配置が必要です。
128 129 130		(0)	カキ	専従の病理診断に携わる専門的な知識及び技能を有する常動の医師の人数 リハビリテーションに携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数	A C	1 6	※一人以上の配置が必要です。
130		(2)	専門的な	知識及び技能を有する医師以外の診療従事者の配置 放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する常動の診療放射線技師の人数	В	7	※二人以上の配置が望ましい(*)。少なくとも一人の配置は必要です。
132 133				上記の診療放射線技師のうち、放射線治療に関する専門資格を有する者の人数 専従の放射線治療における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の技術者 等の人数 上記の技術者のうち、医学物理学に関する専門資格を有する者の人数	C A	3 3	※一人以上の配置が必要です。
135				上記の技術者の門に配置されている、専従の放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の看護師の人数 上記の看護師のうち、放射線治療に関する専門会知識及び技能を有する常勤の看護師のうち、放射線治療に関する専門資格を有する者の人数 上記の看護師のうち、放射線治療に関する専門資格を有する者の人数	A C	5	※一人以上の配置が必要です。
136 137 138			1	<u>専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常動の薬剤師の人数</u> 上記の薬剤師のうち、がん薬物療法に関する専門資格を有する者の人数	A C	3 1 8	※一人以上の配置が必要です。
139 140 141			ゥ	外来化学療法室に配置されている、専従の棄物療法に接わる専門的な知識及び技能を有する常勤の看護師の人教 上記の看護師のうち、がへ看護又はが人業物療法に関する専門資格を有する者の人数 緩和ケアチームに配置されている、専従の緩和ケアに携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の看護師の人数	C A	1 4	※一人以上の配置が必要です。 ※一人以上の配置が必要です。
142			I	上記の看護師のうち、がん看護又は緩和ケアに関する専門資格を有する者の人数 緩和ケアチームに配置されている、緩和ケアに携わる専門的な知識及び技能を有する薬剤師の人数 (他部署との兼任を可とする。)	A A	2 3	※一人以上の配置が必要です。 ※一人以上の配置が必要です。
144 145 146				上記の薬剤師のうち、緩和薬物療法に関する専門資格を有する者の人数 緩和ケアチームに配置されている。相談支援に携わる専門的な知識及び技能を有する者の人数 (他部署との兼任を可とする。) 上記工の相談支援に携わる専門的な知識及び対能を有する者の人数	A C	2 2 2	※一人以上の配置が必要です。
147			オ	エールールでは欧ス国にあれる場合のフラス・江云では、このではのスタント 上記工の相談支援に携わる者のうち、精神保健福祉士である者の人数 緩和ケアチームに協力する、公認心理師等の医療心理に携わる専門的な知識及び技能を有する者の人数	C B	0	
149 150			カ	オの医療心理に携わる者のうち、公認心理師である者の人数 専任の細胞診断に係る業務に携わる専門的な知識及び技能を有する者の人数	- A	1 8	※一人以上の配置が必要です。
151 152 153			+	上記の診療従事者のうち、細胞診断に関する専門資格を有する者の人数 がんのリハビリテーションに係る業務に携わる専門的な知識および技能を有する理学療法士、作業療法士、言語聴覚士学の人数 がんのリハビリテーションに係る業務に携わる専門的な知識および技能を有する理学療法士の人数	C C	8 19 7	
154 155				がんのリハビリテーションに係る業務に携わる専門的な知識および技能を有する作業療法士の人数 がんのリハビリテーションに係る業務に携わる専門的な知識および技能を有する言語聴覚士の人数	C C	7 5	
156 157	(3	1	他の環境	整備等 題者とその家族が利用可能なインターネット環境を整備している。 集学的治療等の内容や治療前後の生活における注意点等に関して、冊子や視聴覚教材等を用いてがん患者及びその家族が自主的に確認で	С	はい	別紙9に詳細を記載してください。
158 159		2		<u>きる環境を整備している。</u> その冊子や視聴覚教材等はオンラインでも確認できる。	A C	はい	
160		34		がん治療に伴う外見の変化について、がん患者及びその家族に対する説明やアピアランスケアに関する情報提供・相談に応じられる体制を整備している。	A	はい	District and Street Street
161 162 163		4)		がん患者の自殺リスクに対し、腕内で共通したフローを使用し、対応方法や関係機関との連携について明確にしている。 対応方法や関係機関との連携について、関係職種に情報共有を行う体制を構築している。 自施設に精神科、心療内科等がある。	A A	はい	別紙14に詳細を記載してください。
164 165				自施設でがん患者の自殺リスクに対応できる。 自施設に精神科、心療内科等がない場合は、地域の医療機関と連携体制を確保している。	-	はい	自施設に精神科はあるが、自施設単体で対応できない場合も回答
166 167		療実績	i				してください。
170 172		①	7	同一のがん医療圏内にすでに指定されているがん診療連携拠点病院が存在している。 院内がん登録数	A A	いいえ 2130	計上方法:入院、外来は問わない自施設初回治療分。症例区分20
173			1	(基準:年間500件以上、期間:令和5年1月1日~12月31日)	A	904	および30の数をいう。 計上方法: 医科診療報酬点数表第2章第 10 部に掲げる悪性腫瘍 手術をいう。(病理診断により悪性腫瘍であることが確認された場合
			•	(基準:年間400件以上、期間:令和5年1月1日~12月31日) がんに係る薬物療法のべ患者数			に限る。)なお、内視鏡的切除も含む。 計上方法:経口、静注または皮下注射による全身投与を対象とす
174			ゥ	(基準:年間1,000人以上、期間:令和5年1月1日~12月31日)	A	3747	る。ただし内分泌療法単独の場合は含めない。なお、患者数については1レジメンあたりを1人として計上する。
175				うち、外来化学療法の<出名数 (期間: 今和6年1月1日 ~ 12月31日)	-	3142	計上方法・医科診療報酬点数表第2章第12部の放射線治療に含ま
176			ェオ	放射線治療のべ患者数 (基準:年間200人以上、期間:令和5年1月1日~12月31日) 緩和ケアチームの新規介入患者数	A	510 94	れるものとする。ただし、血液照射は除く。なお、患者数については 複数節位照射する場合でも、一連の治療計画であれば1人として計 上する。 計上方法:患者数については同一入院期間内であれば複数回介入
179		2	4	(基準:年間50人以上、期間: 令和5年1月1日~12月31日) 当該がん医療圏に居住するがん患者の診療実績の割合(%)	A	33.0	しても1人として計上する。 右隣シート「(参考)診療割合算出表」を適宜ご参照ください。 「①を概ね満たすこと」については、「アからオのそれぞれの9割以上
186				3(1)①または②を標ね満たすこと。 なお、同一がん医療圏に複数の地域拠点病院を指定する場合は、①の項目を全て満たすこと。	A	はい	「登成は何にすこと」といい、「かからかけれてれいの対していること」と変され、「②を概ね満たすこと」については、当該が 体医療圏に居住するがん患者のうち、「18%以上の診療実績がある こと」と定義されている。なお、同一がん医療圏に複数の地域拠点病 院を指定する場合は、「の項目を全て満たすこと。
187 188		.材育成 1)	等	自施設において、2に掲げる診療体制その他要件に関連する取組のために必要な人材の確保や音成に積極的に取り組んでいる。 後に、診察の療え高めよとかに必要な、を接受会が認定する液体集の即進についても整体的に表現している。	Ą	はい	
190		2)		特に、診療の質を高めるために必要な、各種学会が認定する資格等の取得についても積極的に支援している。 広告可能な資格を有する者のがん診療への配置状況について積極的に公表している。 病院長は、自施設においてがん医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師等の専門性及び活動実績等を定期的に評価し、当該医師	A	はい	
191		2)		等がその専門性を十分に発揮できる体制を整備している。 「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」(平成29年12月1日付け健発1201第2号厚生労働省健康局長通知の別	A	はい	
192	(3	3)		高)に準拠し、当該がん医療圏においてがん診療に携わる医師を対象とした緩和ケアに関する研修を、都道府県と協議の上、開催している。 自施設の長、および自施設に所属する臨床研修医及び1年以上自施設に所属するがん診療に携わる医師・歯科医師が当該研修を修了する体	Α		
194				制を整備している。 受講率を現況報告において以下の通り報告する。	A	はい	
195 196 197				令和6年9月1日時点で自施設に所属する初期臨床研修医の人数 うち当該研修会修了者数 受講率(%)	_ _ _	34 15 44.1%	
198				1年以上自施設に所属するが心診療に携わる医師・歯科医師の人数(初期臨床研修医を除く)	-	79	

11 指:	針の箇所		要件	要件区分	令和6年9月1	備考欄
199	, V E I		うち当該研修会修了者数	- 東〒 <u> </u> 2万 -	日時点の状況 72	µस रु _न नाम
200			受講率(%) 受講率(%) 医師・歯科医師と協働し、緩和ケアに従事するその他の診療従事者についても受講を促している。	- A	91.1%	
201 202 203	(4)		研修修了者について、患者とその家族に対してわかりやすく情報提供している。 連携する地域の医療施設におけるがん診療に携わる医師に対して、緩和ケアに関する研修の受講勧奨を行っている。	A	はい	
204	(5)		(3)のほか、当該が人医療圏において前の見える関係性を構築し、がん医療の質の向上につながるよう、地域の診療従事者を対象とした研修やカンファレンスを定期的に開催している。 自施設の診療後事者等に、がん対策の目的や衰養、がん患者やその家族が利用できる制度や関係機関との連携体制、自施設で提供している。	Α	はい	
205	(6)		日地区の砂水は中国中に、バルガスが日前でも終、バルの日間でしかる旅が利用できる前及で関係協関との連携が呼が、日地区ではためである。 参携・患者支援の体制について学ぶ機会を年1回以上確保している。 自施設のがん診療に携わる全ての診療従事者が受講している。	A C	はい いいえ	
207		ļ	令和5年1月1日~12月31日の開催回数	-	2	
208			令和5年1月1日~12月31日の期間に実施した研修のうち、代表的な内容を一つ記載してください。	-	緩和ケア研修 会	
209 210	(7)		院内の看護師を対象として、がん看護に関する総合的な研修を定期的に実施している。 令和5年1月1日~12月31日の開催回数	Α _	はい	
211			令和5年1月1日~12月31日の期間に実施した研修のうち、代表的な内容を一つ記載してください。	_	がん患者のサ	
212		-		Α	ポーティブケア	
213	(8) 5 相談支援		他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に参加させている。 医科歯科連携による口腔健康管理を推進するために、歯科医師等を対象とするがん患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の10年料理	A	はい	
215	(1) がん	ル相談支援・	センター 相談支援を行う機能を有する部門(がん相談支援センター)を設置し、①から⑧の体制を確保した上で、がん患者や家族等が持つ医療や療養等		(de) s	Prior and Billion in the Control of the Art.
216			の課題に関して、病院を挙げて全人的な相談支援を行っている。 必要に応じてオンラインでの相談を受け付けるなど、情報通信技術等も活用している。	A	はい	別紙11に詳細を記載してください。
218 219			コミュニケーションに配慮が必要な者や、日本語を母国語としていない者等への配慮を適切に実施できる体制を確保している。 情報取得や意思疎通に配慮が必要な者に対するマニュアルを作成している	A -	はい いいえ	
220	1		国立がん研究センターによるがん相談支援センター相談員基礎研修(1)~(3)を修了した専従及び専任の相談支援に携わる者をそれぞれ1人ずつ配置している。	Α	はい	別紙13に詳細を記載してください。
221			がん相談支援センター相談員基礎研修(1)~(3)を修了した専従の相談支援に携わる者の人数 がん相談支援センター相談員基礎研修(1)~(3)を修了した専任の相談支援に携わる者の人数	_ A	1	上記の専従の者は含めないでください。
223			当該相談支援に携わる者のうち1名は、社会福祉士である。	С	はい	(専任であり、かつ専従でない者の人数を記載ください。)
224 225	(2)		がん相談支援センター相談員基礎研修(1)~(3)を修了した専従もしくは専任の相談支援に携わる者のうち、社会福祉士の人数 相談支援に携わる者は、対応の質の向上のために、がん相談支援センター相談員研修等により定義的な知識の更新に努めている。	C A	はい	一人以上配置されていることが望ましい
226 227	3		院内及び地域の診療従事者の協力を得て、院内外のがん患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制 を整備している。	A	はい	別紙12に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。
228	4		相談支援に関し十分な経験を有するがん患者団体との連携協力体制の構築に積極的に取り組んでいる。 がん相談支援センターについて周知するため、以下の体制を整備している。 砂点・電影を提生ンターについて周知するため、以下の体制を整備している。	Α	はい	別称14に許和で記載して八たさい。
229			外来初診時から治療開始までを目処に、がん患者及びその家族が必ず一度はがん相談支援センターを訪問(必ずしも具体的な相談を伴わな し、場所等の確認も含む)することができる体制を整備している。 治療に債えた事前の面談や準備のフローに組み込む等、診療の経過の中で患者が必要とするときに確実に利用できるよう	В	はい	別紙13に具体的な取り組みを記載してください。
230		ゥ	繰り返し案内を行っている。 際内の見やすい場所にがん相談支援センターについて分かりやすく掲示している。	A	はい	
232 233		I	地域の住民や医療・在宅・分膜福祉等の関係機関に対し、がん相談支援センターに関する広報を行っている。 自施設に通院していない者からの相談にも対応している。	A	はい	
234	(5)	オ	日地版に地域としていない。 が人相談支援センターを初めて訪れた者の数を把握し、認知度の継続的な改善に努めている。 が人相談支援センターの業務内容について、相談者からフィードバックを得る体制を整備している。	Ā	はい	
236			が公園級と成センテーの来が付きによって、前級者から2イードバンではらか制定で置している。 フィードバック内容を自施数の相談を基何質の向上のために活用するとともに、報道所集は議会で報告し、他施設とも情報共有している。 患者からの相談に対し、必要に応じて速やかに院内の診療従事者が対応できるよう、病院長もしくはそれに準じる者が統括するなど、がん相談	Ä	はい	
237	6		支援センターと院内の診療従事者が協働する体制を整備している。 がん相談支援センターの相談支援に携わる者は、IVの2の(4)に規定する当該都道府県にある都道府県拠点病院が実施する相談支援に携わ	A	はい	
239	8		る者を対象とした研修を受講している。 がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場を設けている。	A	はい	
240 241 242			その際には、一定の研修を受けたピア・サポーターを活用する、もしくは十分な経験を持つ患者団体等と連携して実施するよう努めている。 オンライン環境でも開催できる。	A C	はい	
242	(2) 院内	りがん登録	がん登録等の推進に関する法律(平成25年法律第111号)第44条第1項の規定に基づき定められた、院内がん登録の実施に係る指針(平成27	A	はい	
244 245	2		年厚生労働省告示第470号)に即して院内がん登録を実施している。 国立がん研究センターが実施する研修で中級認定者の認定を受けている、専従の院内がん登録の実務を担う者を1人以上配置している。	A	はい	別紙16に詳細を記載してください。
245 246 247	3		中級認定者の認定を受けている、専従の院内がん登録の実務を担う者の人数 毎年、最新の登録情報や予後を含めた情報を国立がん研究センターに提供している。	A A	2 はい	
248	(3) 情報	最提供・普及	院内がん登録を活用することにより、都道府県の実施するがん対策等に必要な情報を提供している。 及啓発	A	はい	
249 250	1		自施設で対応できるがんについて、提供可能な診療内容を病院ホームページ等でわかりやすく広報している。 希少がん、小児がん、AYA世代のがん患者への治療及び支援(妊孕性温存療法を含む)やがんゲノム医療についても、自施設で提供できる場	A A	はい	
251			合や連携して実施する場合はその旨を広報している。 希少がんへの治療及び支援を自施設もしくは連携する施設への紹介等で提供できる。		はい	
252 253 254			提供できる治療・支援の内容を広報している。 小児がんへの治療及び支援を自施設もしくは連携する施設への紹介等で提供できる。	_ A _	はい	
255		-	提供できる治療・支援の内容を広報している。 AYA世代のがんへの治療及び支援を自施設もしくは連携する施設への紹介等で提供できる。	A	はい	
256 257		-	提供できる治療・支援の内容を広報している。 妊孕性温存療法を自施設もしくは連携する施設への紹介等で提供できる。	A	はい	
258 259		-	提供できる治療・支援の内容を広報している。 がんゲノム医療への治療及び支援を自施設もしくは連携する施設への紹介等で提供できる。	A	はい	
260 261 262			提供できる治療・支援の内容を広報している。 大規模災害や感染症の流行などにより自院の診療状況に変化が生じた場合には、速やかに情報公開をするよう努めている。	A	はい	
263	(2)		当該が心医療圏内のが心診療に関する情報について、病院ホームページ等でわかりやすく広報している。 特に、我が国に多いがんの中で、自施設で対応しない診療内容についての連携先や集学的治療等が終了した後のフォローアップについて地域 で連携する医療機関等の情報提供を行っている。	A A	はい	
264 265	3	-	で連携する高水強関等の指数度医さけっている。 地域を対象として、緩和ケアやがん教育、患者向け・一般向けのガイドラインの活用法等に関する普及啓発に努めている。 地域を対象として実施した、がんに関するセミナー等の開催回数(総数)	A	はい	地域の定義としては少なくとも市民を含むこと。
266	4		参加中の治験についてその対象であるがんの種類及び薬剤名等を広報している。 患者に対して治験も含めた医薬品等の臨床研究、先進医療、患者申出療養等に関する適切な情報提供を行うとともに、必要に応じて適切な医	Α	はい	
267	5		記者におりているが、自然の自然には来聞する場所があった。 機関に紹介している。 がん教育について、当該がん医療圏における学校や職域より依頼があった際には、外部講師として診療従事者を派遣し、がんに関する正しい	A	はい	別紙17に詳細を記載してください。
268	6		知識の普及啓発に努めている。 がん教育の実施に当たっては、児童生徒が当事者である場合や、身近にがん患者を持つ場合等があることを踏まえ、対象者へ十分な配慮を	Α .	はい	
269 270	6 臨床研究	尼及び調査を	行っている。 研究	A	はい	
271	(1)		政策的公衆衛生的に必要性の高い調査研究に協力している。 これらの研究の協力依頼に対応する窓口の連絡先を国立がん研究センターに登録する。	A A	はい	別紙18に記載してください。
272 273 274	(2)		治験を含む医薬品等の臨床研究を行う場合は、臨床研究コーディネーター(CRC)を配置すること。 治験を含む医薬品等の臨床研究を行っている。		はい	委託も可
275			臨床研究コーディネーターを配置している。 臨床研究コーディネーターとして勤務している者の人数	A A	はい 5	274が"はい"の場合は要件区分がAになります。
276 277 278 279			治験を除く医薬品等の臨床研究を行う場合は、臨床研究法に則った体制を整備すること。 治験を除く医薬品等の臨床研究を行っている。		はい	
280			実施内容の広報等に努めている。 塩床研究法に則った体制を整備している。	A A	はい	278が"はい"の場合は要件区分がAになります。
281 282	7 医療の質(1)		取組及び安全管理 自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者の療養生活の質について把握・評価し、課題認識を院内の	A	はい	
283			関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じている。 その際にはQuality Indicatorを利用するなどして、PDCAサイクルが確保できるよう工夫をしている。	Α	はい	Dijet on i = ##ém + @næh + / t.º.h
284 285	(3)		医療法等に基づく医療安全にかかる適切な体制を確保している。 日本医療機能評価機構の審査等の第三者による評価を受けている。	A A	はい	別紙20に詳細を記載してください。 別紙20に詳細を記載してください。 日本医療機能等医機能に加え、ICL ISO0001の数字ま誌出する
Н				<u> </u>	日本医療機能	日本医療機能評価機構に加え、JCI、ISO9001の認定も該当する。
286			第三者の名称	_	評価機構 病院機能評価	別紙20に詳細を記載してください。
287 288	8 グループ		直近で評価を受けたタイミング(YYYY/MM、例:202309) ***********************************	_	202002	別紙20に詳細を記載してください。
289 290			地域がん診療病院とグループ指定を受ける場合には、以下の体制を整備すること等によりグループ指定を受ける地域がん診療病院と協働して 当該地域におけるがん診療等の提供体制を確保すること。 地域がん診療病院とのグループ指定を受けている。	_	はい	別紙27に詳細を記載してください。
291 292	(1) (2)		地域が必要被病院2007ルーン指定を受けている。 連携協力により手術療法、放射線療法、薬物療法を提供する体制を整備している。 標準的な薬物療法を提供するためのレジメンの蓄着等における支援を行っている。	A	はい	277994と、、、日下寺田と 日し 米ルシ く ハーこと り。
293 294	(3)		機等的な果物販品を提供するにのロビアテンル会員等にのけるX機を打っている。 確実な連携体制を確保するための定期的な合同カンファレンス関催を行っている。 連携協力により相談支援や緩和ケアを充実させる体制を整備している。	A	はい	
295 296	(5) (6)		診療機能確保のための支援等に関する人材交流の計画策定及び実行の体制を整備している。 診療機能確保のための診療情報の共有体制を整備している。	A	はい	
297 298 III	(7) I 特定機能病院	を地域がん	歴度は、 のでは、 のでは、 のでは、	Ä	はい	
299	- Annual Principle		70分からからからからでは1万名を25-10-001万名を18-10-001万			
			د.			
300 301	7 407 100	-A. (************************************	他の拠点病院等に対する医師の派遣や人材育成による診療支援に積極的に取り組んでいる。 他の拠点病院等に対する医師の派遣や人材育成による診療支援に関する観点を念頭に、都道府県協議会に積極的に参画している。	==		
302 IV 303			現自有能の指定要件について 多機能能化に向けた要件 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		141	
304 305	(1)		当該都道府県においてがん医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師・薬剤師・看護師等を対象とした研修を実施している。 当該都道府県の拠点病院等及び地域におけるがん医療を担う者に対し、情報提供、症例相談及び診療支援を行っている。	A A	はい	- 早1年101-12米如大き2車 アノナミヤ1 N
306	(3)		都道府県協議会の事務局として、主体的に協議会運営を行っている。	Α	はい	・別紙28に詳細を記載してください、 ・別添資料で、都道府県協議会の議題や議事録等、議論の内容が わかる資料を添付してください。
307			都道府県協議会の開催回数(期間:令和5年4月1日~令和6年3月31日)		1	11.1. ASCITE (811) A 2 1172 A . 0

11	針の篋	丽		要件	要件区分	令和6年9月1	備考欄
308 309			府県における	は 大相談支援機能強化に向けた要件		日時点の状況はい	all -2 im
310		(2)		相談支援業務として、都道保限内の医療機関で実施されるがんに関する臨床試験について情報提供に努めている。 がん相談支援センターに国立がん研究センターによるがん相談支援センター相談員基礎研修(1)~(3)を修了した専従の相談支援に携わる者 を2人以上配置している。	В	はい	別紙13に詳細を記載してください。
311 312				相談支援に携わる者のうち、少なくとも1人は国立がん研究センターによる相談員指導者研修を修了している。 相談支援に携わる者のうち、国立がん研究センターによる相談員指導者研修を修了している者の人数	A	はい 1	一人以上配置が必要
313		(3)		外来初診時から治療開始までを目途に、がん患者及びその家族が必ず一度はがん相談支援センターを訪問(必ずしも具体的な相談を伴わない、場所等の確認も含む)することができる体制を整備している。	Α	はい	別紙13に詳細を記載してください。
314 315		(4)		緩和ケアセンターとの連携を図り、がん患者とその家族に対して、緩和ケアに関する高次の相談支援を提供する体制を確保している。 当該都道府県の拠点病院等の相談支援に携わる者に対する継続的かつ系統的な研修を行っている。	A A	はい はい	
316	3		府県拠点病院	完の診療機能強化に向けた要件 当該都道府県における緩和ケア提供体制の中心として、緩和ケアチーム、緩和ケア外来、緩和ケア病棟等を有機的に統合する緩和ケアセン		はい	Printed and a State of the Land of the Lan
318		(1)	①	ターを整備し、当該緩和ケアセンターを組織上明確に位置づけている。(緩和ケアセンターは、緩和ケアチームが主体となり以下の活動を行い、専門的緩和ケアを提供する院内拠点組織とする。) かん看護に関する専門資格を有する看護師等による定期的なが心患者カウンセリングを行っている。	A	はい	別紙21に詳細を記載してください。
319			2	1970年級にほうが等)は限定する9年は関連する必要が関連が表現が設定する1970年後では、 看護カンファンスを選1回程度開催し、患者とその家族の苦痛に関する情報を外来や病機看護師等と共有している。 緊急緩和ケア病床を確保し、かかりつけ患者や連携協力リストを作成した在宅療養支援診療所等からの紹介患者を対象として、緊急入院体制	Α	はい	
320 321			34	を整備している。 地域の病院や在宅療養支援診療所、ホスピス・緩和ケア病棟等の診療従事者と協働して、緩和ケアにおける連携協力に関するカンファレンスを	A	はい	
322			5	月1回程度定期的に開催している。 緩和ケアセンターの構成員が参加するカンファレンスを週1回以上の頻度で開催し、緩和ケアセンターの業務に関する情報共有や	Α Α	はい	
323		H	6	検討を行っている。 緩和ケアセンターは、都道府県と協力する等により、都道府県内の各拠点病院等が、緩和ケア提供体制の質的な向上や、地域単位の緩和ケア	Α	はい	
324		l	7	に関する取組について検討できるように、支援を行っている。 緩和ケアセンターには、Ⅱの2の(2)の①のオに規定する緩和ケアチームの医師に加えて、以下の専門的な知識及び技能を有する医師を配置 している。	Α	はい	
325 326			ア	緩和ケアセンターの機能を結括する医師を緩和ケアセンター長として1人配置している。 当該医師については、常動であり、かつ、院内において管理的立場の医師である。	A A	はい	
327			1	緊急緩和ケア病床を担当する専門的な知識及び技能を有する常動の医師を1人以上配置している。 (なお、II の2の(2)の①のオに規定する緩和ケアチームの医師との兼任を可とする。)	Α	はい	
328 329			8	当該医師については、夜間休日等も必要時には主治医や当直担当医と連絡を取ることができる体制を整備している。 緩和ケアセンターには、II の2の(2) の2)のウからオに規定する緩和ケアチームの構成員に加えて、以下の専門的な知識及び技能を有する医	A A	はい	
330 331			7	師以外の診療従事者を配置している。 緩和ケアセンターの機能を管理・調整する、専従のジェネラルマネージャーを配置している。 ジェネラルマネージャーは、常勤であり、かつ院内において管理的立場にある者護師である。	A	はい	
332			1	プェインのマヤーツーの、中部、500、00、パージのアースができませり立場についる自然的についる。 当該有護的はから有護に関する専門資格をする者である。 アに規定するジェネラルマネージャーとは別に、専従かつ常勤の看護師を2人以上配置している。	C	いいえ	
334				一 当該看護師はが人看護に関する専門資格を有する者である。 (また、当該看護師はIの2の(2)の②のウに規定する看護師との兼任を可とする。)	A	はい	
335 336			ゥ	緩和ケアセンターの業務に協力する薬剤師を配置している。 当該薬剤師はがん薬物療法に関する専門資格を有する者である。	A C	はい	
=				(また、当該薬剤師はⅡの2の(2)の②のエに規定する薬剤師との兼任を可とする。) 専任の緩和ケアセンターにおける相談支援業務に携わる者を1人以上配置している。			
337			I	(また、当該者についてはがん相談支援センターの相談支援に携わる者との兼任および、がん相談支援センター内にて当該業務に従事すること を可とする。) ジェネラルマネージャーを中心に、歯科医師や医療心理に携わる者、理学療法士、管理栄養士、歯科衛生士等の	A	はい	
338	V _ 特 5	"領域。	オ がん診療連携	診療従事者が連携している。	A	はい	
340	1			特定のがんについて、集学的治療等を提供する体制を有している。	-		別紙22に詳細を記載してください。
341				集学的治療等を提供する体制を有する、具体的ながん種について記載してください。	-		
342 343				標準的治療等がA患者の状態に応じた適切な治療を提供している。 当該がAについて当該都道府県内で最も多くの患者を診療している。			
344	2			Ⅱに規定する地域拠点病院の指定要件を満たしている。	-		12~290に関して、区分Aの要件に未充足がない場合に"はい"を選択してください。
345 346	3			緊急対応が必要な患者や合併症を持ち高度な管理が必要な患者に対して拠点病院等と連携し適切ながん医療の提供を行っている。 特定領域における高い診療技術や知識を共有する観点から、拠点病院等との人材交流、合同のカンファレンス、診療業務や相談支援業務にお	-		別紙23に詳細を記載してください。 別紙24に詳細を記載してください。
347	VI 地均		診療病院の打				NAME I STROME ROADS C AVEC A S
348 349		都追)	府県協議会	○17の役割 そ都道府県の他の拠点病院等と協働して都道府県協議会を設置し、その運営に主体的に参画すること。 その際、各が人医療圏におけるが人医療の質を向上させるため、当該が人医療圏を代表して希道府県協議会の運営にあたるとともに、都道府			
350 351	2	診療	体制	でいた。それが仏伝派面におけるかん伝派の真さ声上できるため、自然かん伝派面としなりと加足所来の展表の定画にありてもでき、他足所 県協議会の方針に沿って各がん医療圏におけるがん医療が適切に提供されるよう努めること。	-		
352 353		(1)	診療機能	治療等の提供体制及び標準的治療等の提供			
354			7	我が国に多いがんを中心として、グルーブ指定を受けるがん診療連携拠点病院と連携して集学的治療等を提供する体制を有するとともに、標準的治療等がん患者の状態に応じた適切な治療を提供している。	-		別紙25に詳細を記載してください。
355 356			イ ウ	確実な連携体制を確保するため、グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院と定期的な合同のカンファレンスを開催している。 医師からの診断結果、病状の説明時や治療方針の決定時には、以下の体制を整備している。	-		
357 358			ii	患者とその家族の希望を踏まえ、看護師や公認心理師等が同席している。 治療プロセス全体に関して、患者とともに考えながら方針を決定している。			
359 360			I	標準半減をして複数の診療科が関与する選択肢がある場合に、その知見のある診療科の受診ができる体制を確保している。 診療機能確保のための支援等に関し、グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院との人材交流計画を策定。実行している。 特に、集学的治療等を提供することが困難な場合における専門的な知識及び技能を有する医師等の定期的な派遣の依頼、専門外来の設置等			別紙26に詳細を記載してください。
361 362			t	「一般のでは、ボデザリカなでは、アッシーにから対象を持ちにおいる時、ロッタルは、ステッシーには、オーリア・アンスをできる。 が必要者の病態に応じたより適切なが、必要を提供できるよう以下のカンファレンスをそれぞれ必要に応じて定期的に開催している。	-		別紙3に詳細を記載してください。
363			i	個別もしくは少数の診療科の医師を主体とした日常的なカンファレンス	-		各診療科で日常的に開催している場合は"はい"を選択してください。
364			ii	個別もしくは少数の診療科の医師に加え、看護師、薬剤師、必要に応じて公認心理師や緩和ケアチームを代表する者などを加えた、症例への 対応方針を検討するカンファレンス	-		各診療科で日常的に開催している場合は"はい"を選択してください。
365			iii	手術、放射線診断、放射線治療、薬物療法、病理診断及び緩和ケア等に携わる専門的な知識及び技能を有する医師とその他の専門を異にする医師等による、骨転移・原発不明がん・希少がんなどに関して臓器横断的にがん患者の診断及び治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等	-		・一ヶ月当たりの開催回数を記載してください。(●回/月)
366			iv	するためのカンファレンス 臨床倫理的、社会的な問題を解決するための、具体的な事例に則した患者支援の充実や多職種間の連携強化を目的とした院内全体の多職種	-		・一ヶ月当たりの開催回数を記載してください。(●回/月)
367 368				ivのカンファレンスを定期的に開催している。			・別紙4に詳細を記載してください。
369			ъ	接討した内容について、診療鎖に記録の上、関係者間で共有している。 際内の緩和ケアテーム、口腔ケアテーム、栄養サポートテーム、感染防止対策チーム等の専門チームへ、医師だけではなく、看護師や薬剤師 等、他の診療従事者からも介入及婚ができる体制を整備している。	-		別紙19に詳細を記載してください。
370			+	等、2000年版に平台10つ50万人が規則でとの1分前を重要している。 保険適用外の投資権法等について、治験、先進医療、施度研究法で定める特定施床研究または再生医療等の安全性の確保等に関する法律 に基づき提供される再生医療等の枠組み以外の形では、実施・推奨していない。	_		
371				保険適用外の免疫療法等について、提供または推奨している場合は、上記のどの枠組みに該当するか明記すること。 (なお、提供または推奨していない場合は、「なしと記入すること。)	-		
372			② 手術療法	大のお、ただれた。これである。			
373			_	来子的活液寺を通切に従来できる体制を登備する上で、適宜グルーノ指定を受けるかん診療連携拠点病院との連携により 特に以下に対応すること。 我が国に多いがんに対する手術のうち、提供が困難であるものについてはグルーブ指定を受けるがん診療連携拠点病院との連携により提供で			
374 375			7	きる体制を整備している。 グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院と連携することにより衛中迅速病理診断を提供できる体制を整備している。	-		
376				(なお、当該体制は遠隔病理診断でも可とする。)	-		
377 378			ゥ	術後管理体制の一環として、手術部位感染に関するサーベイランスを実施している。 その際、厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業(JANIS)・登録している。 砂場かしは対象のよれた砂場が高の田州が日間でなる生命というが、ローブや中央のよれく砂倉事機がよ母館やよるサービーと目が付			2005日,2015日の八ずもムボ"はい"の根へので、点転体で"・
379 380			エ	設備や人材配置の点から放射線治療の提供が困難である場合には、グルーブ指定を受けるがん診療連携拠点病院と連携することにより放射 線治療を提供できる体制を整備すること。 自施設で放射線治療を提供している。	-		380行目・381行目のいずれかが"はい"の場合のみ、自動的に"は い"が選択されます。
381				グルーブ指定を受けるがん診療連携拠点病院と連携することにより放射線治療を提供できる体制を整備している。	-		オについては、自施設で放射線治療を提供していない場合には"い
382 383			オ	関連する学会のガイドライン等も参考に、第三者機関による出力線量測定を行い、放射線治療の品質管理を行っている。 ●リニアックについて(※自施設で実施している場合のみ)	-		オについては、自他改で放射線冶療を提供していない場合には いいえ"を選択してください。
384				●リーアックについて(※自総数で美穂している第四のみ) 直近で実施した第三者機関による出力線量測定の時期を明記すること。(YYYY/MM、例: 202309)			
385 386				測定機関名を記入すること。	-		
386 387 388			カキ	基準総量の±5%の水準以内である。 外来化学療法を実施しているがん患者が急変時等の緊急時に入院できる体制を確保している。 免疫倒適有害事象を含む有害事象に対して、他診療科や他病院と連携する等して対応している。	-		
389			2	グルーブ指定を受けるがん診療連携拠点病院との連携により、薬物療法のレジメンを審査するとともに、標準的な薬物療法を提供できる体制を 整備している。	-		
390 391			③ 緩和ケス	Pの提供体制 がん診療に携わる全ての診療従事者により、全てのがん患者に対し入院、外来を問わず日常診療の定期的な確認項目に組み込むなど頻回に	_		
391			1	苦痛の把握に努め、必要な緩和ケアの提供を行っている。 がん患者の身体的苦痛や精神心理的苦痛、社会的な問題等の把握及びそれらに対する適切な対応を、			
393				参断時から一貫して経時的に行っている。 参断や治療方針の変更時には、ライフステージ、就学・就労、経済状況、家族との関係性等、がん患者とその家族にとって重要な問題につい て、患者の各がお生まする思慮わる場所であるとうなめている。	-		
394			ゥ	て、患者の希望を踏まえて配慮や支援ができるよう努めている。 ア、イを実施するため、がん診療に携わる全ての診療従事者の対応能力を向上させることが必要であり、これを支援するために組織上明確に位置付けられた援和ケアチームにより、以下を提供するよう体制を整備している。	-		別紙8に詳細を記載してください。
395			i	定期的に病棟ラウンド及びカンファレンスを行い、依頼を受けていないがん患者も含めて苦痛の把握に努めるとともに、適切な症状緩和について協議し、必要に応じて主体的に助言や指導等を行っている。			別紙8に詳細を記載してください。
396			ii	(2)の②のウに規定する看護師は、苦痛の把握の支援や専門的緩和ケアの提供に関する調整等、外来・病棟の看護業務を支援・強化する役割を担っている。	-		別紙8に詳細を記載してください。
397 398			I	また。主治医及び看護師、公説の理師等と協能し、適切立支援を実施している。 患者が必要な緩和ケアを受けられるよう、緩和ケア外来の設置など外来において専門的な緩和ケアを提供できる体制を整備している。 自施設のがん患者に張らず、他施設でがん診療を受けている。または受けていた患者についても受入れを行っている。	-		別紙5に詳細を記載してください。
399 400				自施設のが心患者に限らず、他施設でが心診療を受けている。または受けていた患者についても受入れを行っている。 緩和ケア外来等への患者紹介について、地域の医療機関に対して広報等を行っている。			

1 指針の箇所			要件	要件区分	令和6年9月1 日時点の状況	備考欄
01		オ	医療用麻薬等の額痛薬の初回使用時や用量の増減時には、医師からの説明とともに薬剤師や看護師等により、外来・病棟を問わず医療用麻薬等を自己管理できるよう指導している。	-	日時点の状況	
02		カ <u></u>	その際には、自記式の服薬記録を整備活用している。 膝内の診療従事者と緩和ケアチームとの連携を以下により確保すること。 緩和ケアチームへがん患者の診療を依頼する手順等、評価された苦痛に対する対応を明確化し、腕内の全ての診療従事者に周知するととも	-		
05		ij	IC、患者とその家族に緩和ケアに関する診療方針を提示している。 緩和するとの家族に緩和ケアチームへ情報を集約するために、がん治療を行う病様や外来部門に、緩和ケアチームと各部署をつなぐ 役割を担うリンクナースなどを配置している。	-		リンクナース: 医療施設において、各種専門チームや委員会と病棟 看護師等をつなぐ役割を持つ看護師をいう。
06		+	取割を担プレブナーへなどを出版している。 患者や家族に対し、必要に応じて、アドバンス・ケア・ブランニングを含めた意思決定支援を提供できる体制を整備している。	-		アドバンス・ケア・ブランニング:人生の最終段階の医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロ
07		ク	アからキにより、緩和ケアの提供がなされる旨を、院内の見やすい場所での掲示や入院時の資料配布、ホームページ上の公開等により、がん 患者及び家族に対しわかりやすく情報提供を行っている。	-		セスのこと。
)8		ケ	かかりつけ医等の協力・連携を得て、主治医及び看護師が緩和ケアチームと共に、退院後の居宅における緩和ケアに関する療養上必要な説明 及び指導を行っている。	-		
09 10			疼痛緩和のための専門的な治療の提供体制等について、以下の通り確保すること。 難治性疼痛に対する神経ブロック等について、自施設における麻酔科医等との連携等の対応方針を定めている。	===		別紙7に詳細を記載してください。 412行目・413行目のいずれかが"はい"の場合のみ、自動的に"は
12			自施設で実施が困難なために、外部の医療機関と連携して実施する場合には、その詳細な連携体制を確認している。 自施設で実施が可能である。	-		い"が選択されます。
14 15		ii	連携する外部の医療機関に患者を紹介して実施している。 ホームページ等で、神経ブロック等の自施設における実施状況や連携医療機関名等、その実施体制について分かりやすく公表している。 緩和的放射線治療を患者に提供できる体制を整備している。	==		
16			自施設の診療従事者に対し、緩和的放射線治療の院内での連携体制について周知していることに加え、連携する医療機関に対し、患者の受入 小等について周知している。 ホームページ等で、自施設におけるこれらの実施体制等について分かりやすく公表している。	-		
8		+	全てのがん患者に対して苦痛の把握と適切な対応がなされるよう緩和アアに係る診療や相談支援、患者からのPRO(患者報告アウトカム)、医療用麻薬の処方量など、院内の緩和ケアに係る情報を把握し、検討・改善する場を設置している。	-		PRO: 自覚症状やQOLIC関する対応の評価のために行う患者の主観的な報告をまとめた評価のこと。
9 0 1	4		それを踏まえて自施設において組織的な改善策を講じる等、緩和ケアの提供体制の改善に努めている。 の推進体制			
2			が人患者の紹介、逆紹介に積極的に取り組むとともに、以下の体制を整備している。 緩和ケアの提供に関して、当該が人医療圏内の緩和ケア病棟や在宅緩和ケアが提供できる診療所等のマップやリストを作成する等、患者やそ の家族に対し常に地域の緩和ケア提供体制について情報提供できる体制を整備している。	-		
3		ii	希少がんに関して、専門家による適切な集学的治療が提供されるよう、他の拠点病院等及び地域の医療機関との連携及び情報提供ができる 体制を整備している。 高齢のがん患者で障害を持つがん患者について、患者や家族の意思決定支援の体制を整え、地域の医療機関との連携等を図り総合的に支援	-		
4 5		iii	している。 介護施設に入居する高齢者ががんと診断された場合に、介護施設等と治療・緩和ケア・看取り等において連携する体制を整備している。	-		
7		イ ウ	地域の医療機関の医院と診断及び治療に関する相互的な連携協力体制・教育体制を整備している。 当該が心医療圏内のかん診療に関する情報を集約し、当該が心医療圏内の医療機関やがん患者等に対し、情報提供を行っている。 がん患者に対して、関係期の口腔健康管理や、治療中の副作用・合併会対策、口腔リハゼリテーションなど、必要し応じて院内又は地域の歯科	-		
9		オ	医師と連携して対応している。 地域連携時には、がん疼痛等の症状が十分に緩和された状態での退院に努め、退院後も在宅診療の主治医等の相談に対応するなど、院内で	-		別紙29に詳細を記載してください。
60		b	の緩和ケアに関する治療が在学診療でも継続して実施できる体制を整備している。 温院支援に当たっては、主治医、緩和ケアチーム等の連携により療養場所等に関する意思決定支援を行うとともに、必要に応じて地域の在宅 診療に携わる医師や訪問者護師等と退院前カンファレンスを実施している。	-		
31		+	当該がん医療圏において、地域の医療機関や在宅療養支援診療所等の医療・介護従事者とがんに関する医療提供体制や社会的支援、緩和 ケアについて情報を共有し、役割分担や支援等について検討する場を年1回以上設けている。	-		
32		7	緩和ケアチームが地域の医療機関や在宅療養支援診療所等から定期的に連絡・相談を受ける体制を確保し、 必要に応じて助富等を行っている。	-		ビア・サポート:患者・経験者やその家族がビア(仲間)として体験を
33 34	(5)	セカンドオ	都道府県や地域の患者会等と連携を図り、患者会等の求めに応じてピア・サポートの質の向上に対する支援等に取り組んでいる。 ピニオンに関する体制	-		共有し、共に考えることで、患者や家族等を支援すること。
35 36		7	医師からの診断結果や病状の説明時及び治療方針の決定時等において、すべてのがん患者とその家族に対して、他施設でセカンドオビニオン を受けられることについて説明している。 説明の際、心理的な障壁を取り除くことができるよう留意している。	-		
37 38		1	がん患者に対するB-010 診療情報提供書(II)の算定件数 (期間:令和5年1月1日~12月31日) 当該施設で対応可能ながんについて、手術療法、放射線療法、薬物療法又は緩和ケアに携わる専門的な知識及び技能を有する医師によりセ	-		
10	(6)	ウ	カントオビニナンを提示する体制を整備し、患者にわかりやすく公表すること。 セカンドオビニナンを提示する場合は、必要に応じてオンラインでの相談を受け付けることができる体制を確保している。 の特性に応じた診療等の理性体制	-		
11		7	希少がん・難治がんの患者の診断・治療に関しては、積極的に都道府県協議会における役割分担の整理を活用し、対応可能な施設への紹介やコンサルテーションで対応している。	-		
13		イ ウ	小児が久患者で長期フォローアップ中の患者については、小児が火拠点病院や連携する医療機関と情報を共有する体制を整備している。 各地域のがん・生殖医療ネットワークに加入し、「小児・AYA世代のがん患者等の好孕性温存療法研究促進事業」へ参画するとともに、対象とな りうる患者や家族には必ず治療開始前に情報提供している。	-		
14			患者の希望を確認するとともに、がん治療を行う診療科が中心となって、院内または地域の生殖医療に関する診療科とともに、妊孕性温存療法 及びがん治療後の生殖補助医療に関する情報提供及び意思決定支援を行う体制を整備している。	-		
46 46		I	自施設において、がん・生殖医療に関する意思決定支援を行うことができる診療従事者の配置・育成に努めている。 就学、就労、好孕性の温存、アピアランスケア等に関する状況や本人の希望についても確認し、自施設もしくは連携施設のがん相談支援セン ターで対応できる体制を整備している。	-		別紙10に詳細を記載してください。 好母性: 子どもマくるために必要な能力のこと。精子や卵子だけで はなく、性機能や生陽器、内分泌機能も重要な要素である。 アピアランスケア: 医学的・整容的・心理社会的支援を用いて、外見 の変化を補完し、外見の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減す
47 48 49		オ	それらの相談に応じる多職種からなるAYA世代支援チームを設置している。 一般社団法人AYAがんの医療と支援のあり方研究会の開催する「AYA世代がんサポート研修会」を受けた院内の診療従事者の人数 (尚、AYA世代支援チームに在籍する者に限らない) 高齢者のがんに関して、併存症の治療との両立が図れるよう、関係する診療科と連携する体制を確保している。	-		るケアのこと。 別紙10に詳細を記載してください。
50 51			また、意思決定能力を含む機能評価を行い、各種ガイドラインに沿って、個別の状況を踏まえた対応をしている。 高齢のがん患者に関して、必要に応じて高齢者総合機能評価を行っている。	<u>-</u>		別紙10に詳細を記載してください。
(2) (3)		従事者	医療機関としてのBCPを策定している。 知識及び技能を有する医師の配置 ※以下、常勤職員の人数を回答する項目において、非常勤職員を常勤機算して常勤職員と合算することは、	- राज <i>क</i> क		
5		7	対応可能ながんについて専門的な知識及び技能を有する手術療法に携わる医師の人数	-		※一人以上の配置が必要です。 専従:専従とは当該診療の実施日において、当該診療に専ら従事し
6		1	専従の放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師の人数(※放射線治療を実施する場合)	-		ていることをいう。この場合において、「専ら従事している」とは、その 飲業時間の少なくとも8割以上、当該診療に従事していることをい う。 ※自施設で放射線治療を実施している場合は、一人以上の配置が 必要です。
7		ゥ	専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常動の医師の人数	-		専任:専任とは当該診療の実施を専ら担当していることをいう。この 場合において、「専ら担当している」とは、その他診療を兼任してい も差し支えないものとする。ただし、その飲業時間の少なくとも5割以 上、当該診療に従事している必要があるものとする。 ※一人以上の配置が必要です。
3		I	緩和ケアチームに配置されている、専任の身体症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する常動の医師の人数	-		常勤:原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をい う。病院で定めた医師の 週間の勤務時間が、32時間未滿の場合 は、32時間以上勤務とている者を常勤とし、その他は非常勤とする ※一人以上の配置が必要です。
9 0			当族医師のうち専従の者の人数 緩和ケアチームに配置されている。精神症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する医師の人数 当該医師のうち、専任の者の人数			※一人以上の配置が必要です。
2		オ	当該医師のうち、常勤の者の人数 専任の病理診断に携わる専門的な知識及び技能を有する医師の人数	-		
4 5 6	2	専門的な	リハピリテーションに携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数 知識及び技能を有する医師以外の診療従事者の配置 版射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の診療放射線技師を2人以上配置している。(放射線治療を実施する場合)	_		
7			放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の診療放射線技師の人数	-		※放射線治療を自施設で実施する場合には、2人以上の配置が必要です。
9			上記の技師のうち、放射網治療に関する専門資格を有する者の人数 専任の放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する常動の看護師を1人以上配置している。(放射線治療を実施する場合)	==		※放射線治療を自施設で実施する場合には、1人以上の配置が望
			専任の放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する常動の看護師の人数 上記の看護師のうち、放射線治療に関する専門資格を有する者の人数	-		ましい。
3		1	外来化学療法室に配置されている、専任の薬物療法に携わるがん看護又はがん薬物療法に関する専門的な知識及び技能を有する常勤の看 護師の人数 当該看護師のうち、専従である者の人数	-		※一人以上の配置が必要です。
4			外来化学療法室に配置されている、専任の薬物療法に携わるがん看護又はがん薬物療法に関する専門的な知識及び技能を有する常勤の看 護師のうち、がん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する者の人数			
6		ゥ	専任の業物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常動の薬剤師の人数 緩和ケアチームに配置されている。専従の緩和ケアに携わるがん看護又は緩和ケアに関する専門的な知識及び技能を有する 常動の看護師の人数	-		※一人以上の配置が必要です。
7 8 9		I	当該看護師のうち、がん看護又は緩和ケアに関する専門資格を有する者の人数 緩和ケアチームに協力する薬剤師、社会福祉士等の相談支援に携わる者、公認心理師等の医療心理に携わる者を それぞれ1人以上配置している。 緩和ケアチームに協力する薬剤師の人数	<u>-</u>		
1			緩和ケアチームに協力する条削師の人数 緩和ケアチームに協力する社社主等の相談支援に携わる者の人数 緩和ケアチームに協力する公認心理師等の医療心理に携わる者の人数			
3		オ	組胞診断に係る業務に携わる専門的な知識及び技能を有する者の人数 当該診療従事者のうち、細胞診断に関する専門資格を有する者の人数	==		
4 5 6			がんのリハビリテーションに係る業務に携わる専門的な知識および技能を有する理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の人数 がんのリハビリテーションに係る業務に携わる専門的な知識および技能を有する理学療法士の人数 がんのリハビリテーションに係る業務に携わる専門的な知識および技能を有する作業療法士の人数			
37 38 (3)) その	他の環境	がんのリハビリテーションに係る業務に携わる専門的な知識および技能を有する言語聴覚士の人数 整備等	=		
90	1		必要に応じグループ指定を受けるがん診療連携拠点病院と連携する等により、Ⅱ の2の(3)に定める要件を満たすこと。 患者とその家族が利用可能なインターネット環境を整備している。	-		別紙9に詳細を記載してください。

$\overline{}$		要件	要件区分	令和6年9月1 日時点の状況	備考欄
(2	2	集学的治療等の内容や治療前後の生活における注意点等に関して、冊子や視聴覚教材等を用いてがん患者及びその家族が自主的に確認で きる環境を整備している。	-	日時無の人	
(3	その冊子や視聴覚教材等はオンラインでも確認できる。 がん治療に伴う外見の変化について、がん患者及びその家族に対する説明やアピアランスケアに関する情報提供・相談に応じられる体制を整 に対する説明やアピアランスケアに関する情報提供・相談に応じられる体制を整	-		
4	4	僧している。 が心患者の自殺リスクに対し、院内で共通したフローを使用し、対応方法や関係機関との連携について明確にしている。 対応方法や関係機関との連携について、関係職種に情報共有を行う体制を構築している。			別紙14に詳細を記載してください。
		自施設に精神科、小療内科等がある。 自施設でがん患者の自殺リスクに対応できる。			
		自施設に精神科、心療内科等がない場合は、地域の医療機関と連携体制を確保している。	-		自施設に精神科はあるが、自施設単体で対応できない場合も してください。
3 診療実	尾額	当該が人医療圏のがん患者を一定程度診療していること。	-		大學> 1 [[金融]為体制人第山主,大海南之名即(北山)
		当該がA医療圏のがA患者の診療割合(%) 院内がA登録数 (期間:令和5年1月1日~12月31日)	-		右隣シート「(参考)診療割合算出表」を適宜ご参照ください。 計上方法:入院、外来は問わない自施設初回治療分。症例区: および30の数をいう。
		悪性腫瘍の手術件数 (期間:令和5年1月1日~12月31日)	_		計上方法: 医科診療報酬点数表第2章第 10 部に掲げる悪性 手術をいう。(病理診断により悪性腫瘍であることが確認された
					に限る。)なお、内視鏡的切除も含む。 計上方法:経口、静注または皮下注射による全身投与を対象。
		がんに係る薬物療法のべ患者数 (期間:令和5年1月1日~12月31日)	-		る。ただし内分泌療法単独の場合は含めない。なお、患者数に ては1レジメンあたりを1人として計上する。
		うち、外来化学療法のべ患者数 (期間:令和5年1月1日~12月31日)	-		
		放射線治療のべ患者数 (期間:令和5年1月1日~12月31日)	_		計上方法: 医科診療報酬点数表第2章第12部の放射線治療に れるものとする。ただし、血液照射は除く。なお、患者数につい
					複数部位照射する場合でも、一連の治療計画であれば1人とし 上する。
		緩和ケアチームの新規介入患者数 (期間:令和5年1月1日~12月31日)	-		計上方法:患者数については同一入院期間内であれば複数E しても1人として計上する。
4 人材育	育成等	必要に応じグループ指定を受けるがん診療連携拠点病院と連携する等により、Ⅱの4に定める要件を満たすこと。			
(1)		自施設において、2に掲げる診療体制その他要件に関連する取組のために必要な人材の確保や育成に積極的に取り組んでいる。 特に、診療の質を高めるために必要な、各種学会が認定する資格等の取得についても積極的に支援している。			
(2)		広告可能な資格を有する者のがん診療への配置状況について積極的に公表している。 病院長は、自施設においてがん医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師等の専門性及び活動実績等を定期的に評価し、当該医師	-		
(2)		等がその専門性を十分に発揮できる体制を整備している。			
(3)		「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」(平成29年12月1日付け健発1201第2号厚生労働省健康局長通知の別 源)に準拠し、当該がん医療圏においてがん診療に携わる医師を対象とした緩和ケアに関する研修を、都道府県と協議の上、開催している。	-		
		また、自施設の長、および自施設に所属する臨床研修医及び1年以上自施設に所属するがん診療に携わる医師・歯科医師が当該研修を修了する体制を整備している。			
		受講率を現況報告において以下の通り報告する。 令和6年9月1日時点で自施設に所属する初期臨床研修医の人数	=		
		うち当該研修会修了者数 受講率	-		
		1年以上自施設に所属するがん診療に携わる医師・歯科医師の人数(初期臨床研修医を除く) うち当該研修会修了者数	-		
		受講率 医師・歯科医師と協働し、緩和ケアに従事するその他の診療従事者についても受講を促している。 研修修了者について、患者とその家族に対してわかりやすく情報提供している。	==		
(4)		朝診診・1省にこいく、患者とて少多族に対してのかりやりく困難使快している。 連携する地域の医療施設におけるがん診療に携わる医師に対して、緩和ケアに関する研修の受講動奨を行っている。 (3)のほか、当該がん医療圏において顔の見える関係性を構築し、がん医療の質の向上につながるよう、地域の診療従事者を対象とした研修	-		
(5)		(3)のはか、当成が心臓ない過度が高い、関係を受ける場所による特殊というが、自然の異なられる。 一般によっている。 一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、	-		
(6)		診療・患者支援の体制について学ぶ機会を年。回以上確保している。 自施設のが心診療に携わる全ての診療従事者が受講している。			
		令和5年1月1日~12月31日の開催回数	-		
		令和5年1月1日~12月31日の期間に実施した研修のうち、代表的な内容を一つ記載してください。	-		
(7)		院内の看護師を対象として、がん看護に関する総合的な研修を定期的に実施している。 令和5年1月1日~12月31日の開催回数	-		
		令和5年1月1日~12月31日の期間に実施した研修のうち、代表的な内容を一つ記載してください。	-		
		他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に	- - -		
(8)	t t≅ Ђ. 7€/李 和	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に 参加させている。 医科歯科連携による口腔健康管理を推進するために、歯科医師等を対象とするがん患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。	- - -		
5 相談支	支援及び情報 がん相談支援	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に参加させている。 医科歯科連携による口腔健康管理を推進するために、歯科医師等を対象とするがん患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の収集提供 センター	-		
5 相談支		他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に参加させている。 医科歯科連携による口腔健康管理を推進するために、歯科医師等を対象とするがん患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の収集提供 センター がん相談支援センターを設置し、①、②の体制を確保した上で、グループ指定のがん診療連携拠点病院との連携と役割分担によりⅡの5の(1) の③から図に規定する相談支援者券を行っている。	-		
5 相談支(1)が	がん相談支援	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に参加させている。 を抽きせている。 医村歯科連携による口腔健康管理を推進するために、歯科医師等を対象とするが心患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の収集提供 センター がい相談支援センターを設置し、①、②の体制を確保した上で、グルーブ指定のが心診療連携拠点病院との連携と役割分担によりⅢの5の(1) の3から別に規定する相談支援業務を行っている。 必要に応じてオンラインでの相談を受け付けるなど、情報通信技術等も活用している。 コミュニケーションに配慮が必要な者や、日本語を母国語としていない者等への配慮を適切に実施できる体制を確保している。 コミュニケーションに配慮が必要な者や、日本語を母国語としていない者等への配慮を適切に実施できる体制を確保している。	-		
5 相談支(1)が	がん相談支援 ①	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に参加させている。 長計値料達携による口腔健康管理を推進するために、歯科医師等を対象とするがん患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の収集提供 センター が人相談支援センターを設置し、①、②の体制を確保した上で、グルーブ指定のがん診療連携拠点病院との連携と役割分担によりⅡの5の(1) の3から窓に規定する相談支援を持た行っている。 必要に応じてナンテインでの相談を受け付けるとなど、情報通信技術等も活用している。 コミュニケーションに配慮が必要な者や、日本語を母国語としていない者等への配慮を適切に実施できる体制を確保している。 情報院等や思見継点に配慮が必要な者と、日本語を母国語としていないをいるできる機能を確保している。 情報院等や思見継点に配慮が必要な者と、日本語を母国語としていないをいる等の配慮を適切に実施できる体制を確保している。 国立が人研究センターによるが人相談支援センター相談員研修を修了した事従及び専任の相談支援に携わる者を1人ずつ配置している。 当該者のうち、18 は相談員基礎研修 (1)、(2) を、もう18 には基礎研修 (1) から(3) を修了している。	-		別紙13に詳細を記載してください。
5 相談支 (1) が (1) で (1) で	がん相談支援 ①	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に参加させている。 尽料値料達携による口腔健康管理を推進するために、歯科医師等を対象とするがん患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の収集選集 の収集選集 が人相談支援センターを設置し、①、②の体制を確保した上で、グルーブ指定のがん診療連携拠点病院との連携と役割分担によりⅡの5の(1) の3から部に規定する相談支援業務を行っている。 必要に応じてオンラインでの相談を受け付けるなど、情報通信技術等も活用している。 コミュニケーションに配慮が必要な者や、日本語を母国語としていない者等への配慮を通切に実施できる体制を確保している。 情報度等や思想達通に配慮が必要な者で、日本語を母国語としていない者等への配慮を通切に実施できる体制を確保している。 情報度等や思想達通に配慮が必要な者で、日本語を母国語としていないをいるである。 情報度等や思想達通に配慮が必要な者によるが人相談支援センター相談長研修を修了した単征及び悪化の相談支援に携わる者と、対定の質の向上のために、外心相談支援では受けるいる。 相談支援に携わる者は、対応の質の向上のために、がん相談支援と関する。	- - - - -		
5 相談支 (1) が (1) で (1) で	がん相談支援 ① ② ③	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に参加させている。 尽料値料達携による口腔健康管理を推進するために、歯科医師等を対象とするがん患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の収集提供 センク・ が人相談支援センターを設置し、①、②の体制を確保した上で、グルーブ指定のがん診療連携拠点病院との連携と役割分担によりⅡの5の(1) の3から部に規定する相談支援業務を行っている。 必要に応じてオンラインでの相談を受け付けるなど、情報通信技術等も活用している。 コミュニケーションに配慮が必要な者や、日本語を母国語としていない者等への配慮を通切に実施できる体制を確保している。 「情報所等や思想通」に配慮が必要な者や、日本語を母国語としていない者等への配慮を通切に実施できる体制を確保している。 情報のできる思維が、対応の質の向上のため、日本語を母国語としている。 「情報所等や思想通」に配慮が必要な者に対するマニュアルを作成している 「情報所等や思想通」に配慮が必要な者に対するマニュアルを作成している 「情報所等や思想通」に配慮が必要な者に対するマニュアルを作成している。 当該者のうち、18 には相談直集団神が(1)、(2)を、もう18 には基礎研修(1)から(3)を修了している。 当該者のうち、18 には相談自集団神が(1)、(2)を、もう18 には基礎研修(1)から(3)を修了している。 相談支援に関わる者は、対応の質の向上のために、がん相談支援と関サーター相談員研修等により定期的な知識の更新に努めている。 昨日のはいるが、18 に対している。 相談立様に関しているの診察をは、18 に対している。 ・経典している。	- - - - - - -		別紙13に詳細を記載してください。 別紙12に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。
5 相談支 (1) が (1) が (2) (3)	がん相談支援 ① ② ③	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に参加させている。 反科倫利達携による口腔健康管理を推進するために、歯科医師等を対象とするがん患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の収集機能 センクー がん相談支援センターを設置し、①、②の体制を確保した上で、グルーブ指定のがん診療連携拠点病院との連携と役割分担によりⅡの5の(1) の3から8に規定する相談支援業務を行っている。 必要に応じてオンラインでの相談を受け付けるなど、情報通信技術等も活用している。 コミュニアーションに配慮が必要な者や、日本語を母園語としていない電等への配慮を適切に実施できる体制を確保している。 コミュニアーションに配慮が必要な者や、日本語を母園語としていない電等への配慮を通切に実施できる体制を確保している。 当該者のうち、1名は相談更基度地クターによるが人相談支援センター相談直が接受がしている。 独議者のうち、1名は相談更基度地分の質の向上のために、水イ相談支援を整了した事徒及び悪化の相談支援に残わる着を1人ずつ配置している。 相談支援に携わる者は、対応の質の向上のために、がん相談支援センター間談員研修等のにより定期的な助策の更新に努めている。 除内及び地域の診療後半者の協力を得て解析の外のがん相談支援センター指談直接が高により定期的な助策の更新に努めている。 がん相談支援とンターにこれて周知するため、以下の体制を整備している。 相談支援に関レーゲな経験を有するが心患者団体との連携協力体制の構築に積極的に取り組んでいる。 がん相談支援センターについて周知するため、以下の体制を整備している。 外末初診許から治療開始までき目如に、がん場者及びその家族とが必ず一度はが人相談支援センターを訪問(必ずしも具体的な相談を伴わな			別紙12に詳細を記載してください。
5 相談支 (1) が (1) が (2) (3)	① ② ③ ④ ア イ	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に参加させている。 図科園科連携による口腔健康管理を推進するために、歯科医師等を対象とするがん患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の収集提供 センター が、相談支援センターを設置し、①、②の体制を確保した上で、グルーブ指定のがん診療連携拠点病院との連携と役割分担によりⅡの5の(1) の③から側に規定する相談支援を発を行っている。 必要に応じてオンラインでの相談を受け付けるなど、情報通信技術等も活用している。 コミュニケーションに配慮が必要な者や、日本語を母国語としていない者等への配慮を適切に実施できる体制を確保している。 コミュニケーションに配慮が必要な者や、日本語を母国語としていない者等への配慮を適切に実施できる体制を確保している。 コミュニケーションに配慮が必要な者や、日本語を母国語としていない者等への配慮を適切に実施できる体制を確保している。 国立が、研究センターによるが、相談支援センター相談員研修を修了した事徒及び専任の相談支援に携わる者を1人ずつ配置している。 抽談支援に携わる者は、対応の質の向上のために、が、4相談支援センター相談員研修等により定期的な知識の更新に努めている。 相談支援に関わる者は、対応の質の向上のために、が、4相談支援センター相談員研修等により定期的な知識の更新に努めている。 相談支援に関わる者は、対応の質の向上のために、が、4相談支援センター相談員研修等により定期的な知識の更新に努めている。 が、2000年のおりを検索を有るが、4世の外のの音楽はないといるの音楽は近い地域の音楽を手名の出版等に対応する体制 を整備している。 ・ が、4世の音楽は上の子を発展を指している。 ・ 小名様に関いるが、4世の音楽はないとないを表しましましましましましましましましましましましましましましましましましましま	- - - - - - - - -		別紙12に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。
5 相談支 (1) が (1) が (2) (3)	がん相談支援 ① ② ③ ④ ア	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に参加させている。 医村歯科連携による口腔健康管理を推進するために、歯科医師等を対象とするが心患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の収集提供 センター がい相談支援センターを設置し、①、②の体制を確保した上で、グルーブ指定のが心診療連携拠点病院との連携と役割分担によりⅡの5の(1) の③から間に規定する相談支援業務を行っている。 必要に応じてオンラインでの相談を受け付けるなど、情報通信技術等も活用している。 ②表別に応じオンラインでの相談支援を受け付けるなど、情報通信技術等も活用している。 ③ミュニケーションに記慮が必要な者や、日本語を母国語としていない者等への配慮を適切に実施できる体制を確保している。 当該者のうち、はは相談支援を受け付けるなど、情報通信技術等も活用している。 当該者のうち、はは相談支援を受け付けると、もうちは主義機可修(1)から(3)を修了レいる。 ・ は、対応の質の向上のために、が心相談支援センター相談員研修等により定期的な知識の更新に努かている。 相談支援に関したりる。 ・ は、対応の質の向上のために、が心相談支援センター相談員研修等により定期的な知識の更新に努かている。 ・ 相談支援に関している。 ・ 相談支援・1 対応の質の向上のために、が心相談支援・1 大・1 大・2 大・2 大・3 大・3 大・4 大・3 大・4 大・4 大・5	-		別紙12に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。
5 相談支 (1) が (1) が (2) (3)	① ② ③ ③ ④ ア イ ウ	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に参加させている。 長村福村連携による口腔健康管理を推進するために、歯科医師等を対象とするがん患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の収集選集 センターと がん相談支援センターを設置し、①、②の体制を確保した上で、グルーブ指定のがん診療連携拠点病院との連携と役割分担によりⅡの5の(1) の③から8に規定する相談支援実務を行っている。 参製に応じてオンラインでの相談を受け付けるなど、情報通信技術等も活用している。 コミュニケーションに配慮が必要な者や、日本語を母園語としていない者等への配慮を通切に実施できる体制を確保している。 コミュニケーションに配慮が必要な者や、日本語を母園語としていない者等への配慮を通切に実施できる体制を確保している。 国立が心研究センターによるがん相談支援センター 相談直接性を整了した事徒及び悪化の相談支援に残わる者を1人ずつ配置している。 基議者のうち、1名は相談直接破跡を11、(2)を、もう1名は基礎研修(1)から(3)を作りている。 財務力を者は、対応の質の向上のために、がん相談支援と変ー相談直研修を1から(3)を作りている。 相談支援に携わる者は、対応の質の向上のために、がん相談支援と変ー相談自研修等により定期的な知識の更新に努めている。 財際内及び地域の診療後事者の協力を得て、所外のが心思考なびその家族を近に地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制 相談支援に関レーゲな経験を有するが心患者団体との連携協力体制の構築に積極的に取り組んでいる。 がん相談支援センターについて周知するため、以下の体制を整備している。 がん相談支援センターについて周知するため、以下の体制を整備している。 海の機能を作わないる機能を指するが心患を含めまるときに確実に利用できるよう機り返、案内を行っている。 機り返、案内を行っている。 「中国をおより、またいできる体制を整備している。 ・ 「本のではいる相談を接てとりまたが、またいでは、おはいる情報を使わないる場合は、またいでは、またいできるように確実に利用できるよう機能のよりでは、またい	- - - - - - - - -		別紙12に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。
5 相談支 (1) が (1) が (2) (3) (4)	① (2) (3) (4) (7) イウェ オ	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に参加させている。 を刊着付護機による口腔健康管理を推進するために、歯科医師等を対象とするが心患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の収集提供 センター がい相談支援センターを設置し、①、②の体制を確保した上で、グルーブ指定のが心診療連携拠点病院との連携と役割分担によりⅡの5の(1) の3から間に規定する相談支援を発を行っている。 必要に応じてオンラインでの相談を受け付けるなど、情報通信技術等も活用している。 コミュニケーションに記憶が必要な者や、日本語を母国語としていない者等への配慮を適切に実施できる体制を確保している。 コミュニケーションに記憶が必要な者や、日本語を母国語としていない者等への配慮を適切に実施できる体制を確保している。 コミュニケーションに記憶が必要な者や、日本語を母国語としていない者等への配慮を適切に実施できる体制を確保している。 国立が心研究センターによるが小相談支援センター相談長研修を修了した事従及び専任の相談支援に携わる者を1人ずつ配置している。 当該者の予ら、1 なは相談支援を関係がいる(1) を持ている。 相談支援に関わる者は、対応の質の向上のために、がん相談支援センター相談員研修を1から(3) を修了している。 相談支援に関している。 相談支援に関している。 相談支援に関している。 相談支援に関している。 のの質の前上の行と、所の外のが心患者及びその家族並切ら地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制を整備している。 小が相談支援センターについて開始するため、以下の体制を整備している。 小が相談支援センターについて開始するため、以下の体制を整備している。 小がの確認も含む)することができる体制を整備している。 海に備えて事前の面談や準備のフローに組か込む。影像の経過の中で患者が必要とするときに確実に利用できるよう 繰り返し案内を使っている。 一緒では関係と関係と関係に対し、が心相談支援センターに関する広報を行っている。 ・ 第四の風や中で、対議極地等の関係機関に対し、が心相談支援センターに関する広報を行っている。 ・ 第四の風や中で、対域を関係となり、は対域を関係となり、は対域を関係となり、は対域を関係となり、は対域を関係となり、は対域を関係となり、は対域を関係となり、は対域を関係となり、は対域を関係となり、は対域を関係となり、は対域を関係となり、は対域を関係となり、は対域を関係となり、は対域を関係となり、は対域を関係となり、は対域を関係となり、は対域を関係となり、は対域を関係となり、対域を関係となり、対域を関係となり、対域を関係となり、対域を関係となり、対域を対域を関係となり、対域を関係となり、対域を関係となり、対域を関係となり、対域を関係となり、対域を関係となり、対域を関係となり、対域を対域を関係となり、対域を関係となり、対域を関係となり、対域を関係となり、対域を関係となり、対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を関係となり、対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -		別紙12に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。
5 相談支 (1) が	 がん相談支援 ② ③ イウェオ 方 	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に参加させている。 昼村歯科連携による口腔健康管理を推進するために、歯科医師等を対象とするがん患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の収集選集 センター がん相談支援センターを設置し、①、②の体制を確保した上で、グルーブ指定のがん診療連携拠点病院との連携と役割分担によりⅡの5の(1) の3から態に規定する相談支援業を行っている。 必要に応じてオンラインでの相談を受け付けるなど、情報通信技術等も活用している。 コミュニケーションに記憶が必要な者や、日本語を母国語としていない者等への配蔵を適切に実施できる体制を確保している。 コミュニケーションに記憶が必要な者や、日本語を母国語としていない者等への配蔵を適切に実施できる体制を確保している。 国立がん研究センターによるが人相談支援センター相談長研修を修了した事従及び専任の相談支援に携わる者を1人ずつ配置している。 ・	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -		別紙12に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 ※指定された期間以前に、がん相談支援センターを利用した。
5 相談文 (1) が (1) が (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	 がん相談支援 ② ③ アイウェオ オ ⑤ 	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に参加させている。 昼村歯科連携による口腔健康管理を推進するために、歯科医師等を対象とするがん患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の収集選集 センター がん相談支援センターを設置し、①、②の体制を確保した上で、グルーブ指定のがん診療連携拠点病院との連携と役割分担によりⅡの5の(1) の3から態に規定する相談支援業を行っている。 必要に応じてオンラインでの相談を受け付けるなど、情報通信技術等も活用している。 コミュニケーションに記憶が必要な者や、日本語を母国語としていない者等への配度を適切に実施できる体制を確保している。 コミュニケーションに記憶が必要な者や、日本語を母国語としていない者等への配度を通切に実施できる体制を確保している。 国立がん研究センターによるがん相談支援センター相談長研修を修了した事従及び専任の相談支援に携わる者を1人ずつ配置している。 ・ 当該者のうち、1名は相談員基礎研修(1)、(2)をも、も13年は基礎研修(1)、(3)。2を修了している。 ・ 相談支援に関わる者は、対応の質の向上のために、がん相談支援センター相談員研修等により定期的な知識の更新に努かている。 ・ 相談支援に関している。 相談支援に関しているの値から発作している。 相談支援に関しているの値がある性、対応の質の向上のために、がん相談支援センター相談員研修等により定期的な知識の更新に努かている。 相談支援に関レー分な経験を有するがの患者団体との連携協力を対して機能の上取り組んでいる。 がん相談支援センターについて開始するため、以下の体制を整備している。 はおは支援センターについて開始するため、以下の体制を整備している。 はおは支援を10 することができる体制を整備している。 はおいる情報やまでしている。 は、大手師の画版や単偏のフローに組か込む等、診療の経過の中で患者が必要とするときに確実に利用できるよう 競別の風を10 するに対している。 がん相談支援を10 で、20 種は他の回版や理像のに関い対し、がん相談支援センターを訪問(必ずしも具体的な相談を作わない、当場所の見やすい場所にが、40 種類に表している。 を報じたしているのを把握し、認知度の継続的な改善に努めている。 を知りをは、20 で、設括監修の関係を関している。 を称りを関している。 ないは、20 で、30 であるよう、40 の規則に、がん相談支援センターを初めて訪れた者の表とがしまがあるが表を増している。 を称りを相とを相としている。 を称りを相定といるの表を相をを確している。 を称りを対していない者が必要を確している。 を称りを対していない者が必要を確している。 を称りを対しないまたが、20 であるよう、40 の規則により、40 を積を積を積を付きために関係とも信報表するなど、がん相談を提出をしている。 を称りのの表に対していない者が続けるなど、がん相談を接続される。 をがなりませないまたが、40 を表しないまたないまたないまたないまたないまたないまたないまたないまたないまたないまた			別紙12に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 ※指定された期間以前に、がん相談支援センターを利用した
5 相談文 (1) が (1) が (1) (2) (3) (4) (6) (6) (7)	 がん相談支援 ② ③ イウェオ 方 	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に参加させている。 泉村歯科連携による口腔健康管理を推進するために、歯科医師等を対象とするがん患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の収集選集 センター がん相談支援センターを設置し、①、②の体制を確保した上で、グルーブ指定のがん診療連携拠点病院との連携と役割分担によりⅡの5の(1) の3から態に規定する相談支援を発行っている。 必要に応じてオンラインでの相談を受け付けるなど、情報通信技術等も活用している。 コミュニケーションに記憶が必要な者や、日本語を母国語としていない者等への配度を適切に実施できる体制を確保している。 コミュニケーションに記憶が必要な者や、日本語を母国語としていない者等への配度を通切に実施できる体制を確保している。 国立がん研究センターによるがん相談支援センター相談良研修を修了した事従及び専任の相談支援に携わる者を1人ずつ配置している。 ・ 当該者のうち、1名は相談支援を研修(1)(2)をも、も13名は基礎研修(1)(2)(3)を修了している。 ・ 相談支援に関わる者は、対応の質の向上のために、がん相談支援センター相談員研修等により定期的な知識の更新に努かている。 ・ 相談支援に関レージな経験を有するがの患者団体との連携協力を制の構築に積極的に取り組んでいる。 ・ はま支援に関レージな経験を有するがの患者団体との連携協力を制の構築に積極的に取り組んでいる。 ・ がん相談支援センターにこいて開始するため、以下の体制を整備している。 ・ は 大部院の確認も含む)することができる体制を整備している。 ・ 治療に偏えた手前の面談や単偏のフローに組か込む等、診療の経過の中で患者が必要とするときに確実に利用できるよう ・ 銀別の法例を持つている。 ・ 後内の見やすい場所にがん相談支援センターについて分かりやすく掲示している。 ・ 接入の見やすい場所にがん相談支援したり本についる。 ・ 常和の見やすい場所にがん相談支援したり、	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -		別紙12に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 ※指定された期間以前に、がん相談支援センターを利用した
5 相談文 (1) が (1) が (1) (2) (3) (4) (6) (6) (6) (7) (6) (7)	① (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8)	他の診療後事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に参加させている。 反対福利道機による口腔健康管理を推進するために、歯科医師等を対象とするがん患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の収集課株 センター が人相談支援センターを設置し、①、②の体制を確保した上で、グルーブ指定のがん診療連携機点病院との連携と役割分担によりⅡの5の(1) の3から81・出程要する相談支援事務を行っている。 必要に応じてオンラインでの相談を受け付けるなど、情報通信技術等も活用している。 ・ では、アース・アース・アース・アース・アース・アース・アース・アース・アース・アース・			別紙12に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 ※指定された期間以前に、がん相談支援センターを利用した。
5 相談文 (1) が (2) (3) (4) (2) (2) (2) (2)	① (2) (3) (4) アイ・ウェエオ (5) (6) フ (8)	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に参加させている。 反対福利連携による口腔健康管理を推進するために、強利医師等を対象とするがん患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の収集課株 センター が人相談支援センターを設置し、①、②の体制を確保した上で、グルーブ指定のがん診療連携拠点病院との連携と役割分担によりⅡの5の(1) の3から81・規定する相談支援を募を行っている。 必要に応じてオンラインでの相談を受け付けるなど、情報過程技術等も活用している。 フミュニケーションに配慮が必要な着や、日本語を母国語としていないま等への配慮を避りに実施できる体制を確保している。 コミュニケーションに配慮が必要な者や、日本語を母国語としていないま等への配慮を避りに実施できる体制を確保している。 国立がん研究センターによるが人相談支援センター相談最更増を11・次に事能及び発作の相談支援に関わる者を1人での配置している。 当該者のうち、名は相談負基礎研修(1)から(3)を作りている場合を1人での配置している。 当該者のうち、名は相談負基礎研修(1)から(3)を作りている場合を1人での認定している。 当該者のうち、名は相談の基礎研修(1)から(3)を作りている。 対策内及び地域の診療使す者の個力を2分にから、砂内のがん患を3分に不安にがした場合に表している。 対策内及び地域の診療使す者の個力を2分にから、砂内のがん相談支援センターに対している。 対人相談支援センターについて周知するため、以下の体制を輸出している。 が人相談支援センターについて周知するため、以下の体制を輸出している。 が人相談支援センターについて周知するため、以下の体制を輸出している。 は対策と関係と含えりすることができる体制を整備している。 対域の自体を持つている。 地域のは氏や医療・在生・介護植職等の関係機関に対し、が人相談支援センターと訪問(必ずしも具体的な相談を存わなし、場所の見ややけい場所にが人相談支援センターについて分かりやす(掲示している)。 地域のは氏や医療・在生・介護植職等のの関係機関に対し、が人相談支援センターに関する広観を行っている。 自施院に満えた事的の画数や単面の関係機関に対している。 が人相談支援センターの事所の音能技の相談を提出している。 が人相談支援センターを初めて利用した者の相談件数が、が、相談支援センターを初めて利用した者の相談件数が、が、相談支援センターを初めて利用した者の相談件数が、が、相談支援センターを初めて利用した者の相談件数が、相談支援センターを初めて利用した者の相談件数が、が、相談支援センターの影響に表していて、近知を企業が対けに対している。 が人相談支援とシア・シの影響と対している。 が人相談支援にセンターの場等を受けたじて、サボーターを活用する、もしくは十分を経験を使している。 ない、相談を提供している。 が、人相談を提供している。 が、人相談を提供しているのは、人相談を提供している。 が、人相談を提供している。 が、人相談を提供しているのは、人相談を提供しているのは、人相談を提供しているが、人相談を提供しているのは、人相談を提供しているのは、人相談を提供しているのは、人相談を提供しているのは、人相談を提供しているのは、人相談を提供している。 は、人相談を提供しているのは、人相談を提供しているのは、人相談を提供しているのは、人相談を提供しているのは、人相談を提供しているのは、人相談を提供しているのは、人相談を提供しているのは、人相談を表しているのは、人相談を表しているのは、人相談を表しているのは、人相談を表している。 は、人相談を表しているのは、人相談を表している。 は、人相談を表しているのは、人相談を表しているのは、人相談を表しているのは、人相談を表しているのは、人相談を表している。 は、人相談を表している。 は、人相談を表している。 は、人相談を表しているのは、人相談を表しているのは、人相談を表している。 は、人相談を表しているのは、人相談を表している。 は、人相談を表しているのは、人相談を表しているのは、人相談を表しているのは、人相談を表しているのは、人相談を表しているのは、人相談を表している。 は、人相談を表しているのは、人相談を表しているのは、人相談を表しているのは、人相談を表			別紙14に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 ※指定された期間以前に、がん相談支援センターを利用した3 数については、計上しないようご注意ください。
5 相談文 (1) が (2) (3) (4) (2) (2) (2) (2)	びん相談支援 (1) (2) (3) (4) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に参加させている。 反対福利連携による口腔健康管理を推進するために、強制医師等を対象とするがん患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の収集護株 センター が人相談支援センターを設置し、①、②の体制を確保した上で、グルーブ指定のがん診療連携拠点病院との連携と役割分担によりⅡの5の(1) の3から8に指数する相談支援を募を行っている。 必要に応じてオンラインでの相談を受け付けるなど、情報過程技術等も活用している。 フミュニアーションに配慮が必要な着や、日本語を母国語としていないま等への配産を通りに実施できる体制を確保している。 コミューアーションに配慮が必要な者や、日本語を母国語としていないま等への配産を通りに実施できる体制を確保している。 国立がんが最次とソターによるがん相談支援センター相談最近性を修了した事故の事情を明確に対するマニュアルを作成している。 当該者のうち、名は相談真基礎研修(1)、(2)を、もう1名は基礎研修(1)、か(3)を作りている。 対策内及が地域の診療使事者の個力を使したいる。 が成相談支援に関わる者を1人ずつ配置している。 出談支援に関した分を2を増している。 対域の方を1人が企業が使いたが、対域の対象が使いたりに関いている。 対域の方と呼いたの影を使います。 がん相談支援センターについて開助するため、以下の体験を増している。 がん相談支援センターについて開助するため、以下の体験を増加している。 対人が、相談支援センターについて開助するため、以下の体験を増加している。 がん相談支援センターに同いたの場所と対象が使いたので表体制を増加している。 は対域に満えた手的の面談や単向のフローに結びみむる等、診療の経過の中で患者が必要とするときに確実に利用できるよう 繰り返し案内を行っている。 地域のは民や影像・在生・介護権職等の関係機関に対し、が人相談支援センターと制門にが人相談支援センターにの相談にも対していないまからの相談にも対していない。 が人相談支援センターを初めて訪れた者の数を把握し、認知度の継続的な改善に優外の表情に入いれる。 が人相談支援センターを初めて訪れた者の数を把握し、認知度の継続的な改善に多めて利用し、が人相談支援センターを初めて利用した者の相談件教がが人相談支援センターを初めて利用した者の相談を対している。 が人相談支援センターのお談が支援に携わる者は、7の226(1)に規定する当該都道府県にある都道府県拠点病院が実施する相談支援に携わる者が対応できる当該都道府県にある都道府県拠点病院が実施する相談支援に携わる主張性の関係を設定といる。 ない相談支援に対しるの場合と連携している。 本者からの相談でも開催できる。 はの際の方が人登録を実施している。 単立が人研究とセンターの接続を注している。 単立が人研究とセンターが実施する研修で認定を受けている。 単述記述者の認定を受けている。単従の院内が人登録の実務を担う者の人数			別紙12に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 ※指定された期間以前に、がん相談支援センターを利用した。 数については、計上しないようご注意ください。
5 相談文 (1) が (1) が (2) (3) (4) (2) 院 (2) 院 (2) 院 (2) (3) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	びん相談支援 (1) (2) (3) (4) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に参加させている。 反対福利連携による口腔健康管理を推進するために、強制医師等を対象とするがん患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の収集護株 センター が人相談支援センターを設置し、①、②の体制を確保した上で、グルーブ指定のがん診療連携拠点病院との連携と役割分担によりⅡの5の(1) の3から8に指数する相談支援を募を行っている。 必要に応じてオンラインでの相談を受け付けるなど、情報過程技術等も活用している。 フミュニアーションに配慮が必要な着や、日本語を母国語としていない意等への配産を通りに実施できる体制を確保している。 国立がん研究とソターによるが人相談支援センターを開設していて、中枢の配産を通りに実施できる体制を確保している。 当該者のうち、1名は相談真基度がクラールで、所内外のが心患者が強いでは、10分を行っている。 当該者のうち、1名は相談真基度がより、1分の質の向上のたが、ため、相談支援に関わる者を1人ずつ配置している。 相談支援に関わる者は、別応の質の向上のたが、ため、他相談支援センター相談最が確保している。 14間談支援に関した分配動を使者で、所内外のが心患者及びその家族立てに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対かする体制を整備している。 対かん相談支援センターにこいて周知するため、以下の体熱を輸出している。 対かん相談支援センターについて周知するため、以下の体熱を輸出している。 対かん相談支援センターについて周知するため、以下の体熱を輸出している。 対かん相談支援センターを制の面談や単海のフローに結り本力を等。除命の経過の中で患者が必要とするときに確実に利用できるよう線が多点と対することができる体制を整備している。 対域に観えた事的の面談や単海のフローに結り本力を等。除命の経過の中で患者が必要とするときに確実に利用できるよう線が大の見かに対しました。 対域の住民や影像・在まい理権社等の関係機関に対し、が人相談支援センターに関する広報を行っている。 自施院に関心にいい場でにかん相談を提せとターについて分かりやすく相示している。 対域の支援センターを初めて対相になる相談を提出しましている。 が人相談支援センターを初めて対用された者の数を把握し、認知度の継続的な改善に影がに変勢とない、他能談とも情報共有している。 オルラの内容を受けている作用をを連携している。 が人相談支援センターを初めて利用した者の数を推進している。 オルシの一に表しているを形は同様でも記憶を支援に関わる者は別を接続を担うるも、病院長もいくはそれに単とも高が結だするほと、がの限的と対しを観測を対している。 オルシの内容を受けたどで、サボーターを活動を影響している。 国立がん研究センターの接続を認定を受けたどで、中様記定者の認定を受けている。単後の院内が人登録の実務を担う者の人数 初級認定者の認定を受けている。種の院内が人登録の実務を担う者の人数 初級認定者の認定を受けている。種後の院内が人登録の実務を担う者の人数 初級認定者の認定を受けている。種後の院内が人登録の実務を担う者の人数 初級認定者の認定を受けている。種様の院内が人登録の実務を担う者の人数 初級認定者の認定を受けている。種様の院内が人登録の実務を担うする。 「はいればないないないないないないないないないないないないないないないないないないな			別紙13に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 ※指定された期間以前に、がん相談支援センターを利用した。 数については、計上しないようご注意ください。
5 相談文 (1) が (1) が (2) (3) (4) (2) (2) (3) (4) (3) (6) (3) (6) (4)	びん相談支援 (1) (2) (3) (4) (7) (7) (7) (7) (7) (8) (8) (9) (7) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9	他の診療後事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に参加させている。 反対福利連携による口腔健康管理を推進するために、強制医師等を対象とするがん患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の収集護株 センター が人相談支援センターを設置し、①、②の体制を確保した上で、グルーブ指定のがん診療連携拠点病院との連携と役割分担によりⅡの5の(1) の3から8に指数する相談支援を募を行っている。 必要に応じてオンラインでの相談を受け付けるなど、情報通信技術等も活用している。 ・ フェューケーションに配慮が必要な着や、日本語を母国語としていない意等への配慮を通切に実施できる体制を確保している。 ・ 国立がん研究とソターによるが人相談支援センター・相談最近被を整了レル等なのの配慮を通切に実施できる体制を確保している。 ・ 当該者のうち、1名は相談員基礎研修(1)、(2)を、もう1名は基礎研修(1)から(3)を修了している。 ・ 日間設立気に関いたの影像使者をあるが人患者団体との連携協力が修りがから(3)を修了している。 ・ 日間設立気に関いたの影像を表するがん患者団体との連携協力体部を領している。 ・ 日間設立気に関いたの影像を表するが心患者団体との連携協力体部を領している。 ・ がん相談支援センターについて周知するため、以下の体部を輸出している。 ・ がん相談支援センターについて周知するため、以下の体部を輸出している。 ・ がん相談支援センターにおいるが出版の要がより持ちため、以下の体部を輸出している。 ・ がん相談支援センターについて別知を必要との連携協力体部の循環を提供の内でいる。 ・ は、場所をの確認も含いすることができる体制を整備している。 ・ 小様に積に入手術の面談や平備のの田や平海のクローに基外よむ等、終後の経過の中で患者が必要とするときに確実に利用できるよう ・ 銀り返し選内といいる。 ・ 別外の見やすい場所にが人相談支援センターについて分かりやすく相示している。 ・ 地域の住民や医療・在生・小様植物等の関係機関に対し、が人相談支援センターに関する広報を行っている。 ・ 地域の住民や医療・在生・小様植物を同じない、根述を整備している。 ・ かん相談支援センターを初めて制用した者の財産と指摘しまる。 ・ かん相談支援センターを初めて利用した者の財産を発化している。 ・ かん相談支援センターを初めて利用した者の財産が経過を整備している。 ・ から相談支援・センターの程談に対なにできかいたの事法が出たを整備している。 ・ かん相談支援・センターの神経に対している。 ・ から相談を選集している。 ・ おいる研修と記述に対したが、部がは対しな必要を整備している。 ・ から相談を選集といるの財産の対し、が、のは関係を関係と対し、のは関係を関係といる。 ・ から相談を選集としている。 ・ から相談を選集といるの場で対している。 ・ から相談を選集といるの財産を関係でいる。 ・ から相談を選集といるの財産に対している。 ・ から相談を選集といるの場では対している。 ・ から相談を選集といるの財産を関係でいる。 ・ から相談を選集といるの財産を関係といるの財産を関係を関係といるの財産を関係を関係といるの財産の財産を関係を関係している。 ・ から相談を関係を関係している。 ・ から相談を選集を関係している。 ・ から相談を関係を関係と対しているの財産を関係を関係といるの財産を関係を関係といるの財産を関係といるの財産を関係を関係を関係を関係を関係といるの財産を対しているの財産を関係を関係といるの財産を関係を関係を関係を関係といるの財産を関係を関係といるの財産を関係を関係といるの財産を関係を関係を関係を関係といるの財産を関係を関係を関係を関係といるの財産を関係を関係を関係を関係を関係を関係といる関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関			別紙13に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 ※指定された期間以前に、がん相談支援センターを利用した。 数については、計上しないようご注意ください。
5 相談文 (1) が (1) が (2) (3) (4) (2) (2) (3) (4) (3) (6) (3) (6) (4)	びん相談支援 (1) (2) (3) (4) (4) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に参加させている。 医科倫利達携による口腔健康管理を推進するために、歯科医師等を対象とするがん患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の収集護化 センクー がん相談支援センターを設定し、①、②の体制を確保した上で、グルーブ指定のがん診療連携拠点病院との連携と役割分担によりⅡの5の(1) の3から8に規定する相談支援を支付である。 金製に応じてオンラインでの相談を受け付けるなど、情報通信技術等も活用している。 コミュニアーションに配慮が必要な者や、日本語を母国語としていない。省等への配慮を通切に実施できる体制を確保している。 コミュニアーションに配慮が必要な者や、日本語を母国語としていない。14歳の音や登思疎通に患値が必要な者に対するマニュアルを作成している 国立が人研究センターによるが人相談支援センター相談員研修を修了した事徒及び男性の相談支援に残わる者を1人オーの配慮している。 当該者のうち、1名は相談員整理修行(1)(25 もう)名は基礎が優(1)から(3)を作りている。 相談支援に携わる者は、対応の質の向上のために、がん相談支援センター相談員研修等でにより定期的な助策の実施であるで、対域の質の向上のために、がん相談支援でシターについる。 日本語を登慮している。 相談支援に関レーゲな経験を有するが心患者団体との連携協力体制の構築に積極的に取り組んでいる。 がん相談支援センターについて周知するため、以下の体制を整備している。 治療に備えた事的の面談や準備のフローに組み込む等、診療の軽適の中で患者が必要とするときに確実に利用できるよう 繰り返し案内を行っている。 機り返し案内を行っている。 地域の住民や医療・在宅・介護福祉等の関係機関に対し、がん相談支援センターに関する広報を行っている。 自施設に適成でもまのの相談にも対がしている。 かん相談支援センターの用談に対がしている。 かん相談支援センターを初めて訪れた者の数を把握し、認知度の継続的に改善に努かている。 自施設に適成では、中心・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			別紙13に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 ※指定された期間以前に、がん相談支援センターを利用した。 数については、計上しないようご注意ください。
5 相談文 (1) が (1) が (2) (3) (4) (2) (2) (3) (4) (3) (6) (3) (6) (4)	びん相談支援 (1) (2) (3) (4) (4) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に参加させている。 医科福利達提出よる口腔健康管理を推進するために、歯科医師等を対象とするがん患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の収集課状 センター がん相談支援センターを設置し、①、②の体制を確保した上で、グルーブ指定のがん診療連携拠点病院との連携と役割分担によりⅡの5の(1) の②から8に規定する相談支援表を行っている。 金製に応じてオンティンでの相談を受け付けるなど、情報通信技術等も活用している。 コミュニケーションに配慮が必要な者や、日本語を母園語としていない。省等への配慮を通切に実施できる体制を確保している。 コミュニケーションに配慮が必要な者や、日本語を母園語としていない。14歳の程件や意思疎通に配慮が必要な者に対するマニュアルを作成している 国立が人研究センターによるが人相談支援センター相談直接性を整てした事徒及び男性の相談支援に携わる者を1人オフ配置している。 当該者のうち、名は相談直接破跡は11、(22 も も 1 をは 23 を			別紙13に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 ※指定された期間以前に、がん相談支援センターを利用した。 数については、計上しないようご注意ください。
5 相談文 (1) が (1) が (2) (3) (4) (2) (2) (3) (4) (3) (6) (3) (6) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	びん相談支援 (1) (2) (3) (4) (4) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に参加させている。 を知念せている。 の収集機体 センター がん相談支援センターを設置し、①、②の体制を確保した上で、グルーブ指定のがん診療連携拠点病院との連携と役割分担によりIIの5の(1) の3から別に規定する相談支援業務を行っている。 の要に応じてオンラインでの相談を受け付けるなど、情報通道技術等も活用している。 の要に応じてオンラインでの相談を受け付けるなど、情報通道技術等も活用している。 「情報原料を思路議」即連が必要な者や日本語を個国話としていない。着等の配慮を通切に実施できる体制を確保している。 「無限原料や意思路議」即連が必要な者を1日本語を何国話としていない。着等の配慮を通切に実施できる体制を確保している。 「無限原料や意思路議」即連がきるを支援に対するマニュアレを作成している。 「情報原料や意思路議」即連がきる者と入び、日間とない。 「情報原料・企業思路議」即連がきる者と入び、日間とない。 「情報原料・企業思路議」即連がきるがより変しまるが、人間談支援センター相談支援性を受しました。 「独立の方も、名は相談自基礎研修(1)、(2)を、もう1名に基礎研修(1)から(3)を修了している。 「独立の方も、名は相談自基礎研修(1)、(2)を、もう1名に基礎研修(1)から(3)を修了している。 地域を関したの名を指しましている。 地域を関したの名をは、対域の窓の向上のからには、がん相を対している。 がん相談支援に関した分な経験を有するがん患者団体との連携協力体制の異なに対域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制を整備している。 外来初診時から治療開始までを目別に、がん患者及どその家族が必ず一度はがん相談支援センターを訪問(必ずしも具体的な相談を作わない、規制等の場合と含くすることかできる体験を整備している。 治療に購入る事前の面談や準備のフローに組み込む等、診療の経過の中で患者が必要とするときに確実に利用できるよう 接別に構入事前の面談や準備のフローに組み込む等、診療の経過の中で患者が必要とするときに確実に利用できるよう 接別に構入す事前の面談や準備のフローに組み込む等、診療の経過の中で患者が必要とするときに確実に利用できるよう 接別に構入を整め、たまの特別を受けていて、おいの非常に対している。 令和5年1月1日~12月31日の期間に、がん相談支援センターを初めて利用した者の相談件数がん相談支援センターを初めて利用した者の相談を使用にない。 令和5年1月1日~12月31日の期間に、がん相談支援でンターを初めて利用した者の相談体数がん相談支援とンターの事務内容について、相談を対している。 ・参加りの利能支援とフターの機能力を対し、形式の相談を関している。 ・参加りの利能を受強しているが必要を発展している。 ・参加りの利能を受強している。 ・参加を登録を対している。 ・参加がの利能を受強している。 ・数配定者の認定を受けている。事従の時が小を登録支援を1つまる。 ・カンがんの登録を変施している。 ・第2位の場合とは、形式の場合とは、形式の場合とは、の場の特別を実施するよう の場合とは、の場合とは、形式の場合とは、形式の場合とは、他能談とも情報共有している。 ・申認定者の認定を受けている。事従の時が、実施するよう の場合とは、の場の情報を対している。 ・おのの情報を受けている。事だの時にである。単位により、の場の時が、を登め支援を変施している。 ・おのの情報を対している。 ・おのの情報を対している。 ・おのの情報を対している。 ・おのの情報を対している。 ・おのの情報を対している。 ・おのの情報を対している。 ・おのの情報を対している。 ・おのの情報を対している。 ・おのの情報を対している。 ・おのの情報を対しないるが、表述の情報を対しないる。 ・おのの情報を対しないるが、表述のは、まれないるが、表述のは、表述のは、表述のは、表述のは、表述のは、表述のは、表述のは、表述のは			別紙13に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 ※指定された期間以前に、がん相談支援センターを利用した。 数については、計上しないようご注意ください。
5 相談文 (1) が (1) が (2) (3) (4) (2) (2) (3) (4) (3) (6) (3) (6) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	びん相談支援 (1) (2) (3) (4) (4) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に参加させている。 を利応させている。 の収集機体 センター が、相談支援センターを設置し、(1)、②の体制を確保した上で、グループ指定のがん診療連携拠点病院との連携と役割分担によりⅡの5の(1) の3から別に規定する相談支援業務を行っている。 の要に応じてオンラインでの相談を受け付けるなど、情報通信技術等も活用している。 一つ3ニュニケーションに関節が必要な者や日本語を毎間話していない。 「情報度料や意思疎通」に連絡できる体験を確保している。 「自定が必要なせから、一つ3には、10、②の体制を確保したとで、グループ指定のがん診療連携拠点病院との連携と役割分担によりⅡの5の(1) の3から別に規定する相談支援業務を行っている。 「海風海や意思疎通」に連絡できる体験を確保している。 「海風海や意思疎通」に連絡できる体験を確保している。 「海風海や意思疎通」に連絡できる体験を確保している。 「海風海や意思疎通」に連絡できる体験を確保している。 「海田東海や金田球番」に連絡の多を含まに対するマニュアルを作成している。 「独立支援に関したる者は、対域の窓の向上のからに、が人相談支援性レター・石製造所等により定理制から名書といようの窓の向上のからに、が人相談を提出といる。 「神経支援に関した分な経験を有するがん患者団体との連携協力を制の機能に対した。 ・ 中枢が必要がある者は、対域の窓の向上のからにある。 ・ 中枢が必要があるが、自然を行いている。 ・ 中枢が必要があるが、自然を行いでは、かん患者などその家族が必ず一度はが人相談支援センターを訪問(必ずしも具体的な相談を作わない、場所等の協談や準備のフローに組み込む等、診療の設置の中で患者が必要とするときに確実に利用できるよう ・ 治療に適成していない場からの相談を表している。 ・ 中枢が変化を介し、経験基をの関係機関に対し、が人相談支援センターと助問(必ずしも具体的な相談を作わない、場所等の場合と表でが、中枢が必要が、中枢・中患者が必要とするときに確実に利用できるよう ・ 治療に適えた事前の面談や準備のフローに組み込む等、診療の設置のを設定している。 ・ 治療に適えた事前の面談や準備のフローに組み込む等、診療の接近の施設をできるときに確実に利用できるよう ・ 治療に適えた事前の面談や準備のフローに組み込む等、診療の接近のを接近している。 ・ 治療に適えた事がの中臓がと関いといる。 からの相談と関とセターに関いるが表がないまた。 から、相談支援センターを初めて利用した者の相談を接触している。 から、相談支援センターの対験を対しないるが、おいの事に対している。 おのの事務の家に応じたけるが、の事の事をを使している。 本部が発音が必要がないる。 おのの事務の家にのいて、相談をおから、対象がよりできるよう、病院を行っている。 おのの事務の家に応じて連かった際内の診療を非常が対応できるよう、病院長もしている。 おのの事務の家に応じまがいた際内の診療を非常なられている。 本部が発音で認定を受けている。 本部が必要を使じている。 本部が必要を対している。 本部が必要を対している。 本部が必要を対している。 本のの場をでは定を受けている。 本ののは、とは関している。 本のの場合を表している。 本のの場合を表している。 本のの場合を表している。 本のの場合を表している。 本のの場合を表している。 本ののは、とは様になるといのの場合を表している。 本ののは、とは様になるといののの場合を表している。 本ののは、とは様になるとながないませませませませませまままままままままままままままままままままままままま			別紙13に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 ※指定された期間以前に、がん相談支援センターを利用した: 数については、計上しないようご注意ください。
5 相談文 (1) が (1) が (2) (3) (4) (2) (2) (3) (4) (3) (6) (3) (6) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	びん相談支援 (1) (2) (3) (4) (4) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	他の診療保事者についても、各々の専門に応じた朝修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている時候に 参加させている。 医科維育基準による日陸健康管理を推進するために、維料医師等を対象とするが心患者の口陸健康管理等の研修の実施に協力している。 の収集提供 センター が人相談支援性セクターを設置し、①、②の体制を確保した上で、グループ指定のが心診療連携拠点病院との連携と役割分担によりII の5の(1) の3から別に規定する相談支援を発を行っている。 ・要に応じてオンラインでの相談を受け行うなど、情報通信技術等も活用している。 コミュニケーションに配慮が必要な者や、日本語を問題はとしている。 ・事にあしている。 通知と記念が必要なるといるが、自然を受けている。 情報定程件を思想達はに関心が必要な者といるまたの登園語としている。 国立が心経費なセクーによるが人相談支援センター相談最研髪を作した事徒のと思想はの相談支援に扱わる者をしようで記録している。 ・当該者のから、1名は相談最基礎研修(1)、(2)を、もう1名は基礎研修(1)から(3)を修了している。 組織支援に関心もつる者は、対応の質の向にものたまい、が人相談支援センター相談の情報等に表が定期的な知識の更新に努めている。 所内及び地域の診療保事者の協力を得て、院内外のが心患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対して見かいる。 が人相談支援に関し上分な経験を有するが心患者、国体との連携協力体制の構築に構像的に取り組んでいる。 が人相談支援を対しまった。 が人相談支援を対しまった。 は、一般に表した事情のの語とや事情のフローに届か込む等、診療の経過の中で患者が必要とするときに確実に利用できるよう 繰り返し案内を行っている。 ・参照の意とで事情のフローに届からし等、影がの経過の中で患者が必要とするときに確実に利用できるよう 繰り返し案内を行っている。 ・令和5年1月1日~12月の期間に、が人相談支援センターと初めて利用した者の相談を併かな が人相談支援センターの業所の際について、相談者がよりにいる。 が人相談支援センターの業所内等について、相談者がよります。 カルイ相談支援センターの業所内等について、相談者がおりまる体がは要素を担いまる。 かん相談支援センターの業所内等について、相談者からの診療性事者が対した。 対し、経験では、と必要に応じて連かい原理の診療性を書している。 クスイドバックの内容を自然後の質の中にして認めからの患者サロン等の事を関すると連携している。 フスイドバックの財政を連携とびに強する体制を支援している。 フスイドバックの政策が必要な機に大しる。 が人相談支援とレターの教験が実施する相談を対象を表している。 第度としては、事まる研修が実施する相談を関いを関する事情を表しままました。 第度の要素を担う者の人数 を表 国際のの場に保険が実施している。 ・対したの事態が必要が実施している。 ・対したの事態が必要が実施している。 ・対したの事態が必要が実施している。 ・対したの事態を受情の実施を担うする。 ・単数できの影がよりには連携する施設での規をを担うる人 ・選供できる治療・工りの紹介を受けただでいる。 ・現代を含え物・実施している。 ・ボッグが、ハップが、ハップが、大きなを見ている。 ・現代を含え物・実施している。 ・ボッグが、ハップが、ハップが、大きなを見ている。 ・現代を含えを見ている。 ・現代を含えを見ている。 ・ボッグが、ハップが、大きなを見でいる。 ・現代を含えを見ている。 ・現代を含えを見ている。 ・現代を含えを見ている。 ・現代を含えを見ている。 ・現代を含えを見ている。 ・現代を含えを見ている。 ・現代を含えている。 ・現代を含えを見ている。 ・現代を含えている。 ・現代を含えを見ている。 ・現代を含えを見ている。 ・現代を含えを見ている。 ・現代を含えを見ている。 ・現代を含えを見ている。 ・現代を含えを見ている。 ・現代を含えを見ている。 ・現代を含えを見でないる。 ・現代を含えを見ている。 ・現代を含えを見ている。 ・現代を含えを見ている。 ・現代を含えている。 ・現代を含えを見ている。 ・現代を含えたいる。 ・現代を含えたいる。 ・現代を含えたいる。 ・現代を含えたいる。 ・現代を含えたいる。 ・現代を含えている。 ・現代を含えている。 ・現代を含えたいる。 ・現代を見ている。 ・見でいる。 ・見でいる。 ・見でいる。 ・見ではないるのはないる。 ・見でいるが、はないる。 ・見でないるが、はないないる。 ・見でないるが、はないないる			別紙13に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 ※指定された期間以前に、がん相談支援センターを利用した。 数については、計上しないようご注意ください。
5 相談文 (1) が (1) が (2) (3) (4) (2) (2) (3) (4) (3) (6) (3) (6) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	びん相談支援 (1) (2) (3) (4) (4) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた朝修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に 参加させている。 医科自計算期による口腔健康管理を推進するために、歯科医師等を対象とするが心患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の収集提供 センター が人相談支援性センターを設置し、①、②の体制を確保した上で、グルーブ指定のが心診療連携拠点病院との連携と役割分担によりⅡの5の(1) の3から別に規定する相談支援を発を行っている。 ・要に応じてオンラインでの相談を受け付けるなど、情報通信技術等も活用している。 ・五ミニケーションに配慮が必要な者や、日本語を回題話としている。事等への配慮を適切に実施できる体制を確保している。 ・項帳取得や意思速温に配慮が必要な者や、日本語を回題話としている。事等への配慮を適切に実施できる体制を確保している。 ・国立が心研究センターによるが人相談支援センター相談負研髪をだした事後のと関連をの関立関連に対しまわるをもしようつの記述している。 ・国立が心研究センターによるが人相談支援センター相談自研髪を作り、1、10~6、13)を修了している。 ・国談支援に関心もつる自然、対しての自然を使えるも1、4、3下の外のが人患者及じその家族を近い地域の住民及び医療機関等からの相談等に対のようなが、 が人相談支援に関して分な経験を有するが心患者団体との連携的力体制を関心にいる。 が人相談支援に関して分な経験を有するが心患者団体との連携的力体制の構築に構像的に取り組んでいる。 が人相談支援に関して分な経験を有するが心患者団体との連携したいる。 が人相談支援でメターについて周知するため、以下の体勢を整備している。 が人相談支援でメターについて周知するため、以下の体勢を整備している。 ・ 他が、日本の主なの自然の主な研究を使なを持ていている。 ・ 会別の見ですい場所にが人相談を関レフターに一記が込む等、診察の経過の中で患者が必要とするときに確実に利用できるよう 繰り返よ案内を行っている。 ・ 会別のと様となどいできた特別を発出していているかりでできるよう無力の場に表している。 ・ 会別の見ですい場所にが人相談支援でメターについて分かりする「場所では、が人相談支援センターを初めて利用した者の相談を接 が人相談支援センターの報談を競技が支援センターにいている。 ・ 会別の必然を生きると情報を関している。 が人相談支援センターの事務内容について、相談者が自定の他が変となどの事態を整備している。 ・ のとはたいる事務内容にいて達かい実所の診療体事者が協能する体がは存るなど、が人相談支援センターを初めて利用した者の相談支援に関連する場所が実施する相談支援に関する。 第2000日またる事がは他なる体制を整備している。 が人相談支援とレターの対験と検討なに対象が内容を表している。 ・ 本のとは、対象がの実施を担いまため、単板できるがあたりの表の条を担う者の人を			別紙13に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 ※指定された期間以前に、がん相談支援センターを利用した。 数については、計上しないようご注意ください。
5 相談文 (1) が (2) (3) (4) (2) (3) (3) 情	びん相談支援 (1) (2) (3) (4) (4) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に 整計書きる場所により口腔健康管理を推進するために、歯科医師等を対象とするがん患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の複雑機 せンター が人相談を選センターを設置し、①、②の体制を確保した上で、グループ指定のがん診療連携拠点病院との連携と役割分担によりII の5の(1) の3から3に規定する相談を提集務を行っている。 の要に応じオンラインでの情態を受け付けるほど、情報通信技術等も活用している。 の要に応じオンラインでの情態を受け付けるほど、情報通信技術等も活用している。 の要に応じオンラインでの情態を受け付けるほど、情報通信技術等も活用している。 の要に応じオンターによるが人間接支援センター間談員研修と構造しました。 地域をおから、15 にお膝具を握性が得くい。(2) をよう 3 に対象を構造している。 地域の力に対象に対象を関係するいるといる。 地域の力に対象が動態を使き者の協力を持て、院内外のが心患者及びその家族が立って、現場では、対象を使機関等からの相談等に対りに が助く相談を提している。 地域の支援に関わる者は、対点の夏の向上のために、かん相談支援センター相談長研修等により定制的な知識の要能に努かている。 地域の上いる。 地域の上いる。 地域の重したいる。 地域の直と対象を使きまするがん患者間をとの選集協力体験の情報が目標的に取り組んでいる。 ・対象に関係と対象と関係している。 がん相談支援に対力ーについて関助するため、以下の体制を整備している。 がん相談支援センターについて対かしずの家族が立って、関係がよりできるよう はいま、無内を行っている。 ・地域の資産や医療・在学・が重視を使用のコーロに研りより化すの家族が立っで、またが、 ・地域の資産や医療・在学・が最後を登画している。 ・かれの表と対している。 ・かれの表と対している。 ・かれの表と対している。 ・かれの表と対している。 ・かれの表と様とでは、は、からの際の場との事態があるの事態を使用している。 ・かれの表と様とでしている。 ・かれの表と様とでは、他能設とは情報共和している。 ・かな要は、といる。 ・かれの表と様とである。 ・かれの表と様とである。 ・かれの表と様とである。 ・かれの表と様とである。 ・地域の影をも数の相談を対象である。 ・地域の対象と様とである。 ・他能設とは情報分析とである。 ・かれの表と様と変している。 ・他能設とは情報分析とできるよう、病院長もになそれに単しる者が結括するなど、がん相談 支援センターの要素内容について、相談者からフィードバッグを得るを整理上でいる。 ・他能設とは情報分析とできるが がん相談を提出している。 ・地域の影をも数といるの表とが観めまるを対象とである。 ・がんのの影をと様とでも、かんがあるの解決を関係を関係を関係を対している。 ・事なの影を対している。 ・事なの影をを対している。 ・単なの影をを対している。 ・地域の影をもある。 ・地域の影をもある。 ・地域の影をもある。 ・地域の影をもある。 ・地域の影をもある。 ・地域の影をもある。 ・地域の影をもある。 ・地域の影をもある。 ・地域の影をもある。 ・地域の影をもある。 ・地域の影をもある。 ・地域の影をもある。 ・地域の影をもある。 ・地域の影をもある。 ・地域の影をもある。 ・地域の影をもある。 ・地域の影をもある。 ・地域のがある。 ・地域の影をもある。 ・地域のの影をもある。 ・は、 ・は、 ・は、 ・は、 ・は、 ・は、 ・は、 ・は、			別紙13に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 ※指定された期間以前に、がん相談支援センターを利用した。 数については、計上しないようご注意ください。
5 相談文 (1) が (2) (3) (4) (2) 院(3) (3) 情	がん相談支援 (1) (2) (3) (4) (4) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に 製剤書き返標している。 医科書料達順による口腔健康管理を推進するために、歯科医師等を対象とするが心患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の複雑機 せンター が心相談支援センターを設置し、①、定の体制を確保した上で、グループ指定のが心診療連携拠点病院との連携と役割分担によりIIの5の(1) の多に思してナンテインでの態度を受け付けるとは、情報通信技術等も活用している。 の要に思してオンテインでの態度を受け付けるとは、情報を開催している。 の要に思してオンテインでの態度を受け付けるとは、情報を開催している。 コミューケーンよいに開始を受象を含く、日本語を時間部としていな、事等への配置を通知に実施できる体制を確保している。 国立が心理でセンターによるが心の態度を受け付けるとは、情報を開催している。 日本語を表したのできるが人に関立を関するといる。 対象の方法、日本に報題言基理が得け、(1) たと、もう、43 とは基理性があるとは多いの態を受を他に対するマニュアルを作成している。 地域をつかま、15 にが認度を関係的では、(2) たき、43 とは基理性がよっなしたが記憶を受けるを含まるを含まるを含まるでいる。 地域の方法を可じたのできるがある。 おかい相談支援に関わる者は、対心の質の自したために、かん相談支援センター相談員研修等により定制的な態度を機関等からの相談等に対応する体制 超数支援に関わる者は、対心の質の自したために、かん相談支援でより。 おかい相談支援をとクターについて開始するため、以下の体制を登機している。 分が、相談支援に関しターにの必然を必要ながでの家族が分ででしまからい。 対象の技能や医療・在を、小は養を必要などの家族が分ででしまからい。 分が、自然支援に関いる。 会和の音が表現の一に対いまからの関係を認定といる。 会和の音が表現しまない。 会和の音が表現しまない。 会和の音が表現している。 会和の音が表現しまない。 会和の音が表現しまない。 会和の音が表現しまない。 会和をは、原としていないもからの制能と対象とでいる。 会和をは、自然を提出している。 会が必要なである。 のが、相談支援にセターの表所等について、相談者からフィードバックを得る体験を整備している。 のが、自然支援と関するの様を受けている。 会がの経り返りを要なるが、に関める節を発展している。 のが、相談支援に対しるの変形が記者のの意を相談といる。 のが、自然支援と関係ののを発の表がに着かの診療を表している。 のが、もの理なが、対しておいまが、は、まないのであるが認定を機能し、他施設と信頼技術をしている。 のが、もの報と対していないものの関係を受けている。 をおりまとしていないものの関係を対しているを特に対している。 をおりまとしたが、まなの解析が必要なを表している。 のが、ものないに関する研修を受けている。 のが、ものないに関する研修を受けている。 のの影を受けている。 ののがを受けている。 ののがを受けている。 ののがを受けている。 ののがを受けている。 ののがを受けている。 ののがを受けている。 ののがを受けている。 を必要なが、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は			別紙13に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 ※指定された期間以前に、がん相談支援センターを利用した。 数については、計上しないようご注意ください。
5 相談文 (1) が (2) で (3) (4) (2) 院 (2) 院 (3) 情	びん相談支援 (1) (2) (3) (4) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に 参加させている。 医利益申は選問による口腔健康管理を推進するために、歯科医師等を対象とするが人患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。 の収集機構 センター プルーのに思する相談を対象を終すしている。 の次ま提供 サンター プルーのに思する相談を対象を終すでした。 の変まが、のからに思する相談を対象を終すしている。 の変まが、のからに思する相談を対象を終すしている。 フェニンケーションに配慮が必要な者や、日本語を母間論としていない表等への心理を適切に実施できる体制を確保している。 コミュニケーションに配慮が必要な者や、日本語を母間論としていない表等への心理を適切に実施できる体制を確保している。 コミュニケーションに配慮が必要な者や、日本語を母間論としていない表等への心理を適切に実施できる体制を確保している。 国立が心研究センターによるが人相談支援センター相談員研修を修了した事徒及び事任の相談支援に関わる者と力が「るマニコアルを作成している。 動談者のうち、18とは指数員基礎研修り、(2)を、きる19 1名は基礎研修(1)から(3)を持てしている。 相談支援に関わる者は、対応の質の向上のために、が人相談支援センター相談員研修等により実際的な知識の更新に努めている。 多を優している。 相談支援に関したがなの報の向上のために、が人相談支援センター相談自の特殊により場所の位別を支援で関からの相談等に対なする体制 が加速支援と対している。 が人権制変技化ンターに対いて、可能のできるを参考を関している。 が人権制変技化ンターに対いて、自転を対している。 が人相談支援センターを訪からの相談にも対している。 参称の年年1月1日~12月3日の制制にもが成がまできるよう 競別の見をすい場所にかん相談支援の関係機関に入いる。 が人相談支援センターを影かではからの中間側にも対応している。 今和6年4月1日~12月3日の制制によるが成からできるようを表がまるが、ままが表が表がまっまが表がまするが表がまする相談を検 が人相談支援センターの変異内容について、相談者ののとのたかに活用するとともに、動意育場は関係をで関係を、他が設とは情報分析による。 対域の住民を影像を推定されている。 かんが人相談支援でンターの変異内容について、相談者ののとのたかに活用するとともに、動意育場とは高さで優に、他能設とは情報分析している。 フィードンターのの診察性事者が信息する体制を登場している。 フィードンターの対談とは対して、まなののからを検集者にないる。 最からの相談を使用でなるを対している。 フィードンターの対談を使用を表がしまますが必要がままままままままままままままままままままままままままままままままま			別紙14に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 ※指定された期間以前に、がん相談支援センターを利用した4 数については、計上しないようご注意ください。
5 相談文 (1) が (2) (3) (4) (2) (2) (3) (4) (3) (4) (3) (4) (4) (5) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	がん相談支援 (1) (2) (3) (4) (4) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に 参加させている。 医科音性温度による口管健康管理を推進するために、最利医師等を対象とするが人患者の口管健康管理等の研修の実施に協力している。 の認義機構 でかった。 の必要とは ののでは、自然である。 ののでは、自然である。 ののでは、自然である。 ののでは、自然では、自然である。 ののでは、自然でする情報を対象を持ちている。 のでは、自然でする情報を対象を持ちている。 のでは、自然でする情報を対象である。 のでは、自然でする情報を対象である。 のでは、自然でする情報を対象である。 を表現にしている。 日本のとのでは、自然である。 ・ は、自然である。 ・ は、このにいる。 ・ は、このにいている。 ・ は、このにいて、この			別紙13に詳細を記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 ※指定された期間以前に、がん相談支援センターを利用したす 数については、計上しないようご注意ください。 別紙16に詳細を記載してください。 別紙16に詳細を記載してください。 別級認定者または中級認定者の1人以上配置が必要です。
5 相談文 (1) が (2) 2 (3) 信 (2) 2 (3) 信 (3) 信 (4) (5) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	がん相談支援 (1) (2) (3) (4) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的に実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に 参加させている。 医科育性温度による口管健康管理を推進するために、銀利医師等を対象とするが心患者の口管健康管理等の研修の実施に協力している。 の認義機構 せいター がいるのは大きない。 がいるのは大きないる。 の認識機構 というの。 がいるのは大きないる。 の記事経験によっている。 の記事経験によっている。 の記事経験によっている。 の記事経験によっている。 の記事経験によっている。 の記事経験によっている。 の記事経験によっている。 を表している。 相談を対象に関いるをは、は、対象の質の自動としている。 相談を対象に関いて対象には関数と関係では、(別では、)のより、(計画を登場では、)のより、(対域では、)のより、(対域では、)のより、(対域では、)のより、(対域では、)のより、(対域では、)のより、(対域では、)のより、(対域では、)のより、(対域では、)のより、(対域では、)のより、(対域では、)のより、(対域では、)のより、(対域では、)のより、(対域では、)のより、(対域では、)のより、(対域では、)のより、(対域では、)のより、(対域では、)のより、(対域では、)のは、(対域では、)のは、(対域では、)のは、(対域では、)のは、(対域では、)のは、(対域では、)のより、(対域では、)のより、(対域では、)のより、(対域では、)のは、)のは、(対域では、)のは、(対域では、)のは、)のは、(対域では、)のは、(対域では、)のは、)のは、(対域では、)のは、)のは、(対域では、)のは、)のは、(対域では、)のは、)のは、(対域では、)のは、)のは、(対域では、)のは、)のは、(対域では、)のは、)のは、(対域では、)のは、)のは、(対域では、)のは、)のは、(対域では、)のは、)のは、(対域では、)のは、)のは、)のは、)のは、(対域では、)のは、)のは、)のは、)のは、)のは、)のは、)のは、)のは、)のは、)の			別紙14に詳細を記載してください。 別紙14に詳細を記載してください。 別紙13に具体的な取り組みを記載してください。 ※指定された期間以前に、がん相談支援センターを利用した4 数については、計上しないようご注意ください。 別紙16に詳細を記載してください。 別紙16に詳細を記載してください。 別紙16に詳細を記載してください。 ・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

11 指	針の領	適所	要件	要件区分	令和6年9月1 日時点の状況	備考欄
592		(1)	政策的公衆衛生的に必要性の高い調査研究に協力に努めている。	-		
593			これらの研究の協力依頼に対応する窓口の連絡先を国立がん研究センターに登録する。	-		別紙18に詳細を記載してください。別紙18へ記載して現況報告書を 厚生労働省に提出することをもって、本要件は充足したとしてくださ い。
594		(2)	治験を含む医薬品等の臨床研究を行う場合は、臨床研究コーディネーター(CRC)を配置すること。			
594 595			治験を含む医薬品等の臨床研究を行っている。	-		
596 597 598 599 600 601			臨床研究コーディネーターを配置している。	-		
597			臨床研究コーディネーターとして勤務している者の人数			
598			治験を除く医薬品等の臨床研究を行う場合は、臨床研究法に則った体制を整備している。			
599			治験を除く医薬品等の臨床研究を行っている。	-		
600			臨床研究法に則った体制を整備している。			
601			実施内容の広報等に努めている。			
602	7	医療の質の改善の				
603		(1)	自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者の療養生活の質について把握・評価し、課題認識を院内の 関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じている。	-		
604 605			その際にはQuality Indicatorを利用するなどして、PDCAサイクルが確保できるよう工夫をしている。	-		
605		(2)	医療法等に基づく医療安全にかかる適切な体制を確保している。	-		別紙20に詳細を記載してください。
606		(3)	日本医療機能評価機構の審査等の第三者による評価を受けている。	-		別紙20に詳細を記載してください。 日本医療機能評価機構に加え、JCI、ISO9001の認定も該当する。
607			第三者の名称	-		
608			直近で評価を受けたタイミング(YYYY/MM、例: 202309)	-		

11/46

様式4(機能別)の該当指定要件のAのうち満たしていない項目について

記載の有無:入力済/未入力あり/不要 不要

病院名: 青森県立中央病院 時期・期間: 令和6年9月1日時点

等期・期間
※様式4(機能別)の該当指定要件のAのうち満たしていない項目について、満たしていない項目とその理由と今後の見適し等について具体的に記載してください。
※適し番号については、株式4(機能別)シートのA列(左側)の番号を記入してください。
※令和6年9月2日以降に、要件の充足状況に支勤があった場合には、別途、都道府県を造じて文書で厚生労働合健康・生活衛生局がA・疾病対策課へ届け出てください。
※右日について、最初は「不要」と表示されます。株式4(機能別)を入り後に、上部にある「株式4(機能別)シートの入力後、クリックしてください。」ボタンを押下ください。未充足要件が抽出されます。

	通し番号	令和6年9月1日時点で満たせていない要件 (通し番号を入力すれば、自動入力されます。)	現状の説明	充足見込み時期		
例	120	専任の放射線診断に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数	令和6年9月1日時点では専任の医師は配置できていない(兼任で配置している)。	令和7年3月1日段階での整備を行う予定である。		
例	176	放射線治療のベ患者数 (基準:年間200人以上、期間:令和5年1月1日~12月31日)	令和5年〇月〇日~令和5年〇月〇日までの期間、放射線治療機器の入れ替えを行ったため同期 間の治療ができなかった。令和5年〇月〇日以降は通常通りの治療を行っている。また、直近1年間 の治療実績は〇件であった。	令和6年は基準の治療数を達成できる見込み。		
例	278	治験を除く医薬品等の臨床研究を行っている。	日本医療機能評価機構の審査等の第三者による評価を受けていない。	令和7年1月に日本医療機能評価機構の第二者評価を受審予定である。		
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						

24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
31		
32		
33		
34		
35		
36		
37		
38		
39		
40		

専門とするがんの診療状況

記載の有無:入力済/未入力あり

入力済

病院名: 青森県立中央病院

時期・期間: 令和5年1月1日~12月31日

- 時期・期間:令和5年1月1日~12月31日

 最が国に多いがんと、希少がんを含むそれ以外のがんの各がん種において、
 ■診断および初発例に対する各治療、再発例への治療について自施設の専門レベルを専門:②、対応可:○、他施設へ紹介:△で記入してください。
 ・専門(③): 当該がんを特に専門とする医師がおり、周囲の施設から患者を積極的に集めている
 ・対応可(○): (積極的に患者を集めるわけではないが)受診された患者は自施設で標準的な対応(診断・治療)が可能である
 ・他施設へ紹介(△): 他の施設に紹介することで対応している
 ・適診断あるいはいずれかの治療について、「専門④〕あるいは「対応可○」と記載した場合は、2022年、2023年の治療開始数(院内がん登録の、症例区分20, 21, 30)を、国立がん研究センターにおいて計算し提供しますので記入不要です。その際には、より詳細な区分で集計します。
 ■備考には、手術・放射線・薬物療法以外で行っている治療や特に当該がん種に関する窓口などがあれば、記載して下さい。
 ■随床試験の実績の有無」については、過去5年間の臨床試験の参加実績の有無についてご記入ださい(有・無)。
 特に明記されていないところでは、各臓器でリンパ腫を除く各部位のがんについてお答えください。
 ■通常初回治療として行われない治療については、記入不要です(グレー背景)。それ以外は全てご回答ください。

- - 注1 専門(◎):当該がんを特に専門とする医師がおり、周囲の施設から患者を積極的に集めている 対応可(〇):(積極的に患者を集めるわけではないが)受診された患者は自施設で標準的な対応(診断・治療)が可能である 他施設へ紹介(△):他の施設に紹介することで対応している

注2 臨床試験=治験であれば I ~Ⅲ相いずれでもよい。

	注2 臨床試験=治験であれは I ~皿相いすれでもよい。 ↓ 記載必須				↓どれかに専門/対応可としたときは公開				1	
			可〇/他施設)		治療	開始数		備考
成人(15歳以上)	診断 (生検等)	手術	初発例への治療 放射線	薬物療法	再発例 への治療	臨床試験(注 2)の実績の有 無	2022年	2023年	担当診療科 (複数記載可)	公開の窓口・特記事項など
脳腫瘍(リンパ腫以外)	0	0	0	0	0	無	(良悪性を別に	集計表示)	脳神経外科	
脳腫瘍(リンパ腫)	0		0	0	0	無			脳神経外科	
<u>脊髄腫瘍</u> 眼腫瘍(眼瞼以外)	Δ	Δ	0	Δ	Δ	無無			整形外科 眼科	
									取付 耳鼻咽喉科頭頸部外	
鼻腔・副鼻腔がん	0	0	0	0	0	無			科 耳鼻咽喉科頭頸部外	
口腔がん	0	0	0	0	0	無			科	口腔外科 10例
咽頭がん(上・中・下)	0	0	0	0	0	無	(上・中・下咽頭	を別に集計表示	耳鼻咽喉科頭頸部外 科	
喉頭がん	0	0	0	0	0	無			耳鼻咽喉科頭頸部外 科	
唾液腺がん	0	0	0	0	0	無			耳鼻咽喉科頭頸部外 科	
外耳道がん	0	0	0	0	0	無			耳鼻咽喉科頭頸部外 科	
頭頚部肉腫	0	0	0	0	0	無			耳鼻咽喉科頭頸部外 科	
甲状腺がん	0	0	0	0	0	無			耳鼻咽喉科頭頸部外 科	
乳がん	0	0	0	0	0	有			件 乳腺外科	
気管がん	0	0	0	0	0	無			呼吸器外科	
非小細胞肺がん 小細胞肺がん		© ©	<u> </u>		<u> </u>	無無			呼吸器外科	
が一般にある。 一般になった。	0	0	0	0	0	無			<u>呼吸器外科</u> 呼吸器外科	
胸腺腫	0	0	0	0	0	無			呼吸器外科	
縦隔胚細胞腫瘍	0	0		0	0	無			呼吸器外科	
縦隔腫瘍(上記以外の腫瘍) 中皮腫(胸膜)	0	<u></u>	0	0	<u> </u>	無無			<u>呼吸器外科</u> 呼吸器外科	
中皮腫(腹膜)	0	Δ	0	0	0	無			呼吸器外科	
食道がん	0	0	0	0	0	無			消化器内科、外科	
<u>胃がん</u> 小腸がん	<u> </u>	0			<u> </u>	無無			消化器内科、外科 消化器内科、外科	
大腸がん(結腸・直腸)	0	0	0	0	0	無			消化器内科、外科 消化器内科、外科	
肛門・肛門管がん	0	0	0	0	0	無			消化器内科、外科	
消化管間質性腫瘍(GIST)	0	0		0	0	無	/NET NEO(+DI		消化器内科、外科	
消化管の神経内分泌腫瘍(NET/NEC) 肝臓がん	0	© ©	0	<u> </u>	<u> </u>	無無	(NET,NECは別	-集計表示/	消化器内科、外科 消化器内科、外科	
胆のう・胆管がん	0	0	0	0	00	無	(肝内、肝外を)	別に集計表示)	消化器内科、外科	
膵臓がん(NET/NEC以外)	0	0	0	0	0	無	(1)== 1)= 0 (Dil	#=! + = \	消化器内科、外科	
<u>膵臓の神経内分泌腫瘍(NET/NEC)</u> 腹膜偽粘液腫(他のがんの腹膜播種を除く)	0	 Δ	0	<u> </u>	<u> </u>	無無	(NET,NECは別	に集計表示)	消化器内科、外科 腫瘍内科	
デスモイド腫瘍	0	0	0	<u></u>	<u></u>	無			腫瘍内科	
後腹膜肉腫	0	0	0	0	0	無			泌尿器科、整形外	
腎がん	0	0		0	0	無			科、腫瘍内科 泌尿器科	
									泌尿器科、内分泌内	
褐色細胞腫・傍神経節腫瘍(頭頸部以外)	0	0	0	0	0	無			科、外科	
<u>副腎皮質がん</u> 腎盂尿管がん・膀胱がん	0	0	0	<u> </u>	<u> </u>	無無	(賢士・尿管・辟	胱は別に集計表	泌尿器科、内分泌内 泌尿器科	
精巣腫瘍	0	0	0	0	0	無			泌尿器科	
前立腺がん	0	0	0	0	0	無			泌尿器科	
子宮頸がん(上皮性) 子宮体がん(上皮性)(子宮がん肉腫を含む)	00	00	00	00	0	無無			<u>産婦人科</u> 産婦人科	
子宮肉腫	0	0	0	0	0	無			<u> 産婦人科</u> 産婦人科	<u> </u>
卵巣がん、卵管がん、腹膜がん(上皮性)	0	0		0	0	無			産婦人科	
卵巣悪性胚細胞腫瘍	0	<u> </u>	0	O		無無			産婦人科 帝婦人科	
外陰がん 四肢・表在体幹の悪性軟部腫瘍	0	Δ	0	0	0	無無			<u>産婦人科</u> 整形外科	
四肢の悪性骨腫瘍	0	Δ	0	0	0	無			整形外科	
脊椎・骨盤の悪性骨腫瘍 中毒の悪性思色腫	0	0	0	0	0	無			皮膚科	
皮膚の悪性黒色腫 皮膚がん(悪性黒色腫以外)		0	<u> </u>			無無			皮膚科 皮膚科	
悪性リンパ腫	0		0	0	0	無			血液内科	
急性白血病(骨髄性、リンパ性)	0		0	0	0	無			血液内科	
慢性白血病(骨髄性、リンパ性) 多発性骨髄腫	0		<u> </u>		<u> </u>	無無			<u>血液内科</u> 血液内科	
タ先任月脚腫 原発不明がん	0	0	0	0	0	無			<u> </u>	
			応可〇/他施				治療	開始数		備考
小児(15歳未満)	診断 (生検等)	手術	放射線	薬物療法	再発例 への治療	臨床試験の 実績の有無	2022年	2023年	担当診療科 (複数記載可)	公開の窓口・特記事項など
小児脳腫瘍	Δ	Δ	0	Δ	Δ	無				
小児眼腫瘍	Δ	Δ	00	Δ	Δ	無				
小児悪性骨軟部腫瘍 小児造血器腫瘍	Δ	Δ	00	Δ	Δ	無無				
小児固形腫瘍(脳·目·骨軟部以外)	Δ	Δ	ŏ	Δ	Δ	無				

我が国に多いがんに対して、自施設で対応しない診療内容

記載の有無:入力済/未入力あり 入力済

病院名: 青森県立中央病院 時期・期間: 令和6年9月1日時点

我が国に多いがんに対して、下の表に状況を記載してください。

我が国に多いがん	自施設で対応している記 自施設で対応しない診察	疹療内容について"○"を 療内容について"×"をλ	、 、カしてください。	自施設で対応していない診療内容についての連携先		
	手術療法 薬物療法		放射線療法	(施設名・診療内容)		
(例)膵臓がん	×	0	×	手術を要する膵臓がん患者は、連携する××病院に紹介している。 手術後の薬物療法については、自施設で対応している。		
大腸がん	0	0	0			
肺がん	0	0	0			
胃がん	0	0	0			
乳がん	0	0	0			
前立腺がん	0	0	0			
肝がん	0	0	0			
胆のう・胆管がん	0	0	0			
膵臓がん	0	0	0			

カンファレンスについて

記載の有無:入力済/未入力あり

入力済

病院名: 青森県立中央病院

時期・期間: 令和6年9月1日時点

※この別紙は任意記載です。整備指針 II の2の(1)の①のウ及びVIの2の(1)の①のオに定めるカンファレンスのうち、iv について記載してください。 なお、記載がない場合は、「記載なし」と記入してください。

iv のカンファレンスについて、検討している症例・テーマ・参加する職種等について自由記載してください。 定期的な開催が現状難しい場合には、その理由を記載してください。 高齢者の退防困難事例や血波がん患者の治療中の支援について、医師・看護師(病棟・外来・地域連携担当)・薬剤師・理学療法士・管理栄養士が 参加してカンファレンスを行っている。

緩和ケア外来の状況

記載の有無:入力済/未入力あり 入力済

病院名: 青森県立中央病院 時期・期間: 令和6年9月1日時点

1	緩和ケア外来が設定されている(はい/いい	え)					はい		
2	2 緩和ケア外来の名称 緩和医療科外来								
3	担当診療科名		緩和医療科						
4	緩和ケア外来の頻度(〇回/週)		3回/週						
5	主な診療内容・特色・アピールポイント		緩和ケアチーム(多職種から)のチームアプローチによる身体症状の絹	爰和					
	がなれてノブノドス・ショル・ジョン・ディー・ロー・	見出し	緩和医療科						
6	ジの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピー してください	https://aomori-kenbyo.jp/departments/palliative-care/palliativu-med	//aomori-kenbyo.jp/departments/palliative-care/palliativu-medicine/						
7	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている(はい/いいえ) はい					はい			
	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている(はい/いいえ) はい					はい			
8	窓口の名称		がん相談支援センター						
	電話番号		017–726–8435						
	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が記	設定さ	れている (はい/いいえ)				はい		
9	窓口の名称		医療連携部 外来予約グループ						
9	電話番号		017-726-8377 (内線)						
	祝祭日、年末年始以外の休み(創立記念日など)		なし						
			以下については、 <u>自施設でがん診療を受けている患者</u> について	記載してくた	ざさい。				
			緩和ケア外来患者の年間新規診療患者数		55	人			
10	緩和ケア外来の状況		緩和ケア外来患者の年間受診患者のべ数	109	6 人				
.5	期間:令和5年1月1日~12月31日		以下については、 <u>緩和ケア外来受診まで自施設でがん診療を受</u>	いて	記載してください。				
			地域の医療機関からの年間新規紹介患者数		0	人			
			地域の医療機関からの年間受診患者のべ数	0	人				

17/46 別紙5緩和外来

緩和ケア病棟の状況

記載の有無:入力済/未入力あり 入力済

	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
病院名:	青森県立中央病院	
時期•期間:	令和6年9月1日時点	

※緩和ケア病棟が設定されている場合に限り、「2」以降を記載してください

	巡れ トマーキャナー	l アハフ		-	11+1	ц./	•			
	緩和ケア病棟を有 緩和ケア病棟入院	-		病棟があ	りまて	e r	υ			
	機和グア病棟へ院 緩和ケア病棟の形									
				t t						
	緩和ケア病棟の病			床 + z + z o i	TT 1/-	往	松 廿0 88			_
-		院した患者の申し込む					筬朔间			日
-		間新入院患者数(令								人 ·
		間死亡患者数(令和		~12月31日	1)					人
	緩和ケア病棟の説るページの見出し		見出し							
6	※アドレスは 手入力せ	けずにホームページからコ	アドレス							
	ピーしてください。	, yien, A , 7% 54								
		(例) 医師			2		(例) 精神的	保健福祉士	1	ı
	緩和ケア病棟を担									
	当するスタッフの職種・人数(人)									
7	※常勤・非常勤、専 従・専任・兼任などに									
	関わらず、緩和ケア病 棟の診療に携わって									
	いるスタッフについて 記載してください。									
	山東して 、									
					Ш	Ц				
-		やご家族向けの問い	合わせ窓口	が設定され	てし	る	(はい/いい	え)		
	_	の名称						(()		
8		括番号	E da	(内線)						
	問い合わせ窓口につ ムページ	いて掲載しているホー	見出し							
			アドレス							
	■地域の医療機関	向けの問い合わせ窓	窓口が設定さ	れている	(はし	1/	(いいえ)			
-	空口,	の名称								
9		5番号						(内線)		
-		いて掲載しているホー	見出し					(1. 1498)		
	ムページ	ん、て物戦している小一	アドレス							
		例・家佐田土ッチン 宏		ミランドロー	. = -	ر ال ا		 i会者との談話、ボランティ	アニトス	ティー#ー
	緩和ケア病棟の	ビスがある)、特殊入浴		ミ、ノントリー	. , ,	1 / 1	/一厶(及事で回	1去省との談話、) 1-2-a	171-9-
10	設備									
例:自施設で実施している、同一医療法人の施設で実施している、連携している訪問看護ケア							# / — —			
	訪問看護ケアの	例:自施設で実施し ⁻ を紹介している、なと		医療法人() 施	ジ	じ実施している)、埋携している訪問看記	隻ケアス	、ナーション
	有無									

地域緩和ケア連携体制

記載の有無:入力済/未入力あり 入力済 病院名: 青森県立中央病院 時点: 令和6年9月1日時点 【緩和ケアに関する地域連携を推進するために、地域の施設が開催する多職種連携カンファレンスに参加した年間回数】 令和5年1月1日~12月31日 自施設が主催したもの(※共催を含む) 49 回 地域内の他施設が主催したもの 注1) 多職種連携カンファレンスとは「地域全体の医療を推進するため地域医療を支える多施設かつ多職種の連携強化と顔の見える関係づくりを目的として、緩和ケアに関わる多職種の医療・介護従事者等が一堂に会する場」とする。 注2) 患者の退院支援カンファレンス等、患者個人の情報共有のために開催したカンファレンスは含まない。 【緊急緩和ケア病棟について(都道府県がん診療連携拠点病院のみ)】 緊急緩和ケア病床数 床 2 緊急緩和ケア病床の入院患者数(令和5年1月1日~12月31日) 0 【がんの難治性疼痛に対する神経ブロックについて】 ・がんの難治性疼痛に対する神経ブロックについて、自施設で実施している。 はい ・がんの難治性疼痛に対する神経ブロックの提供実施延べ人数(令和5年1月1日~12) 0 【自施設で実施できない場合には、連携している医療機関名等、がんの難治性疼痛に対する神経ブロックの提供における連携協力体制を記入】

緩和ケアチームのメンバーと活動

記載の有無:入力済/未入力あり

入力済

病院名: 青森県立中央病院

期間: 令和6年9月1日時点

緩和ケアチームのメンバーについて記載してください。

注/ 吊動Cは、原則Cし (内院で足の)に動物時间の主しを動物する白をいり。内院で足の)に医師の 1 週间の動物時间か、32時间不満の場合は、

20時間以上勤務 アハス老を受動と その他は非受動とする

医師以外の診療従事者について(複数の資格を有する者は、主たる業務に係る職種についてのみ記載)

	職種	常勤 /非常勤	専門資格(取得している場合)
例	管理栄養士	常勤	がん病態栄養専門管理栄養士
1	看護師	常勤	がん看護専門看護師
2	看護師	常勤	がん性疼痛看護認定看護師
3	看護師	常勤	
4	看護師	常勤	
5	看護師	常勤	
6	薬剤師	常勤	緩和薬物療法認定薬剤師
7	薬剤師	常勤	緩和薬物療法認定薬剤師
8	薬剤師	常勤	
9	公認心理師	常勤	
10	理学療法士	常勤	
11	管理栄養士	常勤	
12	歯科衛生士	常勤	
13	社会福祉士	常勤	
14	社会福祉士	常勤	
15			
16			
17			
18			
19			
20			

緩和ケアチームの活動頻度について記載してください。(〇回/週(もしくは月、年)となるように入力してください。)

病棟ラウンドの頻度	5	回/週
カンファレンスの頻度	1	回/週

緩和ケアチームの活動内容について記載してください。

定期的な病棟ラウンド及びカンファレンスによる、依頼を受けていないがん患者も含めた苦痛の把握、適切な症状緩和に関する助言や指導等の方法や内容を記載してください。

痛みのスクリーニングシートで抽出された「痛みで困っている患者」のカルテ診を行ない必要な患者ヘラウンドしている。

緩和ケアチームの看護師による、苦痛の把握の支援や専門的緩和ケアの提供に関する調整等、外来・病棟における看護業務の支援・強 化の内容について記載してください。(記載例:看護師を含む院内の全スタッフに対する苦痛の把握や専門的緩和ケアに関する研修会を 実施。病棟ラウンド時に各病棟の看護師に対し、苦痛の把握について指導。)

リンクナースを対象とした連絡会を1回/月開催し、現場で困っていることや緩和ケアセンターとして身につけて欲しいスキルの研修会を開催

患者及び家族が利用可能なインターネット環境

記載の有無:入力済/未入力あり 入力済

病院名: 青森県立中央病院

時期・期間: 令和6年9月1日時点

1	入院患者とその家族が病室で利用できるインターネット環境がある。	はい	(はい/いいえ)					
'	(上記が"はい"の場合に回答してください)上記は無料で利用できる。	はい	(はい/いいえ)					
	(1が"はい"の場合に回答してください)インターネット環境が医療機器等に干渉しないよう、各種のガイドラインを参照している。	はい	(はい/いいえ)					
	2が"はい"の場合に、参考としたガイドライン名を以下の欄に記入し	てください。						
2	医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第6版							

がん患者の特性に応じた支援

記載の有無:入力済/未入力あり

入力済

病院名: 青森県立中央病院

時期・期間: 令和6年9月1日時点

自施設でAYA世代のがん患者の支援を行っている はい (はい/いいえ) 「はい」の場合は、自施設で行うことができる支援の内容を記載してください。 AYA世代のがん患者の就労支援として月に●回の頻度で社労士の訪問を受けている。 ・ハローワークの出張相談週1回行う体制を整えている。 ・両立支援コーディネーターが両立支援を行っている。 ·AYA世代がん患者全員に、がん相談員が担当者カードを渡し介入している。 アピアランスに関する相談は主にがん相談支援センターと乳腺看護外来で対応している 自施設でAYA世代のがん患者に関する支援が行えない場合は、患者を紹介する等、AYA世代の支援で連携する施設名を記載してください。 妊孕性の詳細な採取方法等の説明と実施は、弘前大学医学部附属病院、Fクリニックに連携している。 多職種からなるAYA支援チームを設置している。 いいえ (はい/いいえ) 「はい」の場合は、AYA支援チーム構成員の職種を記載してください。 2 はい (はい/いいえ) 自施設で、がん・生殖医療に関する意思決定支援を行うことができる診療従事者の育成・配置を行 「はい」の場合は、意思決定支援を行うことができる診療従事者の育成に関する取組状況を記載してください。 ・専従のがん相談員はAYA世代がんサポート研修会を受講し妊孕性温存や意思決定支援について学び、妊孕性温存の意思決定支援を行っている。 がん患者の妊孕性の温存に関する支援について、自施設もしくは連携施設への紹介で実施している場合に内容を記載してください。 ・主治医から、がん治療の必要性と妊孕性温存の可否について説明している。 ・がん相談支援センターで妊孕性に関する意思決定支援妊孕性温存に関する助成制度の情報提供、助成金申請のサポートを行っている。 がん患者の就学に関する支援について自施設もしくは連携施設への紹介で実施している場合に内容を記載してください。 小児がん治療は行っていないが、高校生以上の就学支援については数例行っている。復学時期の相談やアピアランスケアを実施している。 5 がん患者の就業に関する支援について自施設もしくは連携施設への紹介で実施している場合に内容を記載してください。 ・全てのがん相談員が両立支援コーディネーターの資格を取得し、仕事と治療の両立支援を行っている。 6 ・必要に応じて産業保険総合支援センターと連携し支援を行っている。 就職や失業に関する相談は、必要に応じてハローワークの就労ナビゲーターの出張相談を院内で開催し支援している。 がん患者のアピアランスケアに関する支援について自施設もしくは連携施設への紹介で実施している場合に内容を記載してください。 ・がん患者のアピアランスケアは国立がんセンターのアピランス研修を修了したがん相談員が対応している。・脱毛、術後の外見変化、皮膚障害について主に相談対応している。皮膚科受診等が必要な場合は、診療科と連携している。 ・乳がん患者の術後の下着やパット、再建術については主に乳がん看護外来で支援を行っている。 高齢のがん患者に関して、高齢者機能評価の実施状況や、評価を行う体制、人員の状況などについて記載してください。なお、ツールや尺度等を用いて高齢者 機能評価を実施している場合は、そのツール等も記載してください。 高齢のがん患者に関して、高齢者機能評価の実施状況や、評価を行う体制はなし。 入院時、全ての患者に対して高齢者機能評価は「認知症高齢者日常生活自立度判定」にて実施している。

相談支援センターの相談件数と相談支援内容

記載の有無:入力済/未入力あり

入力済

病院名: 青森県立中央病院

期間:令和5年1月1日~12月31日

※「自施設の患者・家族」とは、貴院で診療を受けている患者・家族、および以前に貴院で診療を受けた患者・家族のことをさしています。 「他施設の患者・家族」とは、貴院以外の医療機関で診療を受けている患者・家族、および以前に貴院以外の医療機関で診療を受けていた患者・家族のことをさしています。なお、自施設と他施設のいずれでも診療を受けている患者・家族については、「自施設の患者・家族」に含めてください。 ※本設問は相談支援センターでの相談件数及び体制についてお伺いしております。

●年間ののべ相談件数

2185

1. 相談件数(新規相談件数に限る)

	相談者	計
1	自施設の患者・家族	1204
2	1以外の患者・家族・地域住民等	53
3	他の医療機関等の職員	12
	合計	1,269

- ●年間ののべ相談件数の内容についてそれぞれ相談件数を記載してください。・項目の番号については、厚生労働省研究費補助金「がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究班」が作成した「相談記入シート」を参考にして がます。 ・1回の相談で複数の内容について相談された場合は、それぞれの項目に計上して構いません。なお、詳細なカウントの方法については「相談記入シート」をご参照ください。
- https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/support/registration_sheet.html

相談内容	件数	相談内容	件数
01.がんの治療	235	15.食事・服薬・入浴・運動・外出など	150
02.がんの検査	52	16.介護·看護·養育	64
03.症状·副作用·後遺症	445	17-1.社会生活(仕事·就労)	130
03-01. 03のうち妊孕性・生殖機能	13	17-2.社会生活(学業)	1
03-02. 03のうちアピアランス	249	18.医療費·生活費·社会保障制度	912
03-03. 03のうち晩期合併症	1	19.補完•代替医療	6
03-04. 03のうち長期フォローアップ	0	20.生きがい・価値観	53
04.セカンドオピニオン(一般)	61	21.不安·精神的苦痛	281
05.セカンドオピニオン(受け入れ)	2	22.告知	3
06.セカンドオピニオン(他へ紹介)	79	23.医療者との関係・コミュニケーション	62
07.治療実績	2	24.患者-家族間の関係・コミュニケーション	83
08.臨床試験・先進医療	14	25.友人・知人・職場との関係・コミュニケーション	20
09.受診方法	202	26.患者会・家族会(ピア情報)	9
10.転院	387	88.不明	0
11.医療機関の紹介	210	99.その他(下段に自由記載してください)	135
12.がん予防・検診	0		
13.在宅医療	107		
14.ホスピス・緩和ケア	169		

23/46

がん相談支援センターの問い合わせ窓口

記載の有無:入力済/未入力あり

入力済

病院名: 青森県立中央病院

時期・期間: 令和6年9月1日時点

1	相談支援センターの名称	がん相談支持	がん相談支援センター			
2	問い合わせ先電話番号		017-726-8435	(内線)	8435	
	WebサイトのURL		https://aomori-kenbyo.jp/departments/medical-coopera	tion/cancer-	-support/	
3	■対面相談の実施 (実施/未実施)	実施				
3	予約の要否(必要/不要)	不要				
	■電話相談の実施 (実施/未実施)	実施				
	電話番号		017-726-8435	(内線)	8435	
	予約の要否(必要/不要)	不要				
4	■FAX相談の実施 (実施/未実施)	実施				
4	FAX番号		017-726-8162			
	■電子メール相談の実施 (実施/未実施)	未実施				
	メールアドレス ※個人のメールアドレスは記載しないでください					
	■Web会議ツールを活用した遠隔相談の 実施(実施/未実施)	未実施				

入力済

がん相談支援センターの体制

記載の有無:入力済/未入力あり

病院名: 青森県立中央病院

時期·期間: 令和6年9月1日時点

※様式4の回答と齟齬がないようにすること。

注1)「専任」および「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が、「専従」については「8割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者をいう。

注2)常勤とは、原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。

■国立がん研究センターによる「相談支援センター相談員研修・基礎研修」について(がん相談支援センター内の人数)

	対象者	人数				
国立	国立がん研究センターによる「相談支援センター相談員研修・基礎研修」(1)~(3)の修了者数					
	うち相談支援に携わる者の専任の人数(<u>専任</u> かつ <u>専従でない者</u>)(注1)					
	うち相談支援に携わる者の専従の人数(<mark>注1</mark>)	2				
国立	国立がん研究センターによる「相談支援センター相談員研修・基礎研修」(1)および(2)のみの修了者数					
	うち相談支援に携わる者の専任の人数(<u>専任</u> かつ <u>専従でない</u> 者)(注1)	2				
	うち相談支援に携わる者の専従の人数(<mark>注1)</mark>	0				

■定期的な知識の更新のための研修等(がん相談支援センター内の人数)

対象者	人数		
①がん相談支援センターに配置されている相談支援に携わる者のうち、国立がん研究センターによるがん相談支援センター相談員継続研修の受講もしくは「相談支援センター相談員研修・基礎研修」(1)および(2)の再受講をした人数※			
②相談支援に携わる者のうち、上記以外の研修を受講した人数			
②の具体例 AYA世代がんサポート研修会、両立支援コーディネーター研			

[※]がん相談支援センター相談員継続研修は令和5年度より廃止され、「相談支援センター相談員研修・基礎研修」(1)(2)に統一されていま

■がん相談支援センターの体制について

※以下の1~6に該当する人数は必ず記載すること。その他の体制についてはそれぞれ記載すること。 ※専従・専任・その他については、当該の相談支援に携わる者が8割以上当該業務に従事している場合には専従、5割以上 8割未満の

場合には専任、5割未満の場合にはその他としてください。

	職種等	専従/専任/その他(注1)	人数	うち常勤の 人数(<mark>注2</mark>)	両立支援コーディネー ター研修を受講した人 数
例	社会福祉士	専従	3	2	3
例	看護師	専任	2	1	2
1	社会福祉士	専従	1	1	1
2	社会福祉士	専任	1	1	1
3	社会福祉士	その他	0	0	0
4	精神保健福祉士	専従	0	0	0
5	精神保健福祉士	専任	0	0	0
6	精神保健福祉士	その他	1	1	1
7	看護師	専従	1	1	1
8	看護師	専任	0	0	0
9	看護師	その他	1	1	1
10	医療心理に携わる者	専従	0	0	0
11	医療心理に携わる者	専任	0	0	0
12	医療心理に携わる者	その他	0	0	0
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					

22			
23			

■がん患者及びその家族が必ず一度はがん相談支援センターを訪問することができる体制 整備していると回答した場合、記載すること。整備していない場合は、「整備していない」と記入すること。

※必ずしも具体的な相談を伴わない、場所等の確認も含む

がん患者及びその家族ががん相談支援センターを訪問できる体制に関する、具体的な取り組み状況を記入してください。

- ・初診の問診時に問診担当者から相談窓口のリーフレットを手渡し、相談窓口の紹介を行っている。
- ・初回入院児に入院前説明を受けた後にがん相談員が直接相談員の担当者カードを渡してあいさつを行っている。
- ・緊急入院された方は、退院支援担当者から、相談窓口のリーフレットを手渡し、相談窓口の紹介を行っている。
- ■がん相談支援センターの業務内容について、相談者からフィードバックを得る体制

がん相談支援センターの業務内容について、相談者からフィードバックを得る体制に関する、具体的な取り組み状況を記入してください。

院内の患者アンケートの中にがん相談の周知や利用状況を知るための項目を入れて調査を行っている。

院内外のがん患者等からの相談に対応するための連携協力体制の状況

記載の有無:入力済/未入力あり

(複数回答可)

(はい/いいえ)

入力済

病院名: 青森県立中央病院 時期・期間: 令和6年9月1日時点

●就労に関する連携協力体制

①専門家による相談会の開催回数

②専門家の職種(例:社労士、キャリアコンサルタント等を全て記載)

●アピアランスケアに関する連携協力体制

アピアランスに関する相談を院内で対応している

院内でアピアランスケアに関する相談・支援を行っている部署

相談・支援の件数(がん相談支援センターでの件数は除く)

●がん患者の好孕性温存に関する連携協力体制

①相談に対応している部署(例:がん相談支援センター、化学療法室等)

①-1意思決定支援に関わる医療従事者による相談を院内で実施している

①-2意思決定支援に関わる医療従事者による相談を院外に依頼している

②がん患者の妊孕性温存のための生殖医療

②-1がん患者の妊孕性温存のための生殖医療を専門とする自施設内の部門へ紹介した患者の人数

②-2がん患者の妊孕性温存のための生殖医療を専門とする他施設へ紹介した患者の人数

③自治体のがん・生殖医療ネットワークを通じて、生殖医療を専門とする施設に紹介している

③-1紹介先施設名(複数回答可)

④他の自治体のがん・生殖医療ネットワークを通じて、生殖医療を専門とする施設に紹介している

④-1紹介先施設名(複数回答可)

⑤意思決定支援に関わる人材育成を実施している(「いいえ」の場合は⑤-1、⑤-2は「いいえ」を記入ください。

⑤-1研修会を院内で実施している

⑤-2学会等の研修会への参加を励行している

●がん患者の自殺リスクに対する体制

院内で自殺リスクに対する研修を開いている。

●患者サロン等の開催状況

①患者サロンの開催件数

②患者会の開催件数

②-1患者会のうち、オンラインで開催した件数

③サポートグループが主催した研修の開催件数

●がん患者団体との連携協力体制

①連携協力しているがん患者団体数

②連携協力しているがん患者団体

※代表的ながん患者団体のみ記載してください。

※患者団体の参加対象者が特定の疾患に限られていない場合には、「**すべてのがん**」と記載してください。

13 (期間: 令和5年1月1日~12月31日) (親労ナビゲーター (複数回答可)

はい	(はい/いいえ)
かん怕談文援センター 乳がん看護外来 サポーティブケアチーム	(複数回答可)
185	(期間:令和5年1月1日~12月31 日)

がん相談支援センター

はい

	いいん	(はい/いいえ)
		_
	0	(期間:令和5年1月1日~12月31日)
	5	(期間:令和5年1月1日~12月31日)
	はい	(はい/いいえ)
	弘前大学医学部附属病院	(複数回答可)
	いいえ	(はい/いいえ)
		(複数回答可)
。)	はい	(はい/いいえ)
	はい	(はい/いいえ)
	141.)	(1+1 \ /1 \ 1 \ 7 \)

いいえ	(はい/いいえ)
0	(期間:令和5年1月1日~12月31日)
	_
17	

>	※E有団体の参加対象者が特定の決定に限られていない場合には、すってのからに載してください。 ※「紹介の可否」には、患者さんや家族から、その団体について問い合わせがあった際、具体的な紹介ができるかどうかについて記載してください。							
	連携協力しているが	ん患者団体						
	団体名	参加対象者 の疾患名	具体的な連携協力の内容	紹介の可否				
例	00000会	造血器腫瘍	患者会と共同で、月1回、患者サロンを開催している。	可				
例	00000会	乳がん	相談支援センターで、週1回、2名ずつ、ピアサポーターとして活動してもらっている。	可				
例	00000会	すべてのがん	年4回開催している市民講演会の開催への協力、また、演者として参加してもらっている。	不可				
1	日本オストミー協会 青森支部	大腸癌、膀胱癌	青森県がん療養冊子への掲載、院内にパンフレットの設置	可				
2	乳がんピアサポートBECあお もり	乳癌等	青森県がん療養冊子への掲載、月1回の院内がんサロンでピアサポーターとして参加してもらっている、県民公開講座へ演者として参加 してもらった	可				
3	茶和会face	乳癌	青森県がん療養冊子への掲載、会開催のイベントのチラシを院内広報している	可				
4	青森喉友会	頸部、喉頭部	青森県がん療養冊子への掲載、術後声を失った方へ発声法や電気発声器の使用方法について教えてもらっている	可				
5	スマイルあっぷるの会	乳癌	青森県がん療養冊子への掲載、院内にパンフレットの設置、タオル帽子を提供してもらっている	可				
6	北日本若年性がん患者会 The Bright Future	すべてのがん	青森県がん療養冊子への掲載、院内にパンフレットの設置、会の運営に関する相談を受けている	可				
7	メラノーマ患者会 「OverTheRainbow」	皮膚、メラノーマ(全 身)	青森県がん療養冊子への掲載、院内にパンフレットの設置	可				
8	tomoshibi+	小児癌	青森県がん療養冊子への掲載、院内にパンフレットの設置、県内での啓発活動について相談し合っている	可				
9	青森県よろこびの会	すべてのがん	青森県がん療養冊子への掲載	可				
10	血液疾患と歩む患者・家族 の会 まろまろ	血液疾患	青森県がん療養冊子への掲載	可				
11								

28/46 別紙14連携協力体制

がんの診療に関連した専門外来の問い合わせ窓口

記載の有無:入力済/未入力あり入力済

病院名∶▋青森県立中央病院

時期・期間: 令和6年9月1日時点

※ がん診療に関連した専門外来の「対象となる疾患名」の項目は、以下の表の疾患名を用いて記載してください。 表の中に、該当する病名がない場合は、その病名を直接記載してください。 また、すべてのがん種が対象となる場合は、「**すべてのがん**」と記載してください。

頭部/頸部	消化管	泌尿器	女性	その他
脳腫瘍 脊髄腫瘍 眼・眼窩腫瘍 口腔がん 咽頭がん・喉頭がん甲状腺がん	食道がん 胃がん 小腸がん 大腸がん GIST	腎がん 尿路がん 膀胱がん 副腎腫瘍	子宮頸がん・子宮体がん 卵巣がん その他の女性生殖器がん	後腹膜・腹膜腫瘍 性腺外胚細胞腫瘍 原発不明がん
胸部	肝臓 /胆道 /膵臓	男性	皮膚/骨と軟部組織	小児
肺がん	肝かん 胆道がん _ス	前立腺がん 精巣がん その他の男性	皮膚腫瘍 悪性骨軟部腫瘍	小児脳腫瘍 小児の眼・眼窩腫瘍
乳がん 縦隔腫瘍			血液・リンパ	小児悪性骨軟部腫瘍
中皮腫			造血器腫瘍	その他の小児固形腫瘍 小児造血器腫瘍

1. 【ストーマ外来】の問い合わせ窓口

1	1 ストーマ外来が設定されている(はい/いいえ)				
2	2 上記外来の名称 ストーマ外来(外科・泌尿器科)				
3	対象となるストーマの種類		結腸ストーマ		

29/46 別紙15専門外来

4	4 対象となる疾患名	大腸がん、直腸癌、痔がん、膀胱癌、子宮頸がん・子宮体がん、卵巣がん クローン病、潰瘍性大腸炎、消化管穿孔、腸管壊死、痔(がんではないですが対 で記入しました。) *回腸ストーマ(一番多い)、尿路ストーマも外来で対象としている。	象となるの		
į	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている(はい/いいえ) はし				

2. 【リンパ浮腫外来】の問い合わせ窓口

1	リンパ浮腫外来が設定されている	はい	(はい/いいえ) ※リンパ浮腫の研修修了者とは、厚生労働省後援のがんの ビリテーション研修におけるリンパ浮腫研修運営委員会が策						
2	研修を修了した担当者が配置されている※	はい	(はい/いいえ)	た、「専門的なリンパ浮腫研究に関する教育要綱」にそった研 (講義45時間以上)を修了した医療従事者のことをいう。					
3	上記外来の名称	リンパ浮腫外来							
4	対象となる疾患名	原発性リンパ浮腫、続発性リンパ浮腫							
5	リンパ浮腫の診療担当科	外科 婦人科 泌尿器科 総合診療内科							
6	リンパ浮腫の入院治療に対応している	対応していない (対応している/対応していない)							
7	他施設でがんの診療を受けている、または診療を受けていた患者さんを受け入れている(はい/いいえ) はい								

3. 【 禁煙外来 】の問い合わせ窓口

1	禁煙外来が設定されている(はい/いいえ)					
2	上記外来の名称 禁煙外来					
3	他施設でがんの診療を受けている、または診療を受けていた患者さんを受け入れている(はい/いいえ)					

4. 【アスベスト外来】の問い合わせ窓口

1	アスベスト外来が設定されている (はい/いいえ)			
2	上記外来の名称			

30/46 別紙15専門外来

3	他施設でがんの診療を受けている、または診療を受けていた患者さんを受け入れている(はい/いいえ)	
_	一世地域では、いかが深色文が、このではいか深色文が、このでは、こので、こので、こので、こので、こので、こので、こので、こので、こので、こので	

5. 遺伝性腫瘍に関連した専門外来の問い合わせ窓口

1	遺伝性腫瘍外来が設定されている(はい/いいえ)					
2	2 上記外来の名称 臨床遺伝科外来					
3	他施設でがんの診療を受けている、または診療を受けていた患者さんを受け入れている(はい/いいえ) はい					

6. 追加で記載を希望する外来について

1 追加で記載を希望する外来がある場合には、以下に疾患名等の情報を自由に記載してください。							

31/46 別紙15専門外来

院内がん登録部門の体制

記載の有無:入力済/未入力あり入力済

病院名: 青森県立中央病院

時期・期間: 令和6年9月1日時点

※院内がん登録業務に携わっているスタッフを記載してください。

注1)様式4の回答と齟齬がないようにすること。

- -注2) 常勤とは原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の 場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。
- 注3)「専従」および「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が、「専従」については「8割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者をいう。

	資格	診療情報 管理業務の 経験年数 (年)	院内がん 登録業務の 経験年数 (年)	常勤 /非常勤	院内がん登録業務 についての 専従/専任/その他	がん対策情報センターによる院内がん登録 実務 初級者研修会・中級者研修会の修了状況 研修会名・受講状況
例	診療情報管理士	4	2	常勤	専従(8割以上)	初級認定者(みなし含む)
例	なし	1	1	非常勤	専任(5割以上8割未満)	初級認定試験・受験なし
1	診療情報管理士	0	14	非常勤	専従	中級認定者
2	診療情報管理士	0	13	非常勤	専従	初級認定試験・受験予定
3	診療情報管理士	0	11	非常勤	専従	中級認定者
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						

臨床試験・治験の実施状況および問い合わせ窓口

記載の有無・	入力済/未入力あり
	/\/JJ <i>IJ</i> H / /\/J\/JJ <i>U</i> J\/

入力済

病院名:	青森県立中央病院

1. 臨床試験・治験の問い合わせ窓口

令和6年9月1日時点

1)【臨床試験(治験を除く)】の問い合わせ窓口

	■臨床試験に参加し	て担	担当している診療科が窓口となっている									
	※臨床試験専用の窓	※臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。										
	問い合わせへ対応し	窓口		電話		FAX		電子メール				
	窓口の名称	7	(各診療科名)									
1	上記の窓口の説明が 掲載されているペー ジの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せ ずにホームページからコ	見出し										
	ピーしてください	アドレス										
	電話番号				(内線)						
	■臨床試験に参加し	つせ窓口について				窓口はない						
	※臨床試験専用の窓	ごさい 。										
	問い合わせへ対応し	ている方法	法に〇をつけてください。	窓口		電話		FAX		電子メール		
	窓口の名称	<u>r</u>										
2	上記の窓口の説明が掲載されているページの見出しとアドレス※アドレスは、手入力セ	見出し										
	ずにホームページからコ ピーしてください	アドレス										
	電話番号					(内線)					

2) 【 治験】の問い合わせ窓口

۷)	2) 【治験】の問い合わせ窓口											
	■治験に参加してい	ない、地域	或の患者さんやご家族向けの問い?	合わせ窓口	につい	て		治験	専用の	窓口がある		
	※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。									_		
	問い合わせへ対応し	窓口	0	電話	0	FAX	0	電子メール	0			
	窓口の名称	7	青森県立中央病院 治験管理室									
1	上記の窓口の説明が 掲載されているペー ジの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せ	見出し	患者さんへ	見者さんへ								
	ずにホームページからコ ピーしてください	アドレス	https://aomori-kenbyo.jp/departr	ments/clin	ical-tria	l∕for–tı	rial-pat	ient/#ipp	an1			
	電話番号		017-726-8394 (内総					線) 8394				
	■治験に参加していない、地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について 窓口はない							はない				
	※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。											
	問い合わせへ対応し	ている方	法に〇をつけてください。	窓口		電話		FAX		電子メール		
	窓口の名称	T										
2	上記の窓口の説明が 掲載されているペー ジの見出しとアドレス ※アドレスは、手入カセ	見出し										
	ずにホームページからコ ピーしてください	アドレス										
	電話番号				()	内線)						

院内のチーム医療の提供体制

記載の有無:入力済/未入力あり入力済

病院名: 青森県立中央病院

令和6年9月1日時点

1	(がん患者の身体的苦痛や精神心理的苦痛、社会的な問題等の把握及びそれらに対する適切な対応を、診断時から一貫して行っており、緩和ケアに関する診療報酬の項目が算定できる体制であること)	はい
2	院内に口腔ケアチームが設置されている。 (周術期等口腔機能管理に関する項目が算定できる体制であること。)	はい
3	院内に栄養サポートチームが設置されている。 (診療報酬の栄養サポートチーム加算が算定できる体制であること。)	はい
4	院内に感染防止対策チーム(感染制御チーム)が設置されている。 (感染対策に関する診療報酬の項目が算定できる体制であること。)	はい
5	院内に摂食嚥下支援チームが設置されている。 (診療報酬の摂食嚥下機能回復体制加算等が算定できる体制であること。)	いいえ
6	院内にリハビリテーションチームが設置されている。 (診療報酬のがん患者リハビリテーション料が算定できる体制であること。)	はい
7	院内に排尿ケアチームが設置されている。 (診療報酬の外来排尿自立指導料が算定できる体制であること。)	はい
8	院内に精神科リエゾンチームが設置されている。 (診療報酬の精神科リエゾンチーム加算が算定できる体制であること。)	はい

医療安全管理等の体制について

記載の有無:入力済/未入力あり 入力済

病院名:	青森県立中央病院
時期•期間:	令和6年9月1日時点

①-1 医療安全管理部門が配置されている。

i de la companya de		-
	はい	(はい/いいえ

①-2 医療安全管理部門がある場合に、そのメンバーについて記載してください。(①-1が"はい"の場合のみ、①-2に回答してください。) 注1)研修医は除いてください。

注2) 常勤とは、原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。

注3)「専従」および「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が「専従」については「8割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者をいいます。

注4)「医療安全管理者の業務指針および養成のための研修プログラム作成指針」(平成19年3月30日付け医政発0330019号厚生労働省医政局長通知及び薬食発第 0330009号厚生労働省医薬食品局長通知)に基づく研修を想定しています。

	職種(注1) 常勤 専従/専任		医绷	寮安全に関する研修の受講状況(注	(4)		
		職種(注1)	/非常勤 <mark>(注2)</mark>	/その他 <mark>(注3)</mark>	受講した研修名	研修主催者名	修了日
1	部門長	医師	常勤	その他(5割未満)	医療安全管理者養成研修会	一般社団法人医療の質安全学会	H30.9.1
2		看護師	常勤	専従(8割以上)	医療安全管理者養成研修会	青森県看護協会	R1.12.5
3		看護師	常勤	専従(8割以上)	医療安全管理者養成研修会	青森県看護協会	R3.10.29
4	1	看護師	常勤	専従(8割以上)	医療安全管理者養成研修会	青森県看護協会	R5.9.17
5		薬剤師	常勤	専任(5割以上8割未満)	医療安全管理者養成研修会	医療安全全国共同行動	R5.9.17
6		その他	常勤	その他(5割未満)	医療安全管理者養成研修会	一般社団法人医療の質安全学会	R2.1.12
7							
8							
9	П						
10	П						
11	П						
12	II						
13	ll						
14							_
15							

②第三者による評価に関する状況について記載してください。 要件充足としては、JCI、ISO9001、日本医療機能評価機構 病院機能評価のみ該当と整理している。 第三者による評価を受けていない場合は、「受審なし」と記入ください。また、最終評価日は最終受審年月日(初日のみで構いません)を記入ください。

	活用した第三者評価	最終評価日	有効期間 (定められている場合のみ記
例	JCI	平成31年〇月〇〇日	令和7年〇月〇〇日
例	ISO9001	令和2年〇月〇〇日	令和7年〇月〇〇日
例	日本医療機能評価機構 病院機能評価	平成30年〇月〇〇日	令和7年〇月〇〇日
1	日本医療機能評価機構 病院機能評価	R2.2.7	R7.1.23
2			
3			
4			
5			

緩和ケアセンターのメンバー(医師および医師以外の診療従事者)

記載の有無:入力済/未入力あり

入力済

病院名: 青森県立中央病院

時期・期間: 令和6年9月1日時点

緩和ケアセンターのメンバーについて記載してください。なお、別紙8緩和ケアチームのメンバーを含めて記載して構いません。

※様式4の回答と齟齬がないように記載してください。

注1)研修医は除いてください。

注2)常勤とは、原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、

32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常動とする。 注3)「専従」および「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が「専従」については「8割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務 に従事している者をいいます

に仕事している者をいいます。 注4)ジェネラルマネージャーは、緩和ケアセンターの機能を管理・調整する常勤・専従、かつ院内において管理的立場の看護師であること。 注5)相談支援に携わる者については、相談支援センターの相談支援に携わる者との兼任および、相談支援センター内にて当該業務に従事することを可とする。ただし、この場合の専任とは、緩和ケアセンターにおける相談支援業務を中心となって担当していればよく、その就業時間の5割以上を緩和ケアセンターにおける相談支援業務に従事していることは求めない。

1. 緩和ケアセンターが設定されている (はい/いいえ)

はい

2. 緩和ケアセンターの医師について(注1)

	役割	人数	診療科の内訳	
例	身体症状の緩和に携わる医師	3	麻酔科2名(※内1名は緩和ケアセンター長)、消化器外科1名	
	身体症状の緩和に携わる医師	3	緩和医療科2名(うち1名は緩和ケアセンター長)、呼吸器内科1名	※都道府県がん診療連携拠 点病院は、1名以上配置必須
	精神症状の緩和に携わる医師	1	メンタルヘルス科	※都道府県がん診療連携拠 点病院は、1名以上配置必須

3. 緩和ケアセンターの看護師について(ジェネラルマネージャーおよび専門資格を有する者のみ記載してください。)

_	し、板がファビング の有肢的について	(V = 1 272 (1) 2	1 0000 110011	E H F WH WW/ BLAKE C CYCEV'S /	•
	センターでの役割	常勤/ 非常勤 <mark>(注2</mark>)	専従/専任 /その他(注3)	専門資格 (がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師等)	
1	ジェネラルマネージャー(注4)	常勤	専従(8割以上)	認定看護管理者	※都道府県がん診療連携拠 点病院は、1名以上配置必須
2	ジェネラルマネージャーではない看護 師	常勤	専従(8割以上)	がん看護専門看護師	※都道府県がん診療連携拠
3	ジェネラルマネージャーではない看護 師	常勤	専従(8割以上)	がん性疼痛看護認定看護師	点病院は、2名以上配置必須
4	ジェネラルマネージャーではない看護 師	常勤	専従(8割以上)		
ŧ	師				
(ジェネラルマネージャーではない看護 師				
-	, ジェネラルマネージャーではない看護 師				

4. 薬剤師について

	·· Marineti				
	センターでの役割	常勤/ 非常勤(<mark>注2)</mark>	専従/専任 /その他(注3)	専門資格 (がん専門薬剤師、がん薬物療法認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師 等)	
1	薬剤師	常勤	その他(5割未満)		※都道府県がん診療連携拠点病院は、1名以上配置必須
2	薬剤師	常勤	その他(5割未満)	緩和薬物療法認定薬剤師	
3	薬剤師	常勤	その他(5割未満)		

5. 専任の緩和ケアセンターにおける相談支援業務に携わる者について(注5)

	センターでの役割	常勤/ 非常勤(<mark>注2</mark>)	専従/専任 /その他 <mark>(注3)</mark>	専門資格	
1	専任の緩和ケアセンターにおける相談 支援業務に携わる者		専任		※都道府県がん診療連携拠点病院は、1名以上配置必須
2	専任の緩和ケアセンターにおける相談 支援業務に携わる者		その他(5割未満)	公認心理師	

3	専任の緩和ケアセンターにおける相談 支援業務に携わる者		

6. 緩和ケアセンターの医師・看護師・薬剤師・専任の緩和ケアセンターにおける相談支援業務に携わる者以外の診療従事者について

	職種	常勤/ 非常勤(<mark>注2</mark>)	専従/専任 /その他(<u>注</u> 3)	専門資格(取得している場合)
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				

特定のがん種に対する集学的治療提供体制について

記載の有無:入力済/未入力あり/不要

不要

特定領域がん診療連携拠点病院が記入

病院名: 青森県立中央病院

期間: 令和5年1月1日~12月31日

特定のがん種に対する集学的治療提供体制について、都道府県内で最も多くの患者を診療していることを明記し、必要に応じ図等をよりやすく説明してください。 このシートのほかに資料がある場合は、ファイル名の頭に別紙22を付けた電子ファイル、別添資料を提出すること。 別添資料の提出有無ファイル形式 (ワード/エクセル/パワーポイント/その他) その他の場合ファイル形式を記載してください。	用いわか
特定のがん種 年間新入院患者数 年間新入院患者数に占める当該がん患者の割合 年間外来当該がん患者ので数 年間院内死亡当該がん患者数 当該がんに係る年間の手術件数 当該がんに対する年間の化学療法件数 ※経口、静注または皮下注射による全身投与を対象とし、件数については1レジメンあたりを1件として計上する。 当該がんに係る年間の放射線治療件数 ※複数部位照射する場合でも、一連の治療計画であれば1件として計上する。	
特定のがん種 年間新入院患者数 年間新入院患者数に占める当該がん患者の割合 年間外来当該がん患者のべ数 年間院内死亡当該がん患者数 当該がんに係る年間の手術件数 当該がんに対する年間の化学療法件数 ※経口、静注または皮下注射による全身投与を対象とし、件数については1レジメンあたりを1件として計上する。 当該がんに係る年間の放射線治療件数 ※複数部位照射する場合でも、一連の治療計画であれば1件として計上する。	
特定のがん種 年間新入院患者数 年間新入院患者数 年間新入院患者数に占める当該がん患者の割合 年間外来当該がん患者のべ数 年間院内死亡当該がん患者数 当該がんに係る年間の手術件数 当該がんに対する年間の化学療法件数 ※経口、静注または皮下注射による全身投与を対象とし、件数については1レジメンあたりを1件として計上する。 当該がんに係る年間の放射線治療件数 ※複数部位照射する場合でも、一連の治療計画であれば1件として計上する。	

がん診療連携拠点病院等との連携診療体制について

記載の有無:入力済/未入力あり/不要

不要

特定領域がん診療連携拠点病院が記入

病院名: 青森県立中央病院

時期·期間: 令和6年9月1日時点

緊急な治療が必要な患者や合併症を持ち高度な周術期管理が必要な患者に対するがん診療連携拠点病院等と連携による診療体制について、必要に応じ図等を用いわかりやすく説明してください。

このシートに貼付することが難しい場合、ファイル名の頭に別紙23を付けた電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無	(あり/		- U.	
ファイル形式 その他の場合ファイル形3		/エクセル/パワーポイント/ 	その他)	
その他の場合ファイル形式	八を記載してくたさい。			
【緊急な治療が必要な患者や	合併症を持ち高度な周術期	管理が必要な患者に対する	がん診療連携拠点病院	等と連携による
診療体制】				

特定領域がん診療連携拠点病院の人材交流について

記載の有無:入力済/未入力あり/不要

不要

特定領域がん診療連携拠点病院が記入

病院名: 青森県立中央病院

時期・期間: 令和5年1月1日~12月31日

※他の拠点病院等との人材交流計画について記載してください。

※個人名やPHSの番号が記載されていないことをご確認ください。

	受入/派遣	期間	職種	(受入元/派遣先)医療機関名	専門分野
例	受入	令和5年4月1日~9月30日	看護師	XX病院	がん看護認定看護師
例	派遣	令和5年10月1日~12月31 日	医師	YY病院	上部消化器外科
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

グループ指定の状況

記載の有無:入力済/未入力あり/不要	不要

病院名: 青森県立中央病院

地域が	ん絵	磨病院	が記入
-6-3410	10 B	INC. IF S FUL	70 HD / 1

■グループ指定のがん診療連携拠点病院との定期的なカンファレンスの開催実施件数 期間: 令和5年1月1日~12月31日

■ 5	「ループ指定を受け	るがん診療連携拠点病院との連携と	
	がん医療圏名	医療機関名	連携内容(がんの種類と役割分担)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

グループ間の人材交流計画について

記載の有無:入力済/未入力あり/不要

不要

病院名: 青森県立中央病院

時期・期間: 令和5年1月1日~12月31日

地域がん診療病院が記入

※グループ指定施設間での人材交流計画について記載してください。

※個人名やPHSの番号が記載されていないことをご確認ください。

	受入/派遣	HSの番号が記載されていないと 期間	(受入元/派遣先)医療機関名	専門分野
例	受入	令和5年4月1日~9月30日	XX病院	消化器外科
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

グループ指定の状況

がん診療連携拠点病院が記入

記載の有無:入力済/未入力あり/不要

入力済

病院名: 青森県立中央病院

■グループ指定を受ける地域がん診療病院との連携と役割分担の状況

■ 5	ブループ指定を受け	る地域がん診療病院との連携と役割	分担の状況 時期・期間:令和6年9月1日時点
	がん医療圏名	医療機関名	連携内容(がんの種類と役割分担)
1	上十三地域	十和田市立中央病院	肺がん等の手術治療や希少がんの診療について連携体制を構築している。 乳がん、卵巣がん、前立腺がん、膵臓がん患者に対する遺伝カウンセリング実施の協力体制を構築している。
2	下北地域	むつ総合病院	脳腫瘍等の治療や希少がんの診療について連携体制を構築している。 ゲノム医療について診断及び遺伝カウンセリング実施の協力体制を構築している。
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

はい

はい ハいえ

はい

はい

はい

都道府県協議会の内容

記載の有無:入力済/未入力あり/不要 入力済 病院名: 青森県立中央病院

都道府県がん診療連携拠点病院が記入

※同一都道府県に複数の都道府県がん診療連携拠点病院が整備されている場合は、都道府県内で回答内容に齟齬が生じないよう

時期・期間: 令和5年4月1日~令和6年3月31日

- ●令和5年度に開催した都道府県協議会について記載してください。

(1)患者本位のがん医療を実現する等の観点から、当該都道府県における対策を強力に推進するための議論を行った。 (2)都道府県全体のがん医療等の質の向上のために、都道府県内のどこに住んでいても適切な診断や治療にスムーズにアクセスできる体制を確保すべく、以下の議論を行った。 ① 地域の実状に応じて、医療機関間の連携が必要な医療等について、都道府県内の各拠点病院等及び他のがん診療を担う医療機関における役割分担を整理・明確化し、その内容を関係者間で共有するとともに広く周知した。 都道府県レベルで役割分担すべき項目(※)について議論した。

- ②地域がん診療病院とがん診療連携拠点病院とのグループ指定の組み合わせを調整・決定した。
 ③ 都道府県内の拠点病院等の院内がん登録のデータやがん診療、緩和ケア、相談支援等の実績等を共有、分析、評価、公表等を行った。
 各都道府県とも連携し、Quality Indicatorを積極的に利用するなど、都道府県全体のがん医療の質を向上させるための具体的な計画を立案・実行した。
 院内がん登録実務者の支援を含めて都道府県内のがん側連情報収集や利活用等の推進に取り組みだ。
 ④ 地域における相談支援や緩和ケアの提供体制・連携体制について協議を行い、拠点病院等の間で情報共有や役割分担を含む連携体制を整備した。
 ⑤ 当該都道府県における特定機能病院である拠点病院等と連携し、地域におけるが心診療に従事する診療従事者の育成及び適正西置に向けた調整を行った。
 ⑥ 整維性をは、四への(20)に基づき、共変対の作用における場合を発生を発生のなるのでは、対して関すると呼ばれると呼吸を対象した。

- ⑥ 整備指針Ⅱの4の(3)に基づき当該都道府県における拠点病院等が実施するがん医療に携わる医師等を対象とした緩和ケアに関する研修やその他各種研修に関する計画を作成している。
- ⑦ 当該都道府県内の医療機関における診療、緩和ケア外来、がん相談支援センター、セカンドオピニオン、患者サロン、患者支援団体、在宅医療等へのアクセスについて情報を集約し医療機関間で共有するとともに、冊子やホームページ等でわかりやすく広報している。

- アグゼスについて情報を集新した旅機関側に失れす。ることも、mm・マホーム・・ファ・マカル・ファ・ストスにしている。
 圏 国協議会との体系的な連携体制を構築している。⑨ 国立がん研究センターによる研修に関する情報や国協議会での協議事項が確実に都道府県内で共有・実践される体制を整備している。⑩ 感染症のまん延や災害等の状況においても必要ながん医療を提供する体制を確保するため、当該都道府県や各がん医療圏におけるBCPについて議論を行った。⑪ 地域における医療情報の共有の取組について、がんの分野からも検討し、体制整備に取り組んでいる。

【参考】

●令和5年4月1日~令和6年3月31日に開催した都道府県協議会の参加者について

同一都道府県内の全ての拠点病院等が参加した

間が見れている。 都道府県庁等の行政の参加があった 拠点病院等以外の地域のがん診療を行う者の参加があった

はい
1+1 \
10.0
いいえ

●都道府県協議会の広報体制について

●前退府採励應表の仏報体制にしい、 都道府県協議会についてわかりやすく広報を行うためのWebサイトがある。 Webサイトや、冊子等で、都道府県協議会で議論された内容を広報している。

WebサイトのURL

	はい
https://aomori-kenbyo.jp/ganshinr	yo/

- ●令和5年4月1日~令和6年3月31日に開催した都道府県協議会での議論の内容について 都道府県協議会の議題や議事録等、議論の内容がわかる資料を提出すること。(ファイル名の頭に別紙28を付けること)
- (※)都道府県レベルで役割分担すべき項目は以下である。
- - クがん・生殖医療(別途実施されている「小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業」におけるがん・生殖医療ネットワークと協働して実施。)ケがんゲノム医療

議論・検討した
議論・検討していない
議論・検討していない
議論・検討した
議論・検討していない
議論・検討していない
議論・検討した
議論・検討した
議論・検討した

地域連携の推進体制(歯科との連携)について

記載の有無:入力済/未入力あり

入力済

病院名: 青森県立中央病院

時期: 令和6年9月1日時点

地域連携の推進体制のうち、歯科との連携について、必要に応じて図等を用いてわかりやすく説明してください。 このシートのほかに資料がある場合は、ファイル名の頭に別紙Oを付けた電子ファイル、別添資料を提出すること。

1. 院内の口腔ケアチームのメンバーの職種及び人数について

院内に口腔ケアチームを設置している場合、記入すること。

地域の歯科医師等と連携している際は、そのことがわかるように備考欄に記入をお願いします。

	職種	人数	備考欄:院外との連携の際は連携先を記載ください(例:郡市歯科医師会と連携/近隣の歯科医師と個別に連携 等) なお、特段記載事項がない場合は空欄としてください。
例	歯科医師	2	近隣の歯科医師と個別に連携
1	歯科医師(院内)	6	近隣歯科にも紹介し個別連携している
2	歯科衛生士(院 内)	8	
3	看護師(院内)	1	
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			

_	4E 74 1 6	\+ 1# LL #		
2.	圏科との	埋锈体制	訓の有無	について

(1)	院内に歯科の診療科がある。 (はい/いいえ)	はい	
(2)	口腔機能が低下したがん患者に対して口腔機能の評価や改善のために歯科との連携体制を構築している。 (院内の歯科医師と連携体制を構築/地域の歯科医師と連携体制を構築/院内及び地域の歯科医師と連携体制を構築/連携体制を構築していない)	院内及び地域の歯科医師と連携体制を構築	
(3)	周術期におけるがん患者の口腔健康管理について歯科との連携体制を構築している。 (院内の歯科医師と連携体制を構築/地域の歯科医師と連携体制を構築/院内及び地域の歯科医師と連携体制を構築/連携体制を構築していない)	院内及び地域の歯科医師と連携体制を構築	
(4)	栄養サポートチームに歯科が参加する連携体制を構築している。 (院内の歯科医師と連携体制を構築/地域の歯科医師と連携体制を構築/院内及び地域の歯科医師と連携体制を構築/連携体制を構築していない)	院内及び地域の歯科医師と連携体制を構築	
(5)	緩和ケアチームに歯科が参加する連携体制を構築している。 (院内の歯科医師と連携体制を構築/地域の歯科医師と連携体制を構築/院内及び地域の歯科医師と連携体制を構築/連携体制を構築していない)	院内及び地域の歯科医師と連携体制を構築	
(6)	上記(2)~(5)において地域の歯科医師と連携体制を構築している場合、連携している地域(院外)の歯科医療機関数	220	施設
(7) 上記(2)~(5)において歯科と連携体制を構築している場合、どのような連携体制を構築しているかそれぞれ記載してください。			
当院のがん患者の大多数は歯科口腔外科に紹介があり、当科で約半数以上の患者は地域に紹介している			
(8) 上記(2)~(5)以外において歯科と連携体制を構築している場合、どのような連携体制を構築しているか記載してください。			